

厚生労働科学研究費補助金（第3次対がん総合戦略研究事業）

(総合)研究報告書

「がんの診療科データベースと Japanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用」

(H22-3 次がん-一般-043)

研究代表者 沼崎 穂高 大阪大学大学院医学系研究科 助教

研究要旨 臨床治療面を重視した全国がん診療評価システムの構築と運用、診療科 DB 整備、臓器別、院内・地域がん登録との情報共有、院内情報システムへの装填、放射線治療標準登録策定、治療装置間連携、がん登録法制化可能性の検討を目的とする。H22年～H25年度までに以下の研究を行った。院内/地域がん登録とのデータ連携: 院内がん登録支援ソフトウェア Hos-CanR とのデータ連携性を確認した。臓器別がん登録との連携: 食道癌全国登録の支援継続。他 4 疾患も各論 DB 調査項目策定で協力を得た。治療 RIS へ本 DB フォーマット装填: IHE-JRO、開発企業と連携して協議した。日本版 ATC 構築: 治療計画データの集積、検証、閲覧システムの開発、運用を行った。JNCDB 改訂: 基本 DB 項目を再検討し、現状に沿った項目に改訂した。放射線治療症例全国登録の feasibility study: 本格運用に向けた feasibility study を行った。全国放射治療施設定期構造調査: 2010 年のデータを公開した。がん登録法制化検討: 学会 HP でがん登録の情報公開を行った。

分担研究者氏名・所属機関名及び所属機関における職名

手島 昭樹	大阪大学大学院	招へい教授
三木 恒治	京都府立医科大学大学院	教授
日月 裕司	国立がん研究センター	科長
笠松 高弘	国立がん研究センター	科長
木下 貴之	国立がん研究センター	科長
呉屋 朝幸	杏林大学	教授
山内 智香子	滋賀成人病センター	科長
宇野 隆	千葉大学大学院	教授
中村 和正	九州大学大学院	准教授
角 美奈子	国立がん研究センター	医長
戸板 孝文	琉球大学大学院	准教授
古平 毅	愛知がんセンター	部長
権丈 雅浩	広島大学大学院	助教
小川 和彦	大阪大学大学院	教授
鹿間 直人	埼玉医科大学	教授
大西 洋	山梨大学医学部	教授
小泉 雅彦	大阪大学大学院	教授
安藤 裕	重粒子医科学センター病院	病院長
中川 恵一	東京大学大学院	准教授
塚本 信宏	さいたま赤十字病院	部長
小塚 拓洋	癌研有明病院	副部長
寺原 敦朗	東邦大学医療センター	教授
佐々木 茂	信州大学大学院	助教

A. 研究目的

がん治療の3本柱の一つである放射線治療の推進はがん対策推進基本計画の中でも重点課題として挙げられている。放射線治療分野では技術の高度化、患者数増加により詳細な治療情報が大量に発生しているが、情報標準化はなされていない。先行研究 (H16-3 次がん-039、H19-3 次がん-一般-038) で放射線治療部門 DB の標準登録様式を策定し、全国的なデータ収集・分析が行える JNCDB を構築し、JASTRO HP¹ から (<http://www.jastro.or.jp/>) から DL 可能とし、随時改訂作業を行っている。さらに IHE-JRO WG² と連携して治療 RIS (Radiation Information System) への JNCDB フォーマットの装填開発を進めている。

本研究では JNCDB の実運用すなわち全国的な診療、特に治療の質の評価のためのデータ収集・分析を行い、施設に還元する。さらに診療科 DB (臓器別がん登録) の標準化、院内、地域がん登録とのデータ連携を進め、入力重複の現場負担を軽減し、データの質向上を図る。米国ではがん登録は法制化されている。臓器別がん登録にあたる NCDB (National Cancer Database) 地域がん登録にあたる SEER (Surveillance Epidemiology and End Result) と NPCR (National Program of Cancer Registries) は標準様式が決まっている。日本では院内、地域がん登録は厚生労働省の政策で標準化が進められている。NCDB は治療結果だけではなく、診療過程や施設構造のデータも収集し、がん診療の質の評価、施設認定に利用されており、米国のがん診療の司令塔として重要な役割を果たしている。日本では臓器別がん登録が詳細な診療データを収集しているが、データ元となる診療科 DB とともに標準化が進んでいない。診療科 DB に標準化部分を組み込むことで JNCDB を含む臓器別がん登録の詳細データを日本のがん診療の質評価に利用できる。全国の放射線治療構造データを収集する学会 Web 登録システムは先行研究で完成した。

1 JASTRO HP

日本放射線腫瘍学会 (Japanese Society for Therapeutic Radiology and Oncology) ホームページ (<http://www.jastro.jp/>)

2 IHE-J RO WG

日本 IHE 協会 放射線治療企画/技術委員会 (Integrating the Healthcare Enterprise - Japan Radiation Oncology Working Group) 標準規格を用いた医療機器の情報連携、統合を目指して発足したプロジェクト。日本では 2005 年から IHE-J が発足し、2006 年 2 月から日本における放射線治療分野の活動を IHE-J RO として開始している。

B. 研究方法

1) 院内/地域がん登録とのデータ連携

JNCDB 登録ソフトと院内がん登録支援ソフト Hos-CanR Plus とのデータ連携実験を行う。

2) 臓器別がん登録との連携

食道癌全国登録の支援を継続し、登録システムを診療科 DB として活用しやすいシステムに改良する。他疾患との連携では JNCDB 調査項目策定に協力を得る。

3) 治療 RIS への JNCDB format の装填

日本 IHE 協会放射線治療企画・技術委員会と連携して、治療 RIS から HIS への治療サマリの標準化を現在行っている。治療 RIS 内の DB 項目に JNCDB 基本 DB 項目を網羅するため、治療 RIS 開発企業へ働きかける。

4) 日本版 ATC (Advanced Technology Consortium) ³ の構築

放射線治療計画データの集積・検証・閲覧システムの開発を行う。さらに、実データを用いたテスト運用を行う。

3 ATC

Advanced Technology Consortium (先端技術協会) の略で、米国で RTOG (Radiation Therapy Oncology Group) などの前向き臨床試験の治療計画の正確性を遠隔あるいはセンターで Study 事務局の放射線腫瘍医や物理士が評価できる仕組みである。これらの大規模臨床試験の品質保証の根幹を担う重要なグループであり、ワシントン大学の医学物理士が開発した。

5) JNCDB 改訂

対象 5 疾患（乳癌、子宮頸癌、食道癌、肺癌、前立腺癌）の JNCDB 疾患固有部分（各論 DB）の疾患固有部分（各論 DB）のデータ項目を、症例全国登録を視野に入れ順位付けを行う。データ入力側の負担の大幅軽減も目的とし、各論 DB の改訂作業を行う。疾患共通部分である基本 DB の項目内容を再検討する。現状の治療に沿った項目に改訂するとともに入力ソフトウェアを開発する。さらに放射線治療専門医申請の実績として評価可能な 22 項目を設定し、入力ソフトウェアを開発・装填する。学会 HP に公開する。

6) 放射線治療症例全国登録

放射線治療症例全国登録の feasibility study を行う。また、データセンターを放射線医学総合研究所に移管するための準備を行う。さらに、放射線医学総合研究所倫理委員会、学会倫理委員会へ申請準備を行う。学会 DB 委員会、と連携し、本格運用の準備を進める。

7) 全国放射治療施設定期構造調査

学会 DB 委員会と協力して放射治療施設定期構造調査を行う。調査結果の学会 HP への一般公開を行う。

8) がん登録法制化検討

先行研究からのがん登録法制化検討チームを継続する。がん登録の法制化検討の一助としての普及啓発活動を行う。JASTRO の JNCDB 登録 HP で本年度中にがん登録の情報公開(JNCDB の

調査項目等)を行う。引き続き国民に対してがん登録の重要性を発信し、民意でのがん登録法制化を働きかける。

(倫理面への配慮)

- 標準フォーマットの策定、DB システム開発では、個人情報取り扱い扱わない。
- 全国的なデータ収集・分析（JNCDB の運用）では、先行研究（H16-3 次がん-039）において、申請者の所属機関（大阪大学医学部）の倫理委員会の承認を得ているので、本研究では継続申請を行う。
- JNCDB の試験運用では個人情報を削除したデータ収集するため、倫理的な問題は発生しない。
- 個人情報を連結不可能匿名化してデータを収集するため、施設側で倫理審査を受ける必要はないが、要望があった場合に対応できるように、下記項目を盛りこんだ倫理審査申請書を準備しておく。
 - 個人情報は集積しないため、インフォームドコンセントを受ける必要はない。研究の実施をポスターにより提示する。また、研究対象者に不利益は生じない。
 - データの管理に関して、情報保護規約を策定し、研究班として遵守する。
 - 全体の研究成果については、学会論文発表、Web を通じて定期的に行う。

以上の最終責任は主任研究者が負う。

C. 研究結果

1) 院内/地域がん登録とのデータ連携

JNCDB 登録ソフトウェアと院内がん登録支援ソフトウェア Hos-CanR Plus と

のデータ連携について、実際の登録データにてデータの連携が可能であることを確認した(図1)。

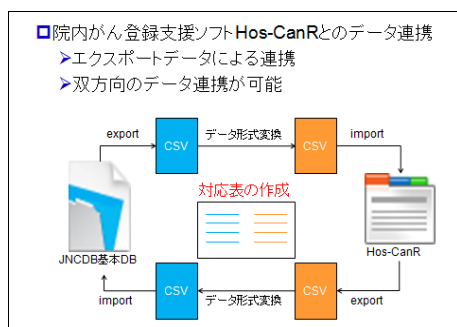


図1. 院内/地域がん登録とのデータ連携

これにより施設内での情報共有が容易になり、施設単位でのがん診療情報体系の信頼性と診療の質が向上する。また施設から精度の高い情報が上がる仕組みは地域がん登録のデータ精度をさらに向上させる。

2) 臓器別がん登録との連携

臓器別がん登録との連携ではJNCDBの調査項目の改訂で協力を得た。さらに各臓器別がん登録との情報共有を進めた。

- 乳がん全国登録**
登録業務は順調に経過し、現在、2009年度初発乳癌症例40,817例(626施設)の集積を終了し、2012年2月にデータを確定版として公開した。学会の乳癌登録をさらに広めるため、2011年度より施設認定にがん登録をリンクさせ義務化することとなった。2012年6月には、2004年度登録症例の5年後予後解

析結果報告書を公表した。予後調査の協力施設は126施設、登録症例は7,241例、48.9%であり、旧システムの予後判明率よりも改善がみられた。また、乳腺専門医制度の申請資格とも関連して、2011年1月より開始したNational Clinical Database(NCD)との一部連携を2011年度より開始し、2012年度からはNCDへ完全に移行した。

- 食道癌全国登録**
食道癌全国登録の支援を継続した。研究班としてシステム開発、統計業務を担当した。4年間で6年分の症例登録とデータ解析を行った(2003, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008年症例)。調査年ごとに報告書を作成し、日本食道学会英文学会誌「Esophagus」に掲載した。
- 子宮頸癌全国登録**
臓器がん登録データを用いて我が国の子宮頸癌治療患者の最近の動向を分析した。進行期では0期(上皮内癌)患者の占める割合が増加し、頸癌治療患者の58%を占めるようになった。組織型では腺癌の割合が3倍に増加した。治療法ではIIB期の治療において手術療法より放射線治療の占める割合が増加した。
- 肺癌全国登録**
日本における主要施設における肺癌症例を登録し、登録に関する研究を行った。1999年外科切除肺癌

13,010 例を 2006 年に解析して発表した。2002 年前向き全肺癌登録(14,695 例)の 5 年経過例の解析をして論文化した。外科切除例(8,344 例)のみならず非切除例(5,630 例)の解析ができたことにより、新たな知見が得られた。

・ 前立腺癌全国登録

本年度は前立腺癌の全国登録は行っておらず、日本泌尿器科学会登録推進委員会では、2000 年、2001 年、2005 年時に新規に診断された腎盂尿管癌と 2005 年、2008 年に新規に診断された、精巣腫瘍の登録症例の統計学的解析を日本泌尿器科学会にて行った。さらに腎細胞癌に関して全国的な癌登録ならびに腎がんプログラム作成ワーキンググループを発足させた。

4 NCD (National Clinical Database)

外科手術登録データベースであり、日本外科学会が 2011 年 1 月から稼働させている。2011 年 9 月時点で参加施設数約 2,200、登録ユニット数約 3,700、登録ユーザー数約 12,500 で毎月約 5 万症例が登録されている。外科医不足が喫緊の課題となっている一方で、外科医の適正配置と質についても問われていることから外科医が関与している外科手術を体系的に把握するため、日本外科学会を基盤として消化器外科学会などの各サブスペシャリティーの学会が協議して外科専門医制度と連携した外科症例登録のデータベース事業である。外科医は一症例につき一度の手術(症例)登録のみで複数の専門医制度への登録を行うことが可能となる。外科手術に必須となる共通登録項目は 10 項目となっている。システムは 1 症例ごとに、A. 統計的調査(10 項目)、B. 医療評価調査(50~200 項目)、C. 臨床研究(数項目~数百項目)までの入力が可能になるように構築され、保険改訂も視野においた利用が検討されている。

3) **治療 RIS への JNCDB format の装填**

IT 小作業部会を開催し 治療

RIS(radiology information system)内の DB との整合性を取っている。治療 RIS に JNCDB の基本 DB や各論 DB を装填するよう治療 RIS 開発企業への働きかけを継続して行った。すでにかなり組み込まれ、データは自動提出される仕組みとなってきた。さらに IHE-JRO で以下の項目を検討した。放射線治療情報の報告、保管、参照 放射線治療関係コードと関連を調査した。厚生労働省の標準規格である JJ1013 の放射線治療関係のコード体系が、各施設の運用上問題がないか独自に検討を行っている。治療効果判定・経過観察のシステム化に関しては、放射線治療に適したデータベース構築を行うため、実際の病院での依頼票放射線治療報告書の項目について、現状の調査を行った。これらをもとに、放射線治療部門と依頼科間の情報連携のための標準的なコンテンツについて、ACR のガイドラインと ROGAD の項目との比較・検討を行った。標準規格として情報交換をする場合の候補として、HL7 の CDA でのデータ表現の技術的な問題を検討した。

4) **日本版 ATC の構築**

DICOM-RT からの放射線治療計画データの自動抽出を可能にした、放射線治療計画データ集積・検証・閲覧システムを構築した(図 2)。治療計画装置主要 6 社の DICOM-RT データへの対応を可能にした(表 1)。

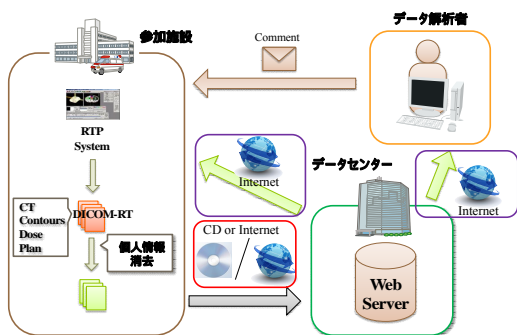


図 2. 治療計画検証システムの概要.

表1. 現在対応しているDICOM-RT data

TPSs	CT	Contour	Plan	Dose
Eclipse Ver 7.3	✓	✓	✓	✓
Eclipse Ver 8.9	✓	✓	✓	✓
Xio Ver 4.6	✓	✓	✓	✓
Pinnacle Ver 8.13	✓	✓	✓	✓
iPlan Ver 4.1	✓	✓	✓	✓
AdvantageSim Ver 7.9.1	✓	✓	✓	△
Oncentra Ver 4.0	✓	✓	✓	✓
Hi-ART	✓	✓	✓	✓

さらに実データを用いて解析を行い、本システムが正常に運用できることが示された(図3、4)。

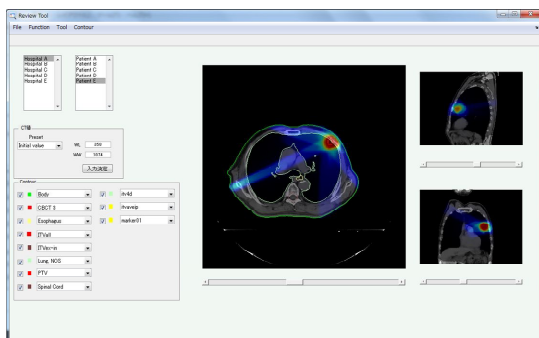


図 3. 治療計画閲覧ソフトウェア

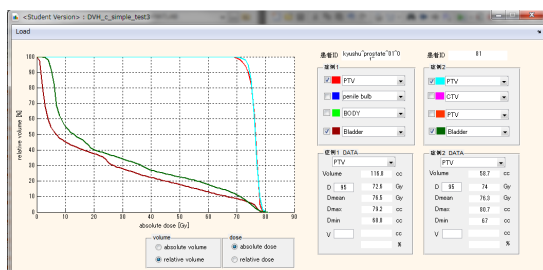


図 4. 治療計画検証システムの画面(DVHの比較).

さらに DICOM データを、インターネットを介してサーバーに転送する機能を追加した。施設 ID により、サーバー内に作成した施設ごとのフォルダを認識し、症例リストが表示され症例リストを選択すると、既に転送されている患者データが閲覧可能となる。

また、実際の治療計画の比較・検討を行った。前立腺癌の IMRT 症例を比較した。処方、コンツール基準、リスク分類を統一した上で PTV: D95, Dmean (Gy)、 Rectum: V70, V65 (cc)、 Bladder: V70, V65 (%), Rectum, Bladder: Volume (cc)を比較した(図5)。

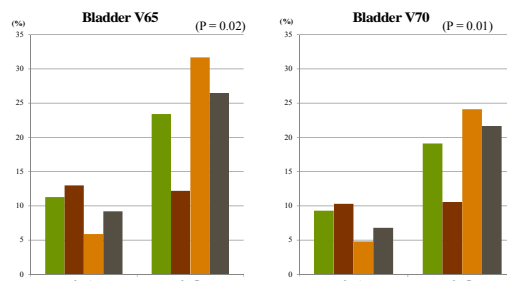


図 5. Bladder : V65, V70 の比較結果

5) JNCDB 改訂

5 疾患の小作業部会を開催し、各疾患の専門医(外科医、放射線腫瘍医)で小作業部会を開催した。各論 DB の改訂を行い、3 段階の優先順位を設定した。レイアウトの調整を行い、全国登録に向けた登録作業の短縮を目指した。基本 DB 改訂について超基本 DB 小作業部会を開催した。従来の基本 DB との整合性、各論 DB との接続性を検討した。さらに外科学会が NCD で進めているような専門医申請の実績として評価可能な 22 項

目を放射線治療実績 DB として抽出可能にした。

6) 放射線治療症例全国登録

放射線治療症例全国登録の JASTRO 学会事業として運用が JASTRO 理事会、社員総会で承認された。各施設の登録業務の負担を考え、段階的（3 段階）に登録項目を増やすこととした（図 6）。

第1段階：放射線治療実績DBのデータ（登録項目：22項目）

専門医認定や更新の際に必要な診療実績評価のためのデータ

第2段階：基本DBのデータ

放射線治療の基礎集計のためのデータ

第3段階：各論DB Level1-3のデータ

放射線治療、外科手術療法、化学療法情報を含めたがん診療データ

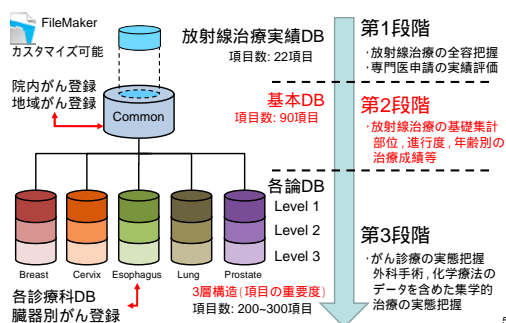


図 5. JNCDB 概要。

2013 年 7 月から 9 月にかけて、JNCDB（放射線治療症例全国登録）の feasibility study を行った。35 施設から 14,484 症例のデータを集積し、解析を行った。診療内容（過程）は、照射方針、小線源治療、高精度治療や照射線量などにおいて施設規模で標準治療の浸透を含めて差異を定量的に観察できた。また、

専門医や指導医の実績評価のための分析も可能であった。

また昨年度まで、本研究のデータセンターは研究代表者の所属施設である大阪大学が担ってきた（構造調査のデータセンターを含む）。全国的なデータ登録業務であり、恒常的な運営が必要なことから、データセンターを現在の大阪大学から放射線医学総合研究所に移管することとなり、現在移管作業を進めている。同時に放射線医学総合研究所の倫理審査申請準備中である。

7) 全国放射治療施設定期構造調査

放射線治療情報の全国登録を担っている。全国の構造調査を毎年行い、解析データを順次公開した。

2009, 2010年データ...JASTRO HP公開（<http://www.jastro.or.jp/aboutus/child.php?eid=00038>）

2011年データ...集積中（回収率 79.0%）

2012年データ...集積中（回収率 51.2%）

2013年データ...2014年4月に集積開始。

また一台の加速器で過剰な症例数を治療している施設 84 施設に追加の治療装置配備の依頼を学会を通じて行い、構造改善に貢献した（図 6）。このうちがん診療連携拠点病院は 70 施設（83%）見られた。

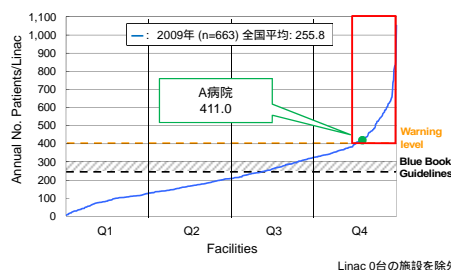


図 6. 全国の施設別年間患者数負荷/ Linac 分布

8) がん登録法制化検討

先行研究からのがん登録法制化検討チームを継続した。その一助としての普及啓発活動として JASTRO に放射線腫瘍学データセンターを開設し、下記 7) の分析結果や JNCDB format を順次公開している。

D. 考察

がん診療施設において、国が推進し、現在標準化が進んでいる院内がん登録の整備と共に各診療科が情報共有用の標準フォーマットを組み込んだ情報を管理することにより、施設内での情報共有が容易になり、施設単位でのがん診療情報体系の信頼性と診療の質が向上する。本研究班では臓器横断的な放射線治療情報の標準化と全国的な症例登録の運用を目指しており、院内の各診療科データベースとの連携、院外での各がん登録との連携の橋渡しの役割を担うことが可能である。全国単位でまた施設から精度の高い情報が上がる仕組みは地域がん登録のデータ精度をさらに向上させることになり、厚生労働行政、社会や国民への貢献は大きい。さらに多施設間での情報共有や全国的なデータ収集・分析も容易となる。各施設の診療レベルを正確に評価できるようになり、診療内容の施設層間格差を明らかにでき、背景にある構造問題を改善するための具体的なデータを得る。施設層間格差を是正できる。一般国民に対して、治療方法や医療機関の選択に資する正確な情報を開示できる。国内外の共同研究も促進される。この基盤を構築する本研究は学術上重要で社会的意義が特に大きい。

我が国のがん登録に関して、一般の国民

にその存在、必要性が十分に認知されていない。米国ではがん登録が法制化されているため、国民の理解も深く、また登録の基盤が整っており、データを還元することで社会への貢献、国民の保健・医療の向上に直結している。

日本でもがん登録推進法（正式名称：がん登録等の推進に関する法律）が成立し、がん登録事業も今後普及していくこととなる（2016年には全都道府県で登録が開始される予定）。がん登録はがん医療の司令塔として国民の保健・医療の向上に寄与し、行政、社会への貢献は限りなく大きい。将来的に遺伝情報ともリンクできれば病因や治療効果の解明等、情報の価値は飛躍的に高まる。さらに放射線治療を中心とした医療被曝情報として原発関連被曝の対照データとしても重要な役割を果たしうる。

本研究では臓器横断的な放射線治療 DB を普及させ、全国の放射線治療施設のがん情報系を整備すると同時に臓器別がん登録、院内がん登録との情報共有を目指している。放射線治療は現在、全がん新患の 28% に施行され（2010年、約 21.4 万人推定値）、毎年確実に増加している。欧米並みの 50-60% に普及する時代になるとがん DB としてはさらに重要な役割を果たすと想定される。既存のがん登録の中で地域がん登録は生存情報が確実に得られる仕組みだが、治療法の詳細情報が不明であるため国民・患者や現場の医師が最も知りたい治療内容・成績の分析は困難である。学会主導の臓器別がん登録は治療内容の詳細が得られるが、予後調査が完全ではない場合が見られるので生存率が過大評価されるなどの問題点を抱えている。各種がん登録は分散管理されてい

るので各登録の強みを最大限引き出して低コストで効率的に運用するためには効率的な情報共有を促進することが重要である。

各診療科が標準フォーマットを組み込んだ情報を管理できれば、診療科を超えたデータ共有、かつ全国的なデータ収集・分析が容易となり、国内外の共同研究も促進される。この基盤を構築する本研究は学術上重要であるだけでなく社会的意義が大きい。患者の安全確保に貢献する。さらに標準フォーマットを用いることにより、DB構築の開発コストを削減し、診療の質と効率を改善させる。本研究により開発される疾患共通および疾患固有の標準フォーマットは、外科学会が進めている NCD とともにわが国のがん臨床の治療研究や精度管理を行うための全国的なデータ収集、共有、分析の基盤の一翼を担うことになる。また、上記標準フォーマットは厚生労働省が推進している院内がん登録とのデータ共有を実現するためのフォーマットとなっており、相互のデータ補完が将来可能となる（図5）。

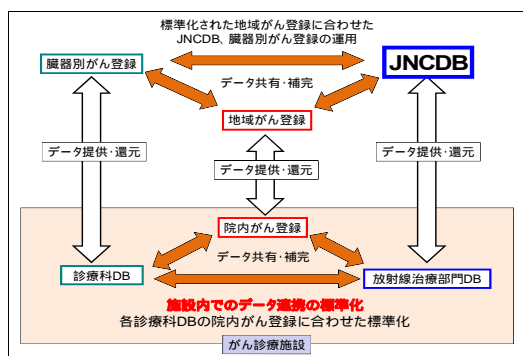


図7. 各診療科DBと臓器別がん登録、JNCDBの位置付けと情報連携

放射線治療計画データの集積・検証・閲覧システムを開発した。放射線治療計画データは外科手術手技に匹敵する詳細な情報

である。客観的に検証可能な形でデジタル保管されている。これは他のがん診療分野にない放射線治療の優れた点である。その自動抽出、データベース化、線量計画の検証、モンテカルロ線量計算システム、Web形式でのデータの閲覧を可能にした。自施設のみならず多施設や地域・国レベルでの検証、比較が今後可能となる。放射線治療の診療の質向上に貢献できる（図8）。

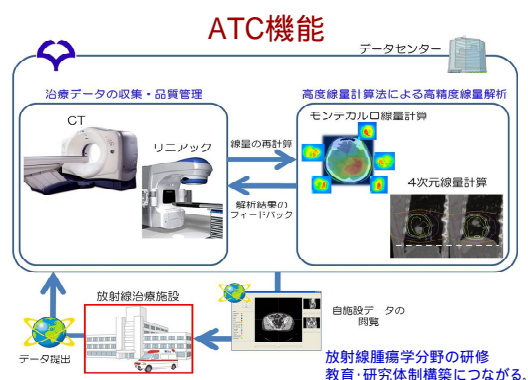


図8. ATC機能の概要

学会 JASTRO の定期的構造調査を昨年より毎年行っている。解析データは順次一般公開して、放射線治療の構造の改善を施設、地域、国レベルで行うよう JASTRO DB 委員会（研究代表者は同委員長）と連携して行っている。今年度は放射線治療装置の追加配備を具体的数値データを示して該当施設に提言した。

E. 結論

JNCDB の開発と運用によりわが国のがん診療の実態が正確に把握され、医療現場の診療の質向上に具体的に寄与しうる。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1 . 論文発表

Tachimori Y., Numasaki H., The Registration Committee for Esophageal Cancer of the Japan Esophageal Society. Supraclavicular node metastasis from thoracic esophageal carcinoma: a surgical series from a Japanese multi-institutional nationwide registry of esophageal cancer. *J. Thorac. Cardiovasc. Surg.* 2014; in press.

Tachimori Y., Numasaki H., Uno T., et al. Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2005. *Esophagus* 2014; 11(1): 1-20.

Tachimori Y., Numasaki H., Uno T., et al. Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2006. *Esophagus* 2014; 11(1): 21-47.

Okami J., Teshima T., et al. Radiotherapy for postoperative thoracic lymph node recurrence of non-small-cell lung cancer provides better outcomes if the disease is asymptomatic and a single-station involvement., *J Thoracic Oncol.* 8 (11): 1417-24, 2013.

Morimoto M., Koizumi M., Teshima T., Ogawa K., et al. Comparison of acute, subacute genitourinary and gastrointestinal adverse events of radiotherapy for prostate cancer using intensity modulated radiation therapy, three-dimensional conformal radiation therapy, permanent implant brachytherapy or high-dose-rate brachytherapy., *Tumori* 2013; in press.

Takakura T., Teshima T., et al. Effects of interportal error on dose distribution in patients undergoing breath-holding intensity-modulated radiotherapy for pancreatic cancer: evaluation of a new treatment planning method. *J. Appl.*

Med. Phys. 2013; 14(5): 43-51.

Otani K., Teshima T., et al. Preoperative chemoradiotherapy with gemcitabine for pancreatic cancer encountered vertebral compression fractures. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2013; 87(25): S187.

Hirata T., Teshima T., et al. Dose-volume analysis for predicting histological effects and gastrointestinal complications after preoperative chemoradiotherapy for pancreatic cancer. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2013; 87(25): S309.

Miki T., et al. Clinical characteristics and oncological outcomes of testicular cancer patients registered in 2005 and 2008: The first large-scale study from the Cancer Registration Committee of the Japanese Urological Association. *Int. J. Urol.* 2014; in press.

Fujimoto H., Miki T., et al. Oncological outcomes of the renal pelvic and ureteral cancer patients registered in 2005: The first large population report from the Cancer Registration Committee of the Japanese Urological Association. *Int. J. Urol.* 2013; in press.

Nishimura K., Miki T., et al. Prolonged treatment with three-weekly docetaxel plus daily prednisolone for metastatic castration-resistant prostate cancer: a multicenter, phase II, open-label, non-comparative, extension study in Japan. *Int. J. Clin. Oncol.*, 2013; 18(2): 306-313.

Naitoh Y., Miki T., et al. Hemostatic effect of new surgical glue in animal partial nephrectomy models. *Urology* 2013; 81(5): 1095-1100.

Fujihara A., Miki T., et al. Urge perception

- index of bladder hypersensitivity. *J. Urol.* 2013; 189(5): 1797-1803.
- Kobayashi K., Miki T., et al. Evaluation of dosimetry and excess seeds in permanent brachytherapy using a modified hybrid method: a single-institution experience. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(3): 479-484.
- Oishi M., Miki T., et al. Apigenin sensitizes prostate cancer cells to Apo2L/TRAIL by targeting adenine nucleotide translocase-2. *PLoS One* 2013; 8(2): e55922.
- Okihara K., Miki T., et al. Assessment of sreenees' knowledge on prostate cancer: Results of a questionnaire using the fact sheet. *Urol. Int.* 2013; 91(1): 49-54.
- Ueda T., Miki T., et al. Hyper-expression of PAX2 in human metastatic prostate tumors and its role as a cancer promoter in an in vitro invasion model. *Prostate* 2013; 73(13): 1403-12.
- Wang S., Tachimori Y., et al. A retrospective study on nonmalignant airway erosion after right transthoracic subtotal esophagectomy: Incidence, diagnosis, therapy, and risk factors. *Ann. Thorac. Surg.* 2013; Nov 20.
- Wang S., Tachimori Y., et al. Diagnosis and surgical outcomes for primary malignant melanoma of the esophagus: a single-center experience. *Ann. Thorac. Surg.* 2013; 96(3): 1002-6.
- Nonaka S., Tachimori Y., et al. Endoscopic submucosal dissection for gastric tube cancer after esophagectomy. *Gastrointest Endosc.* 2013; Sep 20.
- Oda I., Tachimori Y., et al. Lymph-node metastasis in surgical resection of intramucosal esophageal adenocarcinoma. *Dig. Endosc.* 2013; 25 Suppl 2: 177-80.
- Hiramatsu T., Tachimori Y., et al. Effectiveness of an outpatient preoperative care bundle in preventing postoperative pneumonia among esophageal cancer patients. *Am. J. Infect. Control.* 2013 (accepted)
- 日月裕司, 他. 【食道疾患手術のすべて】悪性疾患の手術 頸部食道癌に対する手術. *手術* 2013; 67: 1461-1466.
- Murakami N., Kasamatsu T., Sumi M., et al. Vaginal tolerance of CT based image-guided high-dose rate interstitial brachytherapy for gynecological malignancies. *Radat. Oncol.* 2014; 9:31.
- Nishio S., Kasamatsu T., et al. Nuclear Y-box-binding protein is a poor prognostic marker and related to epidermal growth factor receptor in uterine cervical cancer. *Gynecol. Oncol.* 2014 in press.
- Matsubara A., Kasamatsu T., Lobular endocervical glandular hyperplasia is a neoplastic entity with frequent activating GNAS mutations. *Am. J. Surg. Pathol.* 2013; in press
- Eto T., Kasamatsu T., et al. Status of treatment for the overall population of patients with stage IVb endometrial cancer, and evaluation of the role of preoperative chemotherapy: A retrospective multi-institutional study of 426 patients in Japan. *Gynecol. Oncol.* 2013; in press.
- Katsumata N., Kasamatsu T., et al. Japan Clinical Oncology G. Phase III randomised controlled trial of neoadjuvant chemotherapy plus radical surgery vs radical surgery alone for

stages IB2, IIA2, and IIB cervical cancer: a Japan Clinical Oncology Group trial (JCOG 0102). *Br. J. Cancer* 2013; 108: 1957-63.

Murakami N., [Kasamatsu T.](#), [Sumi M.](#), et al. Radiation therapy for stage IVA cervical cancer. *Anticancer Res.* 2013; 33: 4989-94.

Murakami N., [Kasamatsu T.](#), [Sumi M.](#), et al. Radiation therapy for primary vaginal carcinoma. *J. Radiat. Res.* 2013; 54: 931-7.

Koga Y., [Kasamatsu T.](#), et al. Usefulness of immuno-magnetic beads conjugated with anti-EpCAM antibody for detecting endometrial cancer cells. *J. Cancer. Ther.* 2013; 4: 1273-82.

Tamura K., [Kinoshita T.](#), et al. ⁶⁴Cu-DOTA-trastuzumab PET imaging in patients with HER2-positive breast cancer. *J. Nucl. Med.* 2013; in press.

Ono M., [Kinoshita T.](#), et al. Prognostic impact of Ki-67 labeling indices with 3 different cutoff values, histological grade, and nuclear grade in hormone-receptor-positive, HER2-negative, node-negative invasive breast cancers. *Breast Cancer.* 2013; in press.

Jimbo K., [Kinoshita T.](#), et al. Sentinel and nonsentinel lymph node assessment using a combination of one-step nucleic acid amplification and conventional histological examination. *The Breast* 2013; 22: 1194-99.

Osako T., [Kinoshita T.](#), et al. Molecular detection of lymph node metastasis in breast cancer patients treated with preoperative systemic chemotherapy: a prospective multicentre trial using the one-step nucleic acid amplification assay. *Br. J. Cancer* 2013; 109(6): 1693-1698.

Nagao T., [Kinoshita T.](#), et al. Locoregional recurrence risk factors and the impact of postmastectomy radiotherapy on patients with tumors 5 cm or larger. *Breast Cancer* in press.

Hasebe T., [Kinoshita T.](#), et al. Histological factors for accurately predicting first locoregional recurrence of invasive ductal carcinoma of the breast. *Cancer Sci.* 2013; 104(9): 1252-1261.

Hojo T., [Kinoshita T.](#), et al. Use of the neo-adjuvant exemestane in post-menopausal estrogen receptor-positive breast cancer: A randomized phase II trial (PTEX46) to investigate the optimal duration of preoperative endocrine therapy. *Breast.* 2013; 22(3): 263-267.

Sugie T., [Kinoshita T.](#), et al. Comparison of the indocyanine green fluorescence and blue dye methods in detection of sentinel lymph nodes in early-stage breast cancer. *Ann. Surg. Oncol.* 2013; 20(7): 2213-2218.

Shien T., [Kinoshita T.](#), et al. p53 expression in pretreatment specimen predicts response to neoadjuvant chemotherapy including anthracycline and taxane in patients with primary breast cancer. *Acta. Med. Okayama* 2013; 67(3): 165-170.

Kawano A., [Kinoshita T.](#), et al. Prognostic factors for stage IV hormone receptor-positive primary metastatic breast cancer. *Breast Cancer* 2013; 20: 145-151.

Tanabe Y., [Kinoshita T.](#), et al. Paclitaxel-induced peripheral neuropathy in patients receiving adjuvant chemotherapy for breast cancer. *Int. J. Clin. Oncol.* 2013; 18(1): 132-138.

- Nagao T., Kinoshita T., et al. Locoregional recurrence risk factors in breast cancer patients with positive axillary lymph nodes and the impact of postmastectomy radiotherapy. *Int. J. Clin. Oncol.* 2013; 18(1): 54-61.
- Iwata H., Kinoshita T., et al. Analysis of Ki-67 expression with neoadjuvant anastrozole or tamoxifen in patients receiving goserelin for premenopausal breast cancer. *Cancer.* 2013, 119(4):704-713.
- Asaga S., Kinoshita T., et al. Prognostic factors for triple-negative breast cancer patients receiving preoperative systemic chemotherapy. *Clin. Breast. Cancer* 2013; 13(1): 40-6.
- Iwata H., Kinoshita T., et al. Analysis of Ki-67 expression with neoadjuvant anastrozole or tamoxifen patients receiving goserelin for premenopausal breast cancer. *Cancer* 2013; 119(4): 704-13.
- 山内智香子. Chapter3 1 乳房温存術後の放射線療法 通常分割全乳房照射. チームで取り組む乳がん放射線療法 監修: 佐々木良平, 他. メディカル教育研究社
- 山内智香子. 放射線療法 科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン 治療編 2013年版 日本乳癌学会編
- Matsugi K., Yamauchi C., et al. Evaluation of 4D dose to a moving target with Monte Carlo dose calculation in stereotactic body radiotherapy for lung cancer. *Radiol. Phys. Technol. [Research Support, Non-U.S. Gov't]*. 2013; 6(1): 233-40.
- 呉屋朝幸. 一肺癌の臨床の最新研究の動向 — 肺癌診断・治療の変遷と展望 外科治療. *日本臨床* 2013; 71: 26-30.
- 呉屋朝幸. Patients-oriented medicine and best surgical practice. *日本臨床外科学会雑誌* 2013; 74(11): 2949-2961.
- Inaba K., Sumi M., Uno T., et al. Results of radical radiotherapy for squamous cell carcinoma of the eyelid. *J. Radiat. Res.* 2013; 54:1131-7.
- Inaba K., Sumi M., Uno T., et al. Increased risk of gastric adenocarcinoma after treatment of primary gastric diffuse large B-cell lymphoma. *BMC Cancer* 2013; 13:499.
- Yokota H., Uno T., et al. Internal hernia associated with colostomy after laparoscopic abdominoperineal resection. *Clin. Imaging.* 2013; 37:590-2.
- Kasuya G., Toita T., Kodaira T., Uno T., et al. Distribution patterns of metastatic pelvic lymph nodes assessed by CT/MRI in patients with uterine cervical cancer. *Radiat. Oncol.* 2013; 8:139-44.
- Isohashi F., Ogawa K., Onishi H., Uno T., et al. Japanese Radiation Oncology study Group (JROSG). Patterns of radiotherapy practice for biliary tract cancer in Japan: results of the Japanese radiation oncology study group (JROSG) survey. *Radiat. Oncol.* 2013; 8: 76.
- Shikama N., Nakamura K., et al. Survey of advanced radiation technologies used at designated cancer care hospitals in Japan. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2013; in press.
- Matsumoto K., Nakamura K., et al. Treatment outcome of high-dose-rate interstitial radiation therapy for patients with stage I and II mobile tongue cancer. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2013; in press.
- Terashima K., Nakamura K., et al. Can a belly board reduce respiratory-induced prostate

- motion in the prone position? - Assessed by cine-magnetic resonance imaging. *Technol. Cancer Res. Treat.* 2013; in press.
- Magome T., Nakamura K., et al. Similar-case-based optimization of beam arrangements in stereotactic body radiotherapy for assisting treatment planners. *Biomed. Res. Int.* 2013; 2013: 309534.
- Shinoto M., Nakamura K., et al. Postoperative radiotherapy in patients with salivary duct carcinoma: clinical outcomes and prognostic factors. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(5): 925-30.
- Magome T., Nakamura K., et al. Computer-aided beam arrangement based on similar cases in radiation treatment-planning databases for stereotactic lung radiation therapy. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(3): 569-77.
- Nakamura K., et al. The diffusion pattern of low dose rate brachytherapy for prostate cancer in Japan. *Cancer Sci.* 2013; 104(7): 934-6.
- Hirata H., Nakamura K., et al. Association between EGFR-TKI resistance and efficacy of radiotherapy for brain metastases from EGFR-mutant lung adenocarcinoma. *Anticancer Res.* 2013; 33: 1649-1656.
- Atsumi K., Nakamura K., et al. Prediction of outcome with FDG-PET in definitive chemoradiotherapy for esophageal cancer. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(5): 890-8.
- Maeda T., Nakamura K., et al. Radiation-associated changes in the length of telomeres in peripheral leukocytes from inpatients with cancer. *Int. J. Radiat. Biol.* 2013; 89(2): 106-9.
- Shioyama Y., Nakamura K., et al. Clinical results of stereotactic body radiotherapy for Stage I small-cell lung cancer: a single institutional experience. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(1): 108-12.
- 中村和正, 他. D1 病期に対する治療 放射線治療の適応 前立腺局所、リンパ節領域への放射線治療の適応と意義 新版 前立腺癌放射線治療のすべて リスク別アプローチから合併症対策まで 青木学, 中村和正, 他編. 2013; 11 (増): 258-263.
- 中村和正. 外部照射 骨盤照射の意義と考え方, 新版 前立腺癌放射線治療のすべて リスク別アプローチから合併症対策まで 青木学, 中村和正, 他編. 2013; 11 (増): 213-219.
- 中村和正. リスクの選択肢 新版 前立腺癌放射線治療のすべて リスク別アプローチから合併症対策まで 青木学, 中村和正, 他編. 2013; 11 (増): 112-113.
- 中村和正, 他. IMRT/ブラキセラピーの登場による前立腺癌の治療方針のパラダイムシフト. *臨床放射線* 58(9): 1183-1188, 2013
- 溝口明日実, 中村和正, 他. 放射線治療における electronic portal imaging device を用いた四次元線量分布推定法の開発. *電子情報通信学会論文誌 D* 2013; J96-D(4): 813-823.
- Arita H., Sumi M., Risk factors for early death after surgery in patients with brain metastases: reevaluation of the indications for and role of surgery. *J. Neurooncol.* 2013; 116: 145-52.
- Horinouchi H., Sumi M., et al. Long-term results of concurrent chemoradiotherapy using cisplatin and vinorelbine for stage III non-small-cell lung cancer. *Cancer Sci.* 2013; 104: 93-7.
- Kuroda Y., Sumi M., et al. Acute radiation

- esophagitis caused by high-dose involved field radiotherapy with concurrent cisplatin and vinorelbine for stage III non-small cell lung cancer. *Technol. Cancer Res. Treat.* 2013; 12: 333-9.
- Shibamoto Y., Sumi M., Onishi H., Koizumi M., et al. Primary CNS lymphoma treated with radiotherapy in Japan: a survey of patients treated in 2005-2009 and a comparison with those treated in 1985-2004. *Int. J. Clin. Oncol.* 2013; Dec 3.
- Randall ME., Toita T., et al. Section III: Disease site. Cervix. Principles and Practice of Gynecologic Oncology. 6th Edition. Eds: Barakat RR, Berchuck A, Markman M, and Randall ME. Wolters Kluwer/Lippincot Williams & Wilkins. 2013; 598-660.
- Wakayama A., Toita T., et al. Concurrent chemoradiotherapy for non-bulky stage IB/II cervical cancer without pelvic node enlargement. *Anticancer Res.* 2013; 33(11): 5123-6.
- Kasuya G., Ogawa K., Toita T., et al. Postoperative radiotherapy for uterine cervical cancer: impact of lymph node and histological type on survival. *Anticancer Res.* 2013; 8: 139.
- Yamashita H., Toita T., Kodaira T., Onishi H., et al. High-dose-rate intra-cavitary brachytherapy combined with external beam radiation therapy for under 40-year-old patients with invasive uterine cervical carcinoma: Clinical outcomes in 118 patients in a Japanese multi-institutional study of JASTRO. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2013; 43(5): 547-52.
- Ariga T., Toita T., et al. External beam boost irradiation for clinically positive pelvic nodes in patients with uterine cervical cancer. *J. Radiat. Res.* 2013; 54: 1420-6.
- 戸板孝文, 他. 子宮頸がん腔内照射(2D). 実践マイクロセレクトロン HDR を使用した高線量率密封小線源治療ガイドンス 2013. マイクロセレクトロン研究会. 2013; 50-59.
- 戸板孝文, 他. 子宮頸癌の放射線治療—放射線治療計画ガイドライン. *産科と婦人科* 2013; 80: 1336-1341.
- 戸板孝文, 他. 子宮頸癌の画像誘導小線源治療. *画像情報メディカル* 2013; 45: 834-838.
- 戸板孝文, 他. 早期子宮頸癌に対する放射線治療の位置づけ：エビデンスを踏まえて. *産婦人科の実際* 2013; 62: 911-916.
- 辻野佳世子, 戸板孝文, 他. 子宮頸癌腔内照射における患者満足度アンケート調査報告. *臨床放射線* 2013; 58: 605-613.
- 戸板孝文. 放射線単独療法と同時化学放射線療法はどう使い分けるか? *EBM 婦人科疾患の治療* 2013-2014. 中外医学社, 2013; 271-276.
- 戸板孝文. 子宮頸癌腔内照射(2D)小線源治療部会ガイドラインに基づく密封小線源治療診療・物理QA マニュアル 金原出版株式会社, 2013: 75-82
- Hanai N., Kodaira T., et al. Neck dissection after chemoradiotherapy for oropharyngeal and hypopharyngeal cancer: the correlation between cervical lymph node metastasis and prognosis. *Int. J. Clin. Oncol.* 2013; in press.
- Goto M., Kodaira T., et al. Prognostic factors and outcomes for salvage surgery in patients with recurrent squamous cell carcinoma of the tongue. *Asia Pac. J. Clin. Oncol.* 2013; in press.

- Yamashita H., Toita T., Kodaira T., Onishi H., et al. High-dose rate intra-cavitary brachytherapy combined with external beam radiation therapy for under 40 years old patients with invasive uterine cervical carcinoma: clinical outcomes in 118 patients in a Japanese multi-institutional study of JASTRO Phase II study of cetuximab plus concomitant boost radiotherapy in Japanese patients with locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2013; 43(5): 547-52.
- Kasuya G., Toita T., Kodaira T., Uno T., et al. Distribution patterns of metastatic pelvic lymph nodes assessed by CT/MRI in patients with uterine cervical cancer. *Radiat. Oncol.* 2013; 8: 139.
- Tomita N., Kodaira T., et al. Preliminary analysis of risk factors for late rectal toxicity after helical tomotherapy for prostate cancer. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(5): 919-24.
- Okano S., Kodaira T., et al. Phase II study of cetuximab plus concomitant boost radiotherapy in Japanese patients with locally advanced squamous cell carcinoma of the head and neck. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2013; 43(5): 476-82.
- Kato K., Kodaira T., et al. Phase II study of concurrent chemoradiotherapy at the dose of 50.4 Gy with elective nodal irradiation for stage II-III esophageal carcinoma. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2013; 43(6):608-15.
- Goto Y., Kodaira T., et al. Clinical outcome and patterns of recurrence of head and neck squamous cell carcinoma with a limited field of postoperative radiotherapy. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2013; 43(7): 719-25.
- Goto M., Kodaira T., et al. Prognostic factors and outcomes for salvage surgery in patients with recurrent squamous cell carcinoma of the tongue. *Asia Pac. J. Clin. Oncol.* 2013; in press.
- Goto Y., Kodaira T., et al. Alternating chemoradiotherapy in patients with nasopharyngeal cancer: prognostic factors and proposal for individualization of therapy. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(1): 98-107.
- Takahashi S., Kenjo M., Case reports of portal vein thrombosis and bile duct stenosis after stereotactic body radiation therapy for hepatocellular carcinoma. *Hepatology Research* 2013; in press.
- Honda Y., Kenjo M., et al. Stereotactic body radiation therapy combined with transcatheter arterial chemoembolization for small hepatocellular carcinoma. *J. Gastroenterol. Hepatol.* 2013; 28(3): 530-536.
- Kimura T., Kenjo M., Dynamic computed tomography appearance of tumor response after stereotactic body radiation therapy for hepatocellular carcinoma: How should we evaluate treatment effects? *Hepatol. Res.* 2013; 43(7): 717-712.
- Wada H., Kenjo M., Ogawa K., et al. A phase I trial of S-1 with concurrent radiotherapy in patients with locally recurrent rectal cancer. *Int. J. Clin. Oncol.* 2013; 18(2): 273-8. 高橋一平, 権丈雅浩, 他. 【特集 拡がる放射線治療】 期非小細胞癌に対する定位放射線治療 映像情報 *Medical* 2013; 45(11): 856-860.
- 権丈雅浩. コントラリングを学ぼう 「食道癌」. *臨床放射線* 2013; 58(13): 1826-32.
- Yoshioka Y., Koizumi M., Ogawa K., et al. Monotherapeutic high-dose-rate brachytherapy

- for prostate cancer: a dose reduction trial. *Radiother. Oncol.* 2013; in press.
- Sumida I., Koizumi M., Ogawa K., et al. Evaluation of imaging performance for megavoltage cone-beam CT over an extended period. *J. Radiat. Res.* 2013; in press.
- Morimoto M., Koizumi M., Ogawa K., et al. Salvage high-dose-rate interstitial brachytherapy for locally recurrent rectal cancer: long-term follow-up results. *Int. J. Clin. Oncol.* 2013; in press.
- Kano Y., Ogawa K., et al. Novel drug discovery system for cancer stem cells in human squamous cell carcinoma of the esophagus. *Oncol. Rep.* 2013; in press.
- Akino Y., Ogawa K., et al. Characteristics of flattening filter free beams at low monitor unit settings. *Med. Phys.* 2013; in press.
- Morimoto M., Koizumi M., Ogawa K., et al. Hypofractionated stereotactic radiation therapy in three to five fractions for vestibular schwannoma. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2013; 43(8):805-12.
- Akino Y., Ogawa K., et al. Estimation of rectal dose using daily megavoltage cone-beam computed tomography and deformable image registration. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2013; 87(3):602-608.
- Yoshioka Y., Ogawa K., et al. The emerging role of high-dose-rate (HDR) brachytherapy as monotherapy for prostate cancer. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(5):781-8.
- Yagi M., Koizumi M., Ogawa K., et al. Gemstone spectral imaging: Determination of CT to ED conversion curves for radiotherapy treatment planning. *J. Appl. Clin. Med. Phys.* 2013; 14(5): 173-86.
- Mabuchi S., Ogawa K., et al. A phase I study of concurrent weekly carboplatin and paclitaxel combined with intensity-modulated pelvic radiotherapy as an adjuvant treatment for early-stage cervical cancer patients with positive pelvic lymph nodes. *Int. J. Gynecol. Cancer* 2013; 23(7): 1279-86.
- Kohshi K., Ogawa K., et al. Potential roles of hyperbaric oxygenation in the treatments of brain tumors. *Undersea Hyperb. Med.* 2013; 40(4): 351-62.
- Matsuo K., Ogawa K., et al. Utility of risk-weighted surgical-pathological factors in early-stage cervical cancer. *Br. J. Cancer* 2013; 108(6):1348-57.
- Ogata T., Ogawa K., Koizumi M., et al. Feasibility and accuracy of relative electron density determined by virtual monochromatic CT value subtraction at two different energies using the gemstone spectral imaging. *Radiat. Oncol* 2013; 8: 83
- Okazawa M., Ogawa K., et al. Impact of the addition of concurrent chemotherapy to pelvic radiotherapy in surgically treated stage IB1-IIIB cervical cancer patients with intermediate-risk or high-risk factors: A 13-year experience. *Int. J. Gynecol. Cancer.* 2013; 23(3): 567-75.
- Ogawa K., et al. Radiotherapy targeting cancer stem cells: current views and future perspectives. *Anticancer Res.* 2013; 33(3): 747-754.
- Yoshioka Y., Ogawa K., et al. Analysis of late toxicity associated with external beam radiation therapy for prostate cancer with uniform setting of classical 4-field 70 Gy in 35 fractions: A

- survey study by the Osaka Urological Tumor Radiotherapy Study Group. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(1): 113-125.
- Yamazaki H., Koizumi M., Ogawa K., et al. High dose rate brachytherapy for oral cancer. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(1): 1-17.
- Deng Z., Ogawa K., et al. Viral load, physical status, and E6/E7 mRNA expression of human papillomavirus in head and neck squamous cell carcinoma. *Head Neck.* 2013; 35(6): 800-8.
- Isohashi F., Koizumi M., Ogawa K. Dose-volume histogram predictors of chronic gastrointestinal complications after radical hysterectomy and postoperative concurrent nedaplatin-based chemoradiation therapy for early-stage cervical cancer. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2013; 85(3): 728-34.
- 玉利慶介, 小川和彦. 放射線治療. *生産と技術* 2013; 65(1): 91-96.
- Shikama N., Tsukamoto N., et al. Validation of nomogram-based prediction of survival probability after salvage reirradiation of head and neck cancer. *Jpn. J Clin. Oncol.* 2013; 43: 154-160.
- 鹿間直人. 放射線による治療. 別冊 NHK 出版 きょうの健康 乳がん. 2013; 60-7.
- 鹿間直人. 最新放射線治療 4. 患者さんの負担軽減を考えた短期放射線治療が有望. *がんサポート* 2013; 8: 34-37.
- Igaki H., Onishi H., Nakagawa K., et al. Japanese Society for Therapeutic Radiology and Oncology Health Insurance Committee. A newly introduced comprehensive consultation fee in the national health insurance system in Japan: A promotive effect of multidisciplinary medical care in the field of radiation oncology--Results from a questionnaire survey. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2013; Sep 25.
- Satoh Y., Onishi H., et al. Volume-based parameters measured by using FDG PET/CT in patients with stage I NSCLC treated with stereotactic body radiation therapy: prognostic value. *Radiology* 2013; Sep 12.
- Niibe Y., Onishi H., et al. Oligometastases/Oligo-recurrence of lung cancer. *Pulm. Med.* 2013; 2013: 438236.
- Onishi H., et al. Stereotactic body radiation therapy for stage I non-small-cell lung cancer: a historical overview of clinical studies. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2013; 43(4): 345-50.
- Watanabe M., Onishi H., et al. Intrafractional setup errors in patients undergoing non-invasive fixation using an immobilization system during hypofractionated stereotactic radiotherapy for lung tumors. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(4): 762-8.
- Nambu A., Onishi H., et al. Rib fracture after stereotactic radiotherapy for primary lung cancer: prevalence, degree of clinical symptoms, and risk factors. *BMC Cancer.* 2013; 13: 68.
- Matsuo Y., Onishi H., Nakagawa K., Guidelines for respiratory motion management in radiation therapy. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(3): 561-8.
- Maehata Y., Onishi H., et al. Immune responses following stereotactic body radiotherapy for stage I primary lung cancer. *Biomed. Res. Int.* 2013; 73: 1346
- Yamazaki H., Koizumi M., et al. Hypofractionated stereotactic radiotherapy with the hypoxic sensitizer AK-2123 (sanazole) for reirradiation of brain metastases: a preliminary

- feasibility report. *Anticancer Res.* 2013; 33(4): 1773-6.
- Yamazaki H., Koizumi M., et al. Feasibility trial for daily oral administration of the hypoxic sensitizer AK-2123 (Sanazole) in radiotherapy. *Anticancer Res.* 2013; 33(2) 643-6.
- 小泉雅彦. 転移性骨腫瘍-治療の進歩 転移性骨に対する放射線療法. *臨床整形外科* 2013; 48: 675-682.
- 小泉雅彦. シンポジウム 転移性骨腫瘍への治療戦略(脊椎・骨盤・四肢) がん骨転移の放射線治療戦略. *日本整形外科学会雑誌* 2013; 87(10): 883-9.
- 大谷侑輝, 小泉雅彦. 放射線治療と医学物理士. *生産と技術* 2013; 65(2): 91.
- 井上俊彦, 小泉雅彦. 他. 早期肺癌の体幹部定位放射線治療における肋骨骨折の臨床的検討. *臨床放射線* 2013; 58(12): 743-1750.
- 近藤博史, 安藤裕. 放射線検査・治療に関するシステム Health Information Systems *医療情報：医療情報システム編 新版 第2版* 2013: 116 – 121.
- Yamashita H., Nakagawa K., et al. Longitudinal assessments of quality of life and late toxicities before and after definitive chemoradiation for esophageal cancer. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2013 Nov 11.
- Onoe T., Kozuka T., Nakagawa K., et al. High-dose-rate interstitial brachytherapy for gynecologic malignancies--dosimetric changes during treatment period. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(4): 663-70.
- Nakagawa K., Impact of flattening-filter-free techniques on delivery time for lung stereotactic volumetric modulated arc therapy and image quality of concurrent kilovoltage cone-beam computed tomography: a preliminary phantom study. *J. Radiat. Res.* 2013; Aug 26.
- Haga A., Nakagawa K., et al. Dose verification of volumetric modulated arc therapy (VMAT) by use of in-treatment linac parameters. *Radiol. Phys. Technol.* 2013; Mar 12.
- Takahashi W., Nakagawa K., et al. Verification of planning target volume settings in volumetric modulated arc therapy for stereotactic body radiation therapy by using in-treatment 4-dimensional cone beam computed tomography. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2013; 86(3): 426-31.
- Omori M., Nakagawa K., et al. Eleven secondary cancers after hematopoietic stem cell transplantation using a total body irradiation-based regimen in 370 consecutive pediatric and adult patients. *Springerplus* 2013; 2: 424
- 大倉孝之, 中川恵一. 他. 胸郭運動を考慮した横隔膜の運動モデル. *Medical Imaging Technology* 2013; 31(3): 189-197.
- Harada H., Kozuka T., et al. Dose-escalation study of three-dimensional conformal thoracic radiotherapy with concurrent S-1 and cisplatin for inoperable stage III non-small-cell lung cancer. *Clin. Lung. Cancer.* 2013; 13(4): 440-5.
- Yuasa T., Kozuka T., et al. Early onset recall pneumonitis during targeted therapy with sunitinib. *BMC Cancer.* 2013; 13: 3.
- Fujimaki Y., Terahara A., et al. Non-invasive objective evaluation of radiotherapy-induced dry mouth. *J. Oral. Pathol. Med.*, 2013; Jun 7.
- 寺原敦朗. 悪性グリオーマに対する放射線治療の現状と展望. *癌と化学療法* 2013; 40

- (10): 1278-1282.
- Koizumi T., Sasaki S., et al. Efficacy of erlotinib plus concurrent whole-brain radiation therapy for patients with brain metastases from non-small cell lung cancer. *Ann. Palliat. Med.* 2013; 2: 111-113.
- 佐々木茂. 皮膚悪性腫瘍-基礎と臨床の最新研究動向 有棘細胞癌の放射線治療 . *日本臨床* 2013; 71: 518-520.
- 佐々木茂. 皮膚悪性腫瘍-基礎と臨床の最新研究動向 基底細胞癌の放射線治療 . *日本臨床* 2013; 71: 642-645.
- 佐々木茂. 癌の分子機序 放射線と肺発癌 (治療後の二次発癌を含めて) . *日本臨床* 2013; 71: 146-149.
- Numasaki H., Koizumi M., Ando Y., Tsukamoto N., Terahara A., Nakamura K., Teshima T., et al.; Japanese Society for Therapeutic Radiology and Oncology Database Committee. Japanese structure survey of radiation oncology in 2009 with special reference to designated cancer care hospitals. *Int. J. Clin. Oncol.* 2012; 18(5): 775-83.
- Teshima T., Numasaki H., Koizumi M., Ando Y., Tsukamoto N., Terahara A., Nakamura K., et al.; Japanese Society for Therapeutic Radiology and Oncology Database Committee. Japanese structure survey of radiation oncology in 2009 based on institutional stratification of the Patterns of Care Study. *J. Radiat. Res.* 2012; 53 (5): 710-21.
- Ozawa S., Tachimori Y., Numasaki H., Teshima T., Uno T., et al. Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2004. *Esophagus*, 2012; 9(2): 75-98.
- Tomita T., Toita T., Kodaira T., Uno T., Numasaki H., Teshima T., et al. Patterns of radiotherapy practice for patients with cervical cancer in Japan (2003-2005): Changing trends in the pattern of care process. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 83(5): 1506-13.
- Numasaki H., Koizumi M., Ando Y., Tsukamoto N., Terahara A., Nakamura K., Teshima T., and Japanese Society of Therapeutic Radiology and Oncology Database Committee. National medical care system may impede fostering of true specialization of radiation oncologists: Study based on structure survey in Japan. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 82(1): e111-7
- Toita T., Kodaira T., Shikama N., Kenjo M., Yamauchi C., Numasaki H., Teshima T., et al. Prospective multi-institutional study of definitive radiotherapy with high-dose rate intracavitary brachytherapy in patients with non-bulky (<4 cm) stage I,II uterine cervical cancer (JAROG0401/JROSG04-2). *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 82(1): e49-56.
- Ozawa S., Tachimori Y., Numasaki H., Teshima T., Uno T., et al., The Registration Committee for Esophageal Cancer. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2004. The Japan Esophageal Society (Chiba), March 2012
- 手島昭樹. 沼崎穂高. 他. HDR 小線源治療の実態 mHDR 研究会調査と JASTRO 定期構造調査との比較分析. *臨床放射線* 2012; 57 (6): 809-814.
- Koizumi M., Ogawa K., Teshima T., et al. Administration of salubrinal enhances radiation-induced cell death of SW1353

- chondrosarcoma cells. *Anticancer Res.* 2012; 32 (9): 3667-73.
- Ogata T., Teshima T., et al. Anti-IL-6 receptor antibody does not ameliorate radiation pneumonia in mice. *Exp. Ther. Med.* 2012; 4 (2): 273-276.
- Mizuno H., Teshima T., et al. Homogeneity of GAFCHROMIC EBT2 film among different lot numbers. *J. Appl. Clin. Med. Phys.* 2012; 13 (4): 3763.
- Tokumaru S., Toita T., Kodaira T., Shikama N., Kenjo M., Yamauchi C., Teshima T., et al. Insufficiency fractures after pelvic radiation therapy for uterine cervical cancer: An analysis of subjects in a prospective multi-institutional trial, and cooperative study of the Japan Radiation Oncology Group (JAROG) and Japanese Radiation Oncology Study Group (JROSG). *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 84 (2): e195-e200.
- Yagi M., Koizumi M., Teshima T., et al. Maximizing the availability of positron emitting nuclei for proton therapy verification using different beam irradiation sequences. *Med. Phys.* 2012; 39(6): 3771.
- 手島昭樹. 放射線治療環境の新時代. *Rad. Fan.* 2012; 10(13): 1-4.
- 手島昭樹. 5. 放射線治療施設の運営・管理に関連する知識, 放射線治療部門の運営, 臨床放射線腫瘍学, 日本放射線腫瘍学会, 日本放射線腫瘍学研究機構編, 南江堂, 東京 2012; 183-188.
- Ochiai A., Miki T., et al. Clinical utility of PCA3 urine assay in Japanese men undergoing prostate biopsy. *BJU Int.* 2013; 111(6): 928-33.
- Takaha N., Miki T., et al. Expression and role of HMGA1 in renal cell carcinoma. *J. Urol.* 2012; 187(6): 2215-22.
- Takaha N., Miki T., et al. Significant induction of apoptosis in renal cell carcinoma cells transfected with cationic multilamellar liposomes containing the human interferon- β gene through activation of the intracellular type 1 interferon signal pathway. *Int. J. Oncol.* 2012; 40: 1441-46.
- Takeuchi I., Miki T., et al. High mobility group protein AT-hook 1 (HMGA1) is associated with the development. *Prostate.* 2012; 72(10): 1124-32.
- Walter S., Miki T., et al. Multi-peptide immune response to cancer vaccine IMA901 after single-dose cyclophosphamide associates with longer patient survival. *Nat. Med.* 2012; 18(8): 1254-61.
- Okihara K., Miki T., et al. Quantitative evaluation of lower urinary tract symptoms using a visual analog scale in men undergoing permanent brachytherapy. *Brachytherapy.* 2012; 11(4): 265-7.
- Naitoh Y., Miki T., et al. Health related quality of life for monosymptomatic enuretic children and their mothers. *J. Urol.* 2012; 188(5): 1910-14.
- 藤也寸志, 日月裕司, 他. 日本食道学会 NCD 部会:【よくわかる NCD】 NCD への取り組み 消化器外科 食道外科. *臨床外科* 2012; 67(6): 768-771.
- 日月裕司. 食道癌サルベージ食道切除手術. *手術* 2012; 66(10):1315-20.
- 日月裕司, 他. 本邦の独自性尊重型となっている取扱い規約とそのコンセプト (食道癌). *癌の臨床* 2012; 58829; 63-9.

- Uehara T., Kasamatsu T., et al. Prognostic impact of the history of breast cancer and of hormone therapy in uterine carcinosarcoma. *Int. J. Gynecol. Cancer* 2012; 22: 280-5.
- Togami S., Kasamatsu T., et al. Clinicopathological and prognostic impact of human epidermal growth factor receptor type 2 (HER2) and hormone receptor expression in uterine papillary serous carcinoma. *Cancer Sci.* 2012; 103: 926-32.
- Togami S., Kasamatsu T., et al. Serous adenocarcinoma of the uterine cervix: a clinicopathological study of 12 cases and a review of the literature. *Gynecol. Obstet. Invest.* 2012; 73: 26-31.
- Kuroda Y., Kasamatsu T., et al. Impact of concurrent chemotherapy on definitive radiotherapy for women with FIGO IIIb cervical cancer. *J. Radiat. Res.* 2012; 53: 588-93.
- Ikeda S., Kasamatsu T., et al. Combination of squamous cell carcinoma-antigen, carcinoembryonic antigen, and carbohydrate antigen 19-9 predicts positive pelvic lymph nodes and parametrial involvement in early stage squamous cell carcinoma of the uterine cervix. *J. Obstet. Gynaecol. Res.* 2012; 38: 1260-5.
- Eto T., Kasamatsu T., et al. Clinicopathological prognostic factors and the role of cytoreduction in surgical stage IVb endometrial cancer: A retrospective multi-institutional analysis of 248 patients in Japan. *Gynecol. Oncol.* 2012; 127: 338-44.
- 笠松高弘. がん登録の歴史と現状. 日本臨牀 婦人科がん. 小西郁生 編, 2012; 増刊: 29-33.
- Asaga S., Kinoshita T. A case of multidisciplinary treatment for a massive locoregional recurrence of breast cancer. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2012; 42(9): 865.
- Nagao T., Kinoshita T., et al. Primary leiomyosarcoma of the breast. *The Breast Journal.* 2012; 18(1): 81-82.
- Shien T., Kinoshita T., et al. A Randomized controlled trial comparing primary tumour resection plus systemic therapy with systemic therapy alone in metastatic breast cancer (PRIM-BC): Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1017. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2012; 42(10): 970-3.
- Tamaki Y., Kinoshita T., et al. Japanese one-step nucleic acid amplification study group. Routine clinical use of the one-step nucleic acid amplification assay for detection of sentinel lymph node metastases in breast cancer patients: results of a multicenter study in Japan. *Cancer.* 2012; 118(14): 3477-83.
- Nagao T., Kinoshita T., et al. The differences in the histological types of breast cancer and the response to neoadjuvant chemotherapy: the relationship between the outcome and the clinicopathological characteristics. *The Breast.* 2012; 21(3): 289-295.
- Nagao T., Kinoshita T., et al. Sentinel lymph node biopsy using indigo carmine blue dye and the validity of '10% rule' and '4 nodes rule'. *The Breast.* 2012; 21(4): 455-8.
- Ono M., Kinoshita T., et al. Tumor-infiltrating lymphocytes are correlated with response to neoadjuvant chemotherapy in

- triple-negative breast cancer. *Breast Cancer Res. Treat.* 2012; 132(3): 793-805.
- Tateishi U., Kinoshita T., et al. Comparative study of the value of dual tracer PET/CT in evaluating breast cancer. *Cancer Sci.* 2012; 103(9): 1701-07.
- Tateishi U., Kinoshita T., et al. Neoadjuvant chemotherapy in breast cancer: prediction of pathologic response with PET/CT and dynamic contrast-enhanced MR imaging - prospective assessment. *Radiology.* 2012; 263(1): 53-63.
- Hirokawa T., Kinoshita T., et al. A clinical trial of curative surgery under local anesthesia for early breast cancer. *Breast J.* 2012; 18(2): 195-7.
- Kikuyama M., Kinoshita T., et al. Development of a novel approach, the epigenome-based outlier approach, to identify tumor-suppressor genes silenced by aberrant DNA methylation. *Cancer Letters.* 2012; 322(2): 204-212.
- Yoshida M., Kinoshita T., et al. Loss of heterozygosity on chromosome 16q suggests malignancy in core needle biopsy specimens of intraductal papillary breast lesions. *Virchows Arch.* 2012; 460(5): 497-504.
- Masuda N., Kinoshita T., et al. Neoadjuvant anastrozole versus tamoxifen in patients receiving goserelin for premenopausal breast cancer (STAGE): a double-blind, randomised phase 3 trial. *Lancet Oncol.* 2012; 13(4): 345-352.
- 木下貴之 . 術前ホルモン療法の現状と課題. *癌と化学療法* 2012; 39(13): 2479-248.
- 垂野香苗, 木下貴之 . 非浸潤性小葉癌(LCIS)の治療方針. *日本臨牀* 2012; 70397-40.
- 神保健二郎, 木下貴之 . 乳癌の疫学. *臨床外科* 2012; 67(11): 66-71.
- 久保晶子, 木下貴之, 他. 乳癌薬物治療に伴う妊孕性への影響に関する情報提供の実態調査. *癌と化学療法* 2012; 39(3): 399-403.
- 木下貴之. 術前化学療法施行例の外科治療 乳房温存療法, センチネルリンパ節生検の実際. *医学のあゆみ 乳癌診療Update 最新診療コンセンサス2012.* 2012; 242(1): 79-85.
- 木下貴之. 乳癌診療における術前薬物療法と外科治療の現状. *日本医事新報* 2012; 4605: 78-83.
- 木下貴之. 早期乳がんに対するラジオ波焼灼療法 切らないので痕跡が目立たない低侵襲治療法 適応を間違えれば再発の危険性も. *ライフライン21 がんの先進医療* 2012; 5: 19-22.
- 木下貴之. 詳細な病理診断にて発見されるセンチネルリンパ節の微小な潜在的転移の予後に対する影響は, 大きなものにはならない. *Critical Eyes on Clinical Oncology* 2012; 41: 4-5.
- 木下貴之. 監修 藤原康弘. 乳がん 治療・検査・療養. *乳がん*, 小学館 東京 2013.3. pp.160
- 木下貴之. . 治療 1. 薬物治療 e) 抗ANKL 中和抗体とビスフォスフォネートの比較. *がん骨転移のバイオロジーとマネージメント*, 株式会社医薬ジャーナル社 2012; 207-210.
- 木下貴之. センチネルリンパ節の同定法と生検手技 色素法・アイソトープ法 . *センチネルリンパ節生検 手技・エビデン*

- ス・ピットフォール 株式会社日本医事新報社 2012; 68-77
- 木下貴之. 鏡視下手術. *乳腺腫瘍学*, 日本乳癌学会, 金原出版株式会社 2012; 170-172
- Abe Y., Goya T., et al. Clinical implications of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography at delayed phase for diagnoses and prognosis of malignant pleural mesothelioma. *Oncol. Rep.*, 2012; 27: 333-8.
- Kawaguchi K., Japanese Joint Committee for Lung Cancer Registration, Modern surgical results of lung cancer involving neighboring structures: a retrospective analysis of 531 pT3 cases in a Japanese Lung Cancer Registry Study. *J. Thorac. Car. Surg.*, 2012; 144: 431-7.
- Yoshino I., Japanese Joint Committee for Lung Cancer Registration, Surgical outcome of stage IIIA – cN2/pN2 non-small-cell lung cancer patients in Japanese Lung Cancer Registry Study in 2004. *J. Thorac. Oncol.*, 2012; 7: 850-5.
- Abe Y., Goya T., et al. Clinical implications of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography at delayed phase for diagnosis and prognosis of malignant pleural mesothelioma *Oncol. Rep.* 2012; 27: 333-338.
- 山内智香子. 乳癌診療Update-最新診療コンセンサス2012】最新治療コンセンサス【外科・放射線治療】原発性乳癌に対する放射線療法 その役割とあらたな知見 *医学のあゆみ* 2012; 242(1): 92-8.
- 山内智香子. 【知っておきたい放射線・粒子線治療】乳癌に対する放射線治療の現況 *臨床外科* 2012; 67(8): 977-85.
- 山内智香子. 乳癌(第2版)-基礎と臨床の最新研究動向-】乳癌の治療戦略 放射線療法 乳房温存療法における放射線療法の役割 *日本臨床* 2012; 70(7): 533-37.
- 山内智香子. 【高齢者乳癌(2)】 高齢者乳癌の放射線療法 *乳癌の臨床* 2012; 27(4): 389-97.
- 杉江知治, 山内智香子, 他. 【過渡期の家族性腫瘍診療、その現状と展望】 遺伝性・家族性乳がん診療のコンセンサス 多施設アンケート結果から *家族性腫瘍* 2012; 12(2): 45-9.
- 関口健次, 山内智香子, 他. 乳癌診療ガイドライン 2011 年度版(放射線療法)改定の要点. 園尾博司 監修 鹿間直人, 他編. *これからの乳癌診療 2012-2013*, 金原出版 2012; 98-103.
- Funatsu H., Uno T., et al. Can pretreatment ADC values predict recurrence of bladder cancer after transurethral resection? *Eur. J. Radiol.* 2012; 81(11): 3115-9.
- Harada R., Uno T., et al. The incidence and significance of retropharyngeal lymph node metastases in hypopharyngeal cancer. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2012; 42(9): 794-9.
- Yokota H., Uno T., et al. Dumbbell-shaped nonsamomatous malignant melanotic schwannoma of the cervical spinal root. *Spine J.* 2012; 12(4): e14-7.
- Akutsu Y., Uno T., et al. The number of pathologic lymph nodes involved is still a significant prognostic factor even after neoadjuvant chemoradiotherapy in esophageal squamous cell carcinoma. *J. Surg. Oncol.* 2012; 105(8): 756-60.
- Sasaki R., Uno T., et al. Multi-institutional

- analysis of solitary extramedullary plasmacytoma of the head and neck treated with curative radiotherapy. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 82(2): 626-34.
- Asai K., Nakamura K., et al. Radiation-induced rib fractures after hypofractionated stereotactic body radiation therapy: risk factors and dose-volume relationship. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 84(3): 768-73.
- Arimura H., Nakamura K., et al. Computerized estimation of patient setup errors in portal images based on localized pelvic templates for prostate cancer radiotherapy. *J. Radiat. Res.* 2012; 53(6): 961-72.
- Nakamura K., Kodaira T., Kozuka T., Shikama N., et al. Patterns of practice in intensity-modulated radiation therapy and image-guided radiation therapy for prostate cancer in Japan. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2012; 42: 53-57.
- Atsumi K., Nakamura K., et al. Esophageal stenosis associated with tumor regression in radiotherapy for esophageal cancer: frequency and prediction. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 82(5): 1973-80.
- Yoshitake T., Nakamura K., et al. Stereotactic body radiation therapy for stage I non-small cell lung cancer patients with chronic respiratory insufficiency requiring domiciliary oxygen therapy. *Anticancer Res.* 2012; 32(9): 4041-4.
- Chikui T., Nakamura K., et al. Pharmacokinetic analysis based on dynamic contrast-enhanced MRI for evaluating tumor response to preoperative therapy for oral cancer. *J. Magn. Reson. Imaging.* 2012; 36: 589-597.
- Hatakenaka M., Nakamura K., et al. Acute cardiac impairment associated with concurrent chemoradiotherapy for esophageal cancer: magnetic resonance evaluation. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 83(1): e67-73.
- 渥美和重, 中村和正, 他. 遠隔放射線治療計画支援：当院の現状と将来. *福岡医誌* 2012; 103(8) : 159-162.
- Sekine I., Sumi M., et al. Phase I study of concurrent high-dose three-dimensional conformal radiotherapy with chemotherapy using cisplatin and vinorelbine for unresectable stage III non-small-cell lung cancer. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 82(2): 953-959.
- Kuroda Y., Sumi M., et al. Impact of concurrent chemotherapy on definitive radiotherapy for women with FIGO IIIb cervical cancer. *J. Radiat. Res.* 2012; 53(4): 588-593.
- Minami-Shimmyo Y., Sumi M., et al. Risk factors for treatment-related death associated with chemotherapy and thoracic radiotherapy for lung cancer. *J. Thorac. Oncol.* 2012; 7(1): 177-182.
- Murakami N., Sumi M., Nakagawa K., et al. ¹⁰⁶Ruthenium plaque therapy (RPT) for retinoblastoma. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 84(1): 59-65.
- Mayahara H., Sumi M., et al. Effect of chemotherapy on survival after whole brain radiation therapy for brain metastases: a single-center retrospective analysis. *J. Cancer. Res. Clin. Oncol.* 2012; 138(7): 1239-47.
- Horinouchi H., Sumi M., et al. Brain metastases after definitive concurrent chemoradiotherapy in patients with stage III lung adenocarcinoma:

- carcinoembryonic antigen as a potential predictive factor. *Cancer Sci.* 2012; 103(4): 756-9.
- 淡河恵津世, 角美奈子, 他. 放射線治療計画ガイドライン 2012 年版, 小児. 金原出版, 日本放射線腫瘍学会編、2012; 250-276.
- Sekine I., Sumi M., et al. Phase I study of concurrent high-dose three-dimensional conformal radiotherapy with chemotherapy using cisplatin and vinorelbine for unresectable stage III non-small-cell lung cancer. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 82(2): 953-59.
- Minami-Shimmyo Y., Sumi M., et al. Risk factors for treatment-related death associated with chemotherapy and thoracic radiotherapy for lung cancer. *J. Thorac. Oncol.* 2012; 7(1): 177-182.
- Toita T., et al. Cervical cancer vulva cancer committee of the Japanese gynecologic oncology group. Feasibility and acute toxicity of concurrent chemoradiotherapy (CCRT) with high-dose rate intracavitary brachytherapy (HDR-ICBT) and 40-mg/m² weekly cisplatin for Japanese patients with cervical cancer: results of a Multi-Institutional Phase 2 Study (JGOG1066). *Int. J. Gynecol. Cancer.* 2012; 22(8): 1420-6.
- Toita T., et al. Cervical Cancer (Vulva Cancer) Committee of Japanese Gynecologic Oncology Group (JGOG). Phase II study of concurrent chemoradiotherapy with high-dose-rate intracavitary brachytherapy in patients with locally advanced uterine cervical cancer: efficacy and toxicity of a low cumulative radiation dose schedule. *Gynecol. Oncol.* 2012; 126(2): 211-6.
- Nagai Y., Toita T., Concurrent chemoradiotherapy with paclitaxel and cisplatin for adenocarcinoma of the cervix. *Anticancer Res.* 2012; 32(4): 1475-9.
- Ariga T., Ogawa K., Toita T., et al. Radical radiotherapy for superficial esophageal cancer: impact of clinical N stage on survival. *Anticancer Res.* 2012; 32(8): 3371-6.
- Ogawa K., Toita T., et al. Phase II trial of radiotherapy after hyperbaric oxygenation with multiagent chemotherapy (procarbazine, nimustine, and vincristine) for high-grade gliomas: long-term results. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 82(2): 732-8.
- Viswanathan AN., Toita T., et al. International brachytherapy practice patterns: a survey of the Gynecologic cancer intergroup (GCIG). *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 82(1): 250-5.
- Goto Y., Kodaira T., et al. Alternating chemoradiotherapy in patients with nasopharyngeal cancer: prognostic factors and proposal for individualization of therapy. *J. Radiat. Res.* 2013; 54(1): 98-107.
- Sawaki M., Kodaira T., et al. Feasibility of intraoperative radiation therapy for early breast cancer in Japan: a single-center pilot study and literature review. *Breast Cancer* 2012; Sept. 25.
- Nomura M., Kodaira T., et al. Recursive partitioning analysis for new classification of patients with esophageal cancer treated by chemoradiotherapy. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 84(3): 786-92.
- Tomita N., Kodaira T., et al. A case of cervical multicentric Castleman disease treated with intensity-modulated radiation therapy using helical tomotherapy. *Jpn. J. Radiol.* 2012;

30(4): 349-53.

Shimizu H., Kodaira T., et al. Evaluation of parotid gland function using equivalent cross-relaxation rate imaging applied magnetization transfer effect. *J. Radiat. Res.* 2012; 53 (1): 138-44.

Tomita N., Kodaira T., et al. Preliminary results of intensity modulated radiation therapy with helical tomotherapy for prostate cancer. *J. Cancer Res. Clin. Oncol.* 2012; 138(11): 1931-6.

Nakahara R., Kodaira T., et al. Treatment outcomes of definitive chemoradiotherapy for patients with hypopharyngeal cancer. *J. Radiat. Res.* 2012; 53(6): 906-15.

Nomura M., Kodaira T., et al. Prognostic impact of the 6th and 7th American joint committee on cancer TNM staging systems on esophageal cancer patients treated with chemoradiotherapy. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 82(2): 946-52.

Nomura M., Kodaira T., et al. Predictive factors for radiation pneumonitis in esophageal cancer patients treated with chemoradiotherapy without prophylactic nodal irradiation. *Br. J. Radiol.* 2012; 85(1014): 813-8.

古平毅. 頭頸部癌放射線治療の現状と展望 IMRT を中心とした高精度放射線治療による個別化治療の展開. *JCR News* 2012; 168: 5-6.

古平毅. 知っておきたい新しいがん治療 トモセラピー 緩和ケア 2012; 22(2): 140-1.

古平毅. 知っておきたい放射線・粒子線治療 1)頭頸部癌に対する放射線治療の現況と展望. *臨床外科* 2012; 67(8): 970-6.

富田夏夫, 古平毅, 他. トモセラピー強度

変調放射線治療専用機について *Rad. Fan.* 2012; 10(3): 33-35.

Murakami Y., Kenjo M., et al. Long-term outcomes of intraluminal brachytherapy in combination with external beam radiotherapy for superficial esophageal cancer. *Int. J. Clin. Oncol.* 2012; 17(3): 263-71.

Emi M., Kenjo M., et al. Neoadjuvant chemoradiotherapy with docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil for esophageal cancer. *Cancer Chemother. Pharmacol.* 2012; 69(6): 1499-1505.

Murakami E., Kenjo M., et al. Hepatic arterial infusion chemotherapy using 5-fluorouracil and systemic interferon- α for advanced hepatocellular carcinoma in combination with or without three-dimensional conformal radiotherapy to venous tumor thrombosis in hepatic vein or inferior vena cava. *Hepatol. Res.* 2012; 42(5): 442-53.

Onishi H., Ogawa K., et al. Large prostate motion produced by anal contraction. *Radiother. Oncol.* 2012; 104(3): 390-4.

Iraha Y., Ogawa K., et al. Diffusion-weighted MRI and PSA correlations in patients with prostate cancer treated with radiation and hormonal therapy. *Anticancer Res.* 2012; 32(10): 4467-71.

Yoshioka Y., Ogawa K., et al. Analysis of late toxicity associated with external beam radiation therapy for prostate cancer with uniform setting of classical 4-field 70 Gy in 35 fractions: a survey study by the Osaka Urological Tumor Radiotherapy Study Group. *J. Radiat. Res.* 2012; 54(1): 113-25.

Mabuchi S., Ogawa K., et al. Comparison of

the prognoses of FIGO Stage I to Stage II adenosquamous carcinoma and adenocarcinoma of the uterine cervix treated with radical hysterectomy. *Int. J. Gynecol. Cancer*. 2012; 22(8): 1389-97.

Takahashi Y., Koizumi M., Ogawa K., et al. The usefulness of an independent patient-specific treatment planning verification method using a benchmark plan in high-dose-rate intracavitary brachytherapy for carcinoma of the uterine cervix. *J. Radiat. Res.* 2012; 53(6): 936-44.

Akiyama H., Koizumi M., Ogawa K., et al. Dose reduction trial from 60 Gy in 10 fractions to 54 Gy in 9 fractions schedule in high-dose-rate interstitial brachytherapy for early oral tongue cancer. *J. Radiat. Res.* 2012; 53(5): 722-6.

Ogawa K., et al. Treatment and prognosis of angiosarcoma of the scalp and face: a retrospective analysis of 48 patients. *Br. J. Radiol.* 2012; 85(1019): e1127-33.

Mabuchi S., Ogawa K., et al. Impact of histological subtype on survival of patients with surgically-treated stage IA2-IIB cervical cancer: adenocarcinoma versus squamous cell carcinoma. *Gynecol. Oncol.* 2012; 127(1): 114-20.

Yamashiro T., Ogawa K., et al. CT scans of the chest in carriers of human T-cell lymphotropic virus type 1: presence of interstitial pneumonia. *Acad. Radiol.* 2012; 19(8): 952-7.

Ogawa K., Onishi H., et al. Japanese Radiation Oncology Study Group Working Subgroup of Gastrointestinal Cancers. Concurrent radiotherapy and gemcitabine for unresectable pancreatic adenocarcinoma: impact of adjuvant chemotherapy on survival. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 83(2): 559-65.

Nishimura Y., Ogawa K., et al. Clinical practice and outcome of radiotherapy for esophageal cancer between 1999 and 2003: The Japanese Radiation Oncology Study Group (JROSG) Survey. *Int. J. Clin. Oncol.* 2012; 17(1): 48-54.

中井康友, 小川和彦, 他. 前立腺全摘術後の救済放射線療法. *泌尿器外科* 2012; 25(8): 1675-77.

Shikama N., Sasaki S., et al. Treatment outcome of elderly patients with glioblastoma who received combination therapy. *Am. J. Clin. Oncol.* 2012; 35: 486-9.

Nakamura N., Shikama N., et al. Patterns of practice in palliative radiotherapy for painful bone metastases: A survey in Japan. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 83: e117-20.

Nakamura N., Shikama N., et al. Frequency and clinical significance of previously undetected incidental findings detected on computed tomography simulation scans for breast cancer patients. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 84: 602-5.

Shikama N., et al. Identifying patients who are unsuitable for accelerated partial breast irradiation using three-dimensional external beam conformal techniques. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 83: e313-8.

Nakamura N., Shikama N., Nakagawa K., et al. The relationship between the bladder volume and optimal treatment planning in definitive radiotherapy for localized prostate cancer. *Acta Oncologica.* 2012; 51(6): 730-4.

舟越和人, 鹿間直人, 他. 骨転移 (含脊髄)

- の放射線治療. *日本胸部臨床*(克誠堂出版(東京) 2012; 71.
- 鹿間直人. 乳房切除術後(進行乳癌). 乳腺腫瘍学, *日本乳癌学会編*(金原出版) 2012; 289-92.
- 鹿間直人. 放射線治療における個別化—乳房温存療法後の放射線療法の多様化と個別化. *腫瘍内科 科学評論社* 2012; 10: 126-30.
- 鹿間直人. 多施設共同大規模データベースの意義 JROSG(Japanese Radiation Oncology Group)05-5 試験の意義. 乳癌(第2版)基礎と臨床の最新研究動向 *日本臨床*. 2012; 70: 773-6.
- Onishi H., et al. Stereotactic body radiotherapy for metachronous multisite oligo-recurrence: a long-surviving case with sequential oligo-recurrence in four different organs treated using locally radical radiotherapy and a review of the literature. *Pulm. Med.* 2012; 713073.
- Satoh Y., Onishi H., et al. Value of dual time point F-18 FDG-PET/CT imaging for the evaluation of prognosis and risk factors for recurrence in patients with stage I non-small cell lung cancer treated with stereotactic body radiation therapy. *Eur. J. Radiol.* 2012; 81(11): 3530-4.
- Onishi H., et al. Serious gastric ulcer event after stereotactic body radiotherapy (SBRT) delivered with concomitant vinorelbine in a patient with left adrenal metastasis of lung cancer. *Acta. Oncol.* 2012; 51(5): 624-8.
- 南部敦史, 大西洋, 他. 肺の呼吸・心電同期CT. *映像情報メディカル* 2012; 44(8 増刊号): 67-74. .
- 大西洋, 他. 【連載講座放射線治療】体幹部位定位放射線治療. *Radioisotopes*, 2012; 61(1): 31-43.
- 前畠良康, 大西洋, 他. 化学放射線療法により5年無病生存が得られた骨盤壁に至る巨大膀胱癌の1例. *臨床放射線* 2012; 57(6): 849-852.
- 栗山健吾, 大西洋, 他. 乳癌に対する定位放射線治療の初期経験. *臨床放射線* 2012; 57(6): 853-60.
- Sumida I., Koizumi M., et al. Quality assurance of MLC leaf position accuracy and relative dose effect at the MLC abutment region using an electronic portal imaging device. *J. Radiat. Res.* 2012; 53(5): 798-806.
- Yoshida K., Koizumi M., et al. Interstitial brachytherapy using virtual planning and Doppler transrectal ultrasonography guidance for internal iliac lymph node metastasis. *J. Radiat. Res.* 2012; 53(1): 154-8.
- Akino Y., Koizumi M., et al. Megavoltage cone-beam computed tomography dose and necessity of reoptimization for imaging dose-integrated intensity-modulated radiotherapy for prostate cancer. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 82(5): 1715-22.
- 安藤裕, 私と医療 医療における情報通信技術(IT)の活用. *月刊新医療* 2012; 39(4): 73.
- 安藤裕, 他. 電子カルテと他システムの連携. *映像情報 MEDICAL* 2012; 44(2): 168-176.
- 安藤裕. 放射線治療専門病院における放射線治療情報システム. *Rad. Fan.* 2012; 10(3): 39-42.
- 安藤裕. Part 画像処理と解析 第1章 基礎理論 5. 画像の記録・伝送. *医用画像工*

- 学ハンドブック 2012; 525-542.
- 向井まさみ, 安藤裕, 他. 多施設共同前向き観察研究のための施設間情報連携機能プラットフォームの構築. *臨床放射線* 2012; 57(3): 1877-85.
- Takahashi W., Nakagawa K., et al. Stereotactic body radiotherapy for metastatic lung cancer as oligo-recurrence: an analysis of 42 cases. *Pulm. Med.* 2012; 454107.
- Yamashita H., Nakagawa K., et al. Four-dimensional measurement of the displacement of metal clips or postoperative surgical staples during 320-multislice computed tomography scanning of gastric cancer. *Radiat. Oncol.* 2012; 7: 137.
- Nakagawa K., et al. 4D digitally reconstructed radiography for verifying a lung tumor position during volumetric modulated arc therapy. *J. Radiat. Res.* 2012; 53(4): 628-32.
- Nakagawa K., et al. 4D registration and 4D verification of lung tumor position for stereotactic volumetric modulated arc therapy using respiratory-correlated cone-beam CT. *J. Radiat. Res.* 2012; 54(1): 152-6.
- Kawashima M., Nakagawa K., et al. Comparison of total MU and segment areas in VMAT and step-and-shoot IMRT plans. *Radiol. Phys. Technol.* 2012; 6(1): 14-20.
- Isayama H., Nakagawa K., et al. Clinical benefit of radiation therapy and metallic stenting for unresectable hilar cholangiocarcinoma. *World J. Gastroenterol.* 2012; 18(19): 2364-70.
- Fukui M., Nakagawa K., et al. Effectiveness of using clinical guidelines for conducting palliative care family meetings in Japan. *Support Care Cancer.* 2012; 21(1): 53-8.
- Igaki H., Nakagawa K. Radiological clinical practice and its safety in hospital. *Nihon Rinsho* 2012; 70(3): 475-8.
- Yamashita H., Nakagawa K., et al. Four-dimensional measurement of the displacement of internal fiducial and skin markers during 320-multislice computed tomography scanning of breast cancer. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 84(2): 331-5.
- Imae T., Nakagawa K., et al. Motion analysis of target during stereotactic radiotherapy of lung tumors using volumetric modulated arc therapy. *Nihon Hoshasen Gijutsu Gakkai Zasshi* 2012; 68(2): 153-61.
- Kida S., Nakagawa K., et al. In-treatment 4D cone-beam CT with image-based respiratory phase recognition. *Radiol. Phys. Technol.* 2012; 5(2): 138-47.
- Takahashi W., Nakagawa K., et al. Evaluation of heterogeneity dose distributions for Stereotactic Radiotherapy (SRT): comparison of commercially available Monte Carlo dose calculation with other algorithms. *Radiat. Oncol.* 2012; 7: 20.
- Yamashita H., Nakagawa K., et al. Correlation between bladder volume and irradiated dose of small bowel in CT-based planning of intracavitary brachytherapy for cervical cancer. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2012; 42(4): 302-8.
- Sakumi A., Nakagawa K., et al. Single-arc volumetric modulated arc therapy planning for left breast cancer and regional nodes. *J. Radiat. Res.* 2012; 53(1): 151-3.
- Hashimoto M., Nakagawa K., et al. Investigation of the feasibility of a simple

- method for verifying the motion of a binary multileaf collimator synchronized with the rotation of the gantry for helical tomotherapy. *J. Appl. Clin. Med. Phys.* 2012; 13(1): 3700.
- Koga T., Nakagawa K., et al. Extended field stereotactic radiosurgery for recurrent glioblastoma. *Cancer.* 2012 ; 118(17): 4193-200.
- 中川恵一. 「放射線のものさし」朝日出版社 総数 205 頁 2012.10 発行
- Koga T., Terahara A., et al. Outcomes of diffusion tensor tractography-integrated stereotactic radiosurgery. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2012; 82(2): 799-802.
- Isobe K., Terahara A., et al. Pathological response and prognosis of stage III non-small cell lung cancer patients treated with induction chemoradiation. *Asia Pac. J. Clin. Oncol.* 2012; 8 (3): 260-266.
- 佐々木茂. 肺癌放射線治療の合併症とその対策 *日本胸部臨床* 2012; 71: 364-372.
- Tomita T., Toita T., Kodaira T., Uno T., Numasaki H., Teshima T., et al. Changing trend in the patterns of pretreatment diagnostic assessment for patients with cervical cancer in Japan. *Gynecologic Oncology* 2011; 123: 577-80.
- Ono T., Numasaki H., Teshima T., et al. Respiratory monitoring with an acceleration sensor. *Physics in Medicine Biology* 2011; 56: 6279-6289.
- Numasaki H., Koizumi M., Ando Y., Tsukamoto N., Terahara A., Nakamura K., Teshima T., et al. Japanese structure survey of radiation oncology in 2007 with special reference to designated cancer care hospitals. *Strahlenther. Onkol.*, 2011; 187(3): 167-74.
- Ozawa S., Tachimori Y., Numasaki H., Teshima T., Uno T., et al. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2003 *Esophagus* 2011; 8: 9-29.
- 古平毅, 戸板孝文, 宇野隆, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 日本 PCS 子宮頸癌小作業部会: 婦人科疾患の診断と治療 update 治療放射線療法 10) 放射線治療の現況 PCS より. *臨床放射線* 2011; 56(11): 1649-56.
- 手島昭樹, 沼崎穂高, 小泉雅彦, 安藤裕, 塚本信宏, 寺原敦朗, 中村和正, 他. JASTRO データベース委員会. 全国放射線治療施設の 2009 年定期構造調査報告(第 1 報). *日本放射線腫瘍学会 放射線腫瘍学データセンター*
<http://www.jastro.or.jp/aboutus/datasenter.php> 2011/12/21; 1-24.
- 手島昭樹, 沼崎穂高, 小泉雅彦, 安藤裕, 塚本信宏, 寺原敦朗, 中村和正, 他. JASTRO データベース委員会. 全国放射線治療施設の 2009 年定期構造調査報告(第 2 報). *日本放射線腫瘍学会 放射線腫瘍学データセンター*
<http://www.jastro.or.jp/aboutus/datasenter.php> 2011/12/21; 1-23.
- Ozawa S., Teshima T., et al. Registration Committee for Esophageal Cancer. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2003. The Japan Esophageal Society. 2011
- Ogawa K., Nakamura K., Onishi H., Koizumi M., Teshima T., et al. Radical external beam radiotherapy for clinically localized prostate cancer in Japan: Changing trends in the Patterns of Care Process Survey. *Int. J. Radiat.*

- Oncol. Biol. Phys.* 2011; 81(5): 1310-18.
- Ogata T., Teshima T., et al. Carbon ion irradiation suppresses metastatic potential of human non-small cell lung cancer A549 cells through the phosphatidylinositol-3-kinase/Akt signaling pathway. *J. Radiation Research* 2011; 52(3): 374-379.
- Yogo A., Teshima T., Measurement of DNA double-strand break yield in human cancer cells by high-current, short-duration bunches of laser-accelerated protons. *Jpn. J. Appl. Phys.* 2011; 50:106401(1-7).
- Yoshioka M., Teshima T., et al. Examination of fundamental characteristics of a polymer gel detection in a proton beam irradiation. *Radiation Measurements.* 2011; 46(1): 64-71.
- 手島昭樹. <夢はバラ色> 日本学術振興会先端研究拠点事業 - 拠点形成型 - 「医学物理研究教育拠点の形成」 *生産と技術* 2011; 63(4): 98-100.
- 横内秀起, 手島昭樹, 他. 逐次科学放射線療法で臨床的著効が得られた切除不能縦隔癌の一例. *癌と科学療法.* 2011; 38(1): 2149-96.
- Takaha N., Miki T., et al. Feasibility of tri-weekly docetaxel-based chemotherapy for elderly patients (age 75 and older) with castration-resistant prostate cancer. *Urol. Int.* 2011; 87(3): 263-9.
- Fujimoto H., Miki T., et al. Oncological outcomes of the registered prostate cancer patients diagnosed in Japan: 2004 report from the Cancer Registration Committee of the Japanese Urological Association. *Int. J. Urol.* 2011; 18: 876-881.
- Kawauchi A., Miki T., et al. Laparoendoscopic single-site surgery for pediatric patients in urology. *Curr. Opin. Urol.*, 2011; 21(4): 303-308.
- Ochiai A., Miki T., et al. Prostate cancer gene 3 urine assay for prostate cancer in Japanese men undergoing prostate biopsy. *Int. J. Urol.*, 2011; 18(3): 200-205.
- Yano K., Miki T., et al. Chetomin induces degradation of XIAP and enhances TRAIL sensitivity in urogenital cancer cells. *Int. J. Oncol.*, 2011; 38(2): 365-374.
- Nishida K., Miki T., et al. Incremental value of T2-weighted and diffusion-weighted MRI for prediction of biochemical recurrence after radical prostatectomy in clinically localized prostate cancer. *Acta. Radiol.*, 2011; 52(1): 120-126.
- Takaha N., Miki T., et al. Optimal duration of androgen deprivation in combination with radiation therapy for Japanese men with high-risk prostate cancer. *Urol. Int.*, 2011; 87(1): 28-34.
- Akaza H., Miki T., et al. Combined immunotherapy with low-dose IL-2 Plus IFN- α for metastatic renal cell carcinoma: survival benefit for selected patients with lung metastasis and serum sodium level. *Jpn J Clin Oncol.* 2011; 41(8):1023-1030.
- Shibata T., Tachimori Y., et al. NRF2 mutation confers malignant potential and resistance to chemoradiation therapy in advanced esophageal squamous cancer. *Neoplasia.*, 2011; 13(9): 864-73.
- Aoyagi K., Tachimori Y., et al. Artificially induced epithelial-mesenchymal transition in surgical subjects: its implications in clinical and

- basic cancer research. *PLoS ONE*, 2011; 6(4): e18196.
- Tachimori Y., et al. Pattern of lymph node metastases of esophageal squamous cell carcinoma based on the anatomical lymphatic drainage system. *Dis Esophagus*. 2011; 24(1): 33-8.
- 日月裕司, 他. 化学放射線療法後のサルベージ手術, *日本臨床, 食道癌* 2011; 69(増)6 : 368-373.
- 日月裕司, 他. サルベージ手術, *日本外科学会雑誌* 2011; 112(2): 117-121.
- Uehara T., Kasamatsu T., et al. Prognostic impact of the history of breast cancer and of hormone therapy in uterine carcinosarcoma. *Int. J. Gynecol. Cancer*. 2012; 22: 280-5.
- Togami S., Kasamatsu T., et al. A rare case of recurrent ovarian cancer presenting as a round ligament metastasis. *World J. Surg. Oncol*. 2011; 9: 144.
- Uehara T., Kasamatsu T. et al. Safety and efficacy of a splenectomy during debulking surgery for Mullerian carcinoma. *European J. Gynaecol. Oncol*. 2011; 32: 269-73.
- Toita T., Uno T., Kasamatsu T., Kodaira T., et al. A consensus-based guideline defining clinical target volume for primary disease in external beam radiotherapy for intact uterine cervical cancer. *Jpn. J. Clin. Oncol*. 2011; 41: 1119-26.
- Sawada M., Kasamatsu T., et al. Primary extraskelatal myxoid chondrosarcoma of the vulva. *J. Obstet. Gynaecol. Res*. 2011; 37: 1706-10.
- Koga Y., Kasamatsu T., et al. Novel virtual cytological analysis for the detection of endometrial cancer cells using autoscanning fluoromicroscopy. *Cancer Sci*. 2011; 102: 1068-75.
- Onoe S., Kinoshita T., et al. Feasibility of breast conserving surgery for Paget's disease. *The Breast* 2011; 20: 515-8.
- Tamura N., Kinoshita T. A case of metaplastic carcinoma of the breast. *Jpn. J. Clin. Oncol.*, 2011; 41(8): 1045.
- Hasebe T., Kinoshita T., et al. Prognostic significance of mitotic figures in metastatic mammary ductal carcinoma to the lymph nodes. *Hum. Pathol.*, 2011; 42: 1823-32.
- Hasebe T., Kinoshita T., et al. Modified primary tumour/vessel tumour/nodal tumour classification for patients with invasive ductal carcinoma of the breast. *British Journal of Cancer*, 2011; 105: 698-708.
- Hasebe T., Kinoshita T., et al. Important histologic outcome predictors for patients with invasive ductal carcinoma of the breast. *Am. J. Surg. Pathol.*, 2011; 35(10): 1484-97.
- Hasebe T., Kinoshita T., et al. Atypical tumor-stromal fibroblasts in invasive ductal carcinoma of the breast. *Am. J. Surg. Pathol.*, 2011; 35(3): 325-36.
- Kinoshita T. Preoperative therapy: recent findings. *Breast Cancer*, 2011; 18: 80-4.
- Hasebe T., Kinoshita T., et al. Atypical tumor-stromal fibroblasts in invasive ductal carcinomas of the breast treated with neoadjuvant therapy. *Hum. Pathol.*, 2011; 42: 998-1006.
- Tamura K., Kinoshita T., et al. FcγR2A and 3A polymorphisms predict clinical outcome of trastuzumab in both neoadjuvant and metastatic settings in patients with HER2-positive breast

- cancer. *Annals. Oncol.*, 2011; 22: 1302-7.
- Tsuda H., Kinoshita T., et al. A histopathological study for evaluation of therapeutic effects of radiofrequency ablation in patients with breast cancer. *Breast Cancer*, 2011; 18 (1): 24-32.
- Yoshida M., Kinoshita T., et al. Prognostic factors in young Japanese women with breast cancer: prognostic value of age at diagnosis. *Jpn. J. Clin. Oncol.*, 2011; 41(2): 180-9.
- Seki K., Kinoshita T., et al. Histopathological effect of radiofrequency ablation therapy for primary breast cancer, with special reference to changes in cancer cells and stromal structure and a comparison with enzyme histochemistry. *Breast Cancer* 2011; 18: 18-23.
- Kinoshita T., et al. Radiofrequency ablation as local therapy for early breast carcinomas. *Breast Cancer* 2011; 18:10-17.
- 木下貴之 . 乳癌に対する熱凝固療法の適応と限界 - RFA を中心に - . *Surgery Frontier*, 2011; 18(3): 19-26.
- Tasaki E., Goya T., et al. Serum cytokine profiles in patients with prostate carcinoma. *Exp. Ther. Med.* 2011; 2: 887-891.
- Matsuguma H., Goya T., et al. Is there a role for pulmonary metasectomy with a curative intent in patients with metastatic urinary transitional cell carcinoma *Ann. Thorac. Surg.* 2011; 92: 449-54.
- Tanaka R., Goya T., et al. Diffusion-weighted magnetic resonance imaging in differentiating the invasiveness of small lung adenocarcinoma. *Acta. Radiologica.* 2011; 52: 750-5.
- Tanaka R., Goya T., et al. The development of new instruments(NT forceps) for video-assisted thoracoscopic surgery. *Surge. Today* 2011; 41: 303-5.
- Tanaka R., Goya T., et al. The development of New instruments(NT forceps) for video-assisted thoracoscopic surgery. *Surge. Today* 2011; 41: 303-305
- 光森通英, 鹿間直人, 山内智香子, 他. 放射線治療小委員会 : 科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン 1 , 治療編 2011 年版 日本乳癌学会編 金原出版 2011; 258-318.
- 山内智香子. G 乳癌 がん放射線治療と看護の実践 井上俊彦, 山下孝, 齋藤安子編集. 金原出版 2011 : 152-163.
- 山内智香子. 放射線療法 乳癌レビュー 2012 戸井雅和編著 メディカルレビュー 2011; 155-161.
- 山内智香子, 他. 術後局所再発に対する放射線治療戦略 これからの乳癌診療 2011-2012 園尾博司編 金原出版 2011; 92-98.
- 淡河恵津世, 中村和正, 山内智香子, 他. 【胸部の最新画像情報 2011】乳房温存術後放射線治療中および直後における肺障害についての検討(原著論文/特集) *臨床放射線*, 2011; 56(1): 113-120.
- 山内智香子, 他. 乳癌治療 病態別治療の体系化 原発性乳癌の病態と治療指針 放射線治療. *月刊カレントセラピー 別冊* 2011; 29(5): 5 月号.
- Tsujino K., Uno T., et al. A survey of patients with inflammatory skin recurrence corresponding to the area of previous irradiation after postoperative radiotherapy for breast cancer. *J. Radiat. Res.*, 2011; 52(6): 797-803.
- Watanabe M., Uno T., et al. Intrafractional

- gastric motion and interfractional stomach deformity using CT images. *J. Radiat. Res.*, 2011; 52(5): 660-5.
- Toita T., Kodaira T., Uno T., et al. Disease Committee of Radiation Oncology, Japanese Gynecologic Oncology Group. Radiotherapy quality assurance of the Japanese Gynecologic Oncology Group study (JGOG1066): a cooperative phase II study of concurrent chemoradiotherapy for uterine cervical cancer. *Int. J. Clin. Oncol.* 2011; 16(4): 379-86.
- Hatakenaka M., Nakamura K., et al. Apparent diffusion coefficient calculated with relatively high b-values correlates with local failure of head and neck squamous cell carcinoma treated with radiotherapy. *AJNR Am. J. Neuroradiol.*, 2011; 32(10):1904-10.
- Hatakenaka M., Nakamura K., et al. Pretreatment apparent diffusion coefficient of the primary lesion correlates with local failure in head-and-neck cancer treated with chemoradiotherapy or radiotherapy. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.*, 2011; 81(2): 339-45.
- Shinoto M., Nakamura K., et al. Clinical results of definitive chemoradiotherapy for patients with synchronous head and neck squamous cell carcinoma and esophageal cancer. *Am. J. Clin. Oncol.*, 2011; 34(4): 362-366.
- 中村和正, 他. 外照射療法の現状と展望. *日本臨床* 2011; 69(suppl 5): 408-411.
- 中村和正. 前立腺がん. これだけは知っておきたい!放射線療法 Q&A —基本知識と最前線—がん治療レクチャー 2011; 2(1): 154-158.
- Hashimoto K., Sumi M., et al. Comparison of clinical outcomes of surgery followed by local brain radiotherapy and surgery followed by whole brain radiotherapy in patients with single brain metastasis: single-center retrospective analysis. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2011; 81(4): 475-80.
- Shikama N., Nakamura K., Kodaira T., Sasaki S., on behalf of the Japan Radiation Oncology Group (JAROG). A long-term follow-up study of prospective 80%-dose CHOP followed by involved-field radiotherapy in elderly lymphoma patients. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2011; 41(6): 764-769.
- Kato H., Kodaira T., et al. Nodal relapse after Helicobacter pylori eradication in a patient with primary localized gastric mucosa associated lymphoid tissue lymphoma. *Am. J. Gastroenterology* 2011; 106 (3): 549-51.
- Tomita N., Kodaira T., et al. Factors associated with nodal metastasis in nasopharyngeal cancer: an approach to reduce the radiation field in selected patients. *Br. J. Radiol.* 2011; 84(999): 265-70.
- Inokuchi H., Kodaira T., et al. Clinical usefulness of [(18)F] Fluoro-2-deoxy-d-glucose uptake in 178 head-and-neck cancer patients with nodal metastasis treated with definitive chemoradiotherapy: Consideration of its prognostic value and ability to provide guidance for optimal selection of patients for planned neck dissection. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.*, 2011; 79(3): 747-55.
- Kato H., Kodaira T., et al. Nodal relapse after Helicobacter pylori eradication in a patient with primary localized gastric mucosa associated lymphoid tissue lymphoma. *Am. J.*

- Gastroenterology*, 2011; 106(3): 549-51.
- Tomita N., Kodaira T., et al. Factors associated with nodal metastasis in nasopharyngeal cancer: an approach to reduce the radiation field in selected patients. *Br. J. Radiol.*, 2011; 84(999): 265-70.
- 古平毅. 高精度放射線治療の適応と成果—そして課題—II 高精度放射線治療の適応と課題: 疾患別の検討 2 頭頸部癌の最新放射線治療 強度変調放射線治療 (IMRT) *INNERVISION* 2011; 26(3): 23-26.
- 古平毅. Current topics: 頭頸部癌 頭頸部がんに対する通常放射線治療と強度変調放射線治療の比較 効果と有害事象 癌と化学療法 2011; 38(7): 1103-06.
- 古平毅, 他. 伊藤淳二: 要望演題 1 高精度治療および短期照射治療に伴う有害事象 頭頸部癌 IMRT 症例の唾液腺機能評価の検討. *臨床放射線* 2011; 56(8): 935-942.
- 中村達也, 古平毅, 寺原敦朗, 他. 【JROSG (Japanese Radiation Oncology Study Group)の現状】 頭頸部腫瘍委員会. *癌の臨床* 2011; 56: 493-497.
- Kodama H., Kenjo M., et al. Clinical outcome of esophageal varices after hepatic arterial infusion chemotherapy for advanced hepatocellular carcinoma with major portal vein tumor thrombus. *Hepatol. Res.* 2011; 41(11): 1046-56.
- 山崎文之, 権丈雅浩, 他. テモゾロミド点滴静注用剤と脳神経外科領域での制吐療法 *脳神経外科速報*. 2011; 21(10): 1134-1141.
- Ogawa K., et al. Brain metastases from breast cancer: Treatment and prognosis. In Hayat MA, editor. *Tumors of the Central Nervous System. 1st ed. Heidelberg, Springer*, 2011; 3: 47-52.
- Ogawa K., Onishi H., et al. JROSG Working Subgroup of Gastrointestinal Cancers. Intraoperative radiotherapy for unresectable pancreatic cancer: a multi-institutional retrospective analysis of 144 patients. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.*, 2011; 80(1): 111-8
- Iida G., Ogawa K., et al. Clinical significance of Thallium-201 SPECT after postoperative radiotherapy in patients with glioblastoma multiforme. *J. Neurooncol.* 2011; 103(2): 297-305.
- Hirakawa M., Toita T., Ogawa K., et al. High-risk group for locoregional recurrence in patients with stage IB-II B squamous cell carcinoma of the cervix treated with concurrent chemoradiotherapy. *Anticancer Res.* 2011; 31: 1347-1442.
- Chiba I., Ogawa K., et al. Clinical significance of GLUT-1 expression in patients with esophageal cancer treated with concurrent chemoradiotherapy. *Oncol. Lett.* 2011; 2(1): 21-28,
- Miyara T., Ogawa K., et al. Bronchial diverticula detected by multidetector-row computed tomography: Incidence and clinical features. *J. Thorac Imaging.* 2011; 263: 204-8.
- Shikama N., et al. Management of locoregional recurrence of breast cancer. *Breast Cancer.* 2011; 18: 252-258.
- Nakamura N., Shikama N., et al. Quantification of cold spots caused by geometrical uncertainty in field-in-field techniques for whole breast radiotherapy. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2011; 41(9): 1127-1131.
- 鹿間直人. 放射線治療. *Visual Dermatology.* 2011; 11(1): 74-77.

- 鹿間直人. 科学的根拠に基づく乳がん診療ガイドライン 治療編 2011 版 日本乳癌学会編 金原出版 2011; 293-298.
- 鹿間直人. 放射線療法 . 一冊でわかる皮膚がん. 文光堂 2011; 107-111.
- Nambu A., Onishi H., K, et al. Rib fracture after stereotactic radiotherapy on follow-up thin-section computed tomography in 177 primary lung cancer patients. *Radiat. Oncol.* 2011; 6: 137.
- Onishi H., Kozuka T., et al. Stereotactic body radiotherapy (SBRT) for operable stage I non-small-cell lung cancer: Can SBRT be comparable to surgery? *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2011; 81(5) 1352-8.
- Nambu A., Onishi H., et al. Value of dual time point F-18 FDG-PET/CT imaging for the evaluation of prognosis and risk factors for recurrence in patients with stage I non-small cell lung cancer treated with stereotactic body radiation therapy. *Eur. J. Radiol.* 2011; 6: 137.
- 大西洋, 他. 体幹部定位放射線治療 *Radioisotopes* 2011; 61: 31-42
- Morimoto M., Koizumi M., et al Significance of tumor volume related to peritumoral edema in intracranial meningioma treated with extreme hypofractionated stereotactic radiation therapy in three to five fractions. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2011; 41(5): 609-16.
- Kotsuma T., Koizumi M., et al. Preliminary results of magnetic resonance imaging-aided high-dose-rate interstitial brachytherapy for recurrent uterine carcinoma after curative surgery. *J. Radiat. Res.* 2011; 52(3): 329-34.
- Isohashi F., Koizumi M., et al. A case of bullous pemphigoid exacerbated by irradiation after breast conservative radiotherapy. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2011; 41(6): 811-3.
- Ogata T., Koizumi M., et al. Weekly verification of dosimetric data for virtual wedge using a 2-D diode detector array. *Medical Dosimetr.* 2011; 36(3): 246-9.
- Yoshioka Y., Koizumi M., et al. Monotherapeutic high-dose-rate brachytherapy for prostate cancer: Five-year results of an extreme hypofractionation regimen with 54 Gy in nine fractions. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.*, 2011; 80(2): 469-75.
- 小泉雅彦. 【がんと骨の遭遇】がん骨転移の放射線治療. *Clinical Calcium.* 2011; 21(3): 455-64.
- 安藤裕, 画像ネットワークの基礎知識、臨床画像、2011; 27(5): 556-570.
- Nakagawa K., et al. Radiation therapy did not alleviate complete paralysis due to metastasis of lung adenocarcinoma to thoracic vertebrae until four months later. *Acta Oncol.* 2011; 50(4): 606-8.
- Kida S., Nakagawa K., et al. 4D-CBCT reconstruction using MV portal imaging during volumetric modulated arc therapy. *Radiother. Oncol.* 2011; 100(3): 380-5.
- Yoda K., Nakagawa K. Technical note: Extension of Van Herk's treatment margin model for anisotropic systematic positioning errors in cartesian coordinate system. *Med. Phys.* 2011; 38(7): 3913-4.
- Sakumi A., Nakagawa K., et al. First in-situ dose calculation report using in-treatment kilovoltage cone-beam ct and in-treatment linac parameters during volumetric modulated arc therapy. *J. Radiat. Res.* 2011; 52(4): 536-7.

- Okuma K., Nakagawa K., et al. Abscopal effect of radiation on lung metastases of hepatocellular carcinoma: a case report. *J. Med. Case Reports*. 2011; 5: 111.
- Yamashita H., Nakagawa K., et al. Details of recurrence sites after elective nodal irradiation (ENI) using 3D-con-formal radiotherapy (3D-CRT) combined with chemotherapy for thoracic esophageal squamous cell carcinoma-A retro-spective analysis. *Radiother. Oncol.* 2011; 98(2): 255-60.
- Koga T., Terahara A., et al. Outcomes of radiosurgery for brainstem arteriovenous malformations. *Neurosurgery* 2011; 69(1): 45-51, discussion 51-2.
- 寺原敦朗. 【基礎と臨床の対話】 寡分割照射の基礎と臨床 ガンマナイフによる定位手術的照射(SRS). *癌の臨床* 2011; 56: 469-473.
- 佐々木茂, 他. 放射線腫瘍学 第1章 放射線腫瘍学総論. 酒井史和編: *STEP SERIES 放射線科*, 海馬書房, 東京, 2011; 345-58.
- 小岩井慶一郎, 鹿間直人, 佐々木茂 他. 放射線腫瘍学 第2章 各悪性新生物における放射線治療. 酒井史和編: *STEP SERIES 放射線科*, 海馬書房, 東京, 2011; 359-92.
- 佐々木茂, 他. 放射線腫瘍学 第3章 緩和治療. 酒井史和編: *STEP SERIES 放射線科*, 海馬書房, 東京, 2011; 393-396.
- Teshima T., Numasaki H., Koizumi M., Ando Y., Tsukamoto N., Terahara A., Nakamura K., Mitsumori M., et al. and Japanese Society of Therapeutic Radiology and Oncology Database Committee.: Japanese Structure Survey of Radiation Oncology in 2007 based on institutional stratification of Patterns of Care Study. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2010; 78(5): 1483-93.
- Sato K., Numasaki H., Teshima T., et al. γ -H2AX and phosphorylated ATM focus formation on cancer cell line by laser plasma x-ray irradiation. *Radiat. Research* 2010; 174(4): 436-45.
- Ozawa S., Tachimori Y., Numasaki H., Teshima T., Uno T., et al. Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2002. *Esophagus* 2010; 7: 7-22.
- Nishikino M., Numasaki H., Teshima T., et al. Application of laser produced plasma K α X-ray probe in radiation biology. *Rev. Sci. Instrum.*, 2010; 81(4): 026107.
- Mochimaru Y., Numasaki H., Teshima T., et al. JASTRO Committee. Relations between radiotherapy resources and breast cancer patient survival rates. *Asian Pac. J. Cancer Prev.*, 2010; 11(2): 513-517.
- Japanese PCS Working Group.: Radiation oncology in multidisciplinary cancer in multidisciplinary cancer therapy-basic requirements for quality assurance of radiotherapy based on Patterns of Care Study. 2010. 10. Ministry of Health, Labour and Welfare Cancer Research Grant, Planned Research Study 2010; 78-79.
- Ozawa S., Tachimori Y., Numasaki H., Teshima T., Uno T., et al. The Registration Committee for Esophageal Cancer.: Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2002. The Japan Esophageal Society (Chiba), March 2010
- 佐藤克俊, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. レーザープラズマ X 線マイクロビーム照射装置の

開発と放射線生物学研究応用. *電気学会論文誌 C* 2010; 130(10): 1800-1805.

沼崎穂高, 手島昭樹, 宇野隆, 中村和正, 角美奈子, 権丈雅浩, 他. 日本 PCS 作業部会、特集 医療実態調査研究(PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、2.総論・技術開発、PCS と個人情報保護. *癌の臨床* 2010; 56(2): 87-94
沼崎穂高, 手島昭樹, 宇野隆, 中村和正, 角美奈子, 権丈雅浩, 他. 日本 PCS 作業部会、特集 医療実態調査研究(PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、2.総論・技術開発、データの正確性を高める工夫. *癌の臨床* 2010; 56(2): 95-103.

光森通英, 鹿間直人, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 日本 PCS 乳癌小作業部会、特集 医療実態調査研究(PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、3.疾患各論、乳癌、乳房温存療法. *癌の臨床* 2010; 56(2): 105-114.

鹿間直人, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 日本 PCS 乳癌小作業部会、特集 医療実態調査研究(PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、3.疾患各論、乳癌、乳房切除術後・放射線療法. *癌の臨床* 2010; 56(2): 115-120.

権丈雅浩, 宇野隆, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 日本 PCS 食道癌小作業部会、特集 医療実態調査研究(PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、3.疾患各論、食道癌、食道癌の集学治療における放射線治療の位置づけ. *癌の臨床* 2010; 56(2): 121-126.

角美奈子, 宇野隆, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 日本 PCS 肺癌小作業部会、特集 医療実態

調査研究(PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、3.疾患各論、肺癌、非小細胞肺癌—診療過程と放射線治療方法の変遷—. *癌の臨床* 2010; 56(2): 127-133.

宇野隆, 角美奈子, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 日本 PCS 肺癌小作業部会、特集 医療実態調査研究(PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、3.疾患各論、肺癌、小細胞肺癌. *癌の臨床* 2010; 56(2): 135-138.

古平毅, 戸板孝文, 宇野隆, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 日本 PCS 子宮頸癌小作業部会、特集 医療実態調査研究(PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、3.疾患各論、子宮頸癌 非手術症例、医療実態調査研究(PCS)から見た子宮頸癌非手術（根治的治療）症例における放射線治療の現状と問題点. *癌の臨床* 2010; 56(2): 139-147.

篠田充功, 戸板孝文, 古平毅, 宇野隆, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 日本 PCS 子宮頸癌小作業部会、特集 医療実態調査研究(PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、3.疾患各論、子宮頸癌 手術症例、医療実態調査研究(PCS)から見た子宮頸癌手術（術後照射）症例における放射線治療の現状. *癌の臨床* 2010; 56(2): 149-154.

中村和正, 小川和彦, 大西洋, 小泉雅彦, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 日本 PCS 前立腺癌小作業部会、特集 医療実態調査研究(PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、3.疾患各論、前立腺癌 総論、前立腺癌に対する医療実態調査研究(PCS)：総論および内分泌療法抵

- 抗・再燃例の検討. *癌の臨床* 2010; 56(2): 155-161.
- 小川和彦, 中村和正, 大西洋, 小泉雅彦, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 日本 PCS 前立腺癌小作業部会、特集 医療実態調査研究 (PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、3. 疾患各論、前立腺癌 根治照射症例、前立腺癌に対する根治的外部照射治療—医療実態調査研究 (PCS)から見たわが国の 10 年間の変化—. *癌の臨床* 2010; 56(2): 162-167.
- 小泉雅彦, 中村和正, 小川和彦, 大西洋, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 日本 PCS 前立腺癌小作業部会、特集 医療実態調査研究 (PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、3. 疾患各論、前立腺癌 根治照射症例(小線源治療)、医療実態調査研究(PCS)から見たわが国の前立腺癌に対する小線源治療の 10 年間の変化. *癌の臨床* 2010; 56(2): 169-175.
- 荒屋正幸, 大西洋, 中村和正, 小泉雅彦, 小川和彦, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 日本 PCS 前立腺癌小作業部会、特集 医療実態調査研究(PCS)から見たわが国の放射線治療の 10 年間の変化・現状そして問題点、3. 疾患各論、前立腺癌 アジュバント・救済照射症例、医療実態調査研究(PCS)から見たわが国の前立腺癌術後放射線治療の時代的变化. *癌の臨床* 2010; 56(2): 177-185.
- 小澤壯治, 日月裕司, 宇野隆, 手島昭樹, 沼崎穂高, 他. 臓器別がん登録の現状と将来展望—臨床へのフィードバックを目指して—食道癌全国登録の現状と将来展望. 食道癌治療成績のさらなる向上に向けて. *外科治療* 2010; 102 (4): 353-357.
- Ogata T., Teshima T., et al. Early administration of IL-6RA does not prevent radiation-induced lung injury in mice. *Radiat. Oncol.* 2010; 5: 26.
- Otani Y., Tsukamoto N., Teshima T., A comparison of the respiratory signals acquired by different respiratory monitoring systems used in respiratory gated radiotherapy. *Med. Phys.* 2010; 37(12): 6178-6186.
- Hamada N., Teshima T., et al. Recent advances in the biology of heavy-ion cancer therapy. *J. Radiat. Research* 2010; 51(4): 365-83.
- 西村博明, 手島昭樹. レーザー駆動単色 X 線の放射線生物学への応用. *レーザー研究* 2010; 38(12): 981-986.
- 井上俊彦, 手島昭樹, 他. 編集、放射線治療学 改訂 4 版、南山堂(東京), 2010 年 4 月
- 手島昭樹. がんの統合医療、伊藤壽記、上島悦子 監訳、放射線治療とがんの統合医療、メデイカル・サイエンス・インターナショナル(東京) 460-473, 2010 年 9 月
- 手島昭樹. 5.1 がんの統計、大西洋、唐澤久美子、唐澤克之、編著、がん・放射線療法 2010、篠原出版新社(東京), 297-304, 2010 年 11 月
- Okajima E., Miki T., et al. Cancer death from non-muscle invasive bladder cancer: report of the Japanese Urological Association of data from the 1999-2001 registry in Japan. *Int. J. Urol.* 2010; 17(11) 905-12.
- Honjo H., Miki T., et al. Impact of convenience void in a bladder diary with urinary perception grade to assess overactive bladder symptoms: a community-based study. *Neurourol. Urodyn.*, 2010; 29(7):1286-1289.
- Ukimura O., Miki T., et al. Technique for a hybrid system of real-time transrectal ultrasound with preoperative magnetic

- resonance imaging in the guidance of targeted prostate biopsy. *Int. J. Urol.*, 2010; 17(10): 890-893.
- Uemura M., Miki T., et al. 5alphaDH-DOC (5alpha-dihydro-deoxycorticosterone) activates androgen receptor in castration-resistant prostate cancer. *Cancer Sci.* 2010; 101(8): 1897-1904.
- Okada K., Miki T., et al. Community-based prostate cancer screening in Japan: predicting factors for positive repeat biopsy. *Int. J. Urol.*, 2010; 17(6): 541-547.
- Hiraoka K., Miki T., et al. Chloride ion modulates cell proliferation of human androgen-independent prostatic cancer cell. *Cell Physiol. Biochem.*, 2010; 25(4-5): 379-388.
- 沖原宏治, 三木恒治. 他. 前立腺癌検診の有効性評価を目的とした症例対照研究. *腎泌尿予防医誌*, 2010; 18(1): 51-52.
- Sano M., Tachimori Y., et al. Forkhead box A1 transcriptional pathway in KRT7-expressing esophageal squamous cell carcinomas with extensive lymph node metastasis. *Int. J. Oncol.*, 2010; 36(2): 321-30.
- 田中則光, 日月裕司. 他. 食道癌 salvage 手術と気道壊死に関する検討. *日本消化器外科学会雑誌*, 2010; 43(9): 877-881.
- 日月裕司. 化学放射線療法後救済手術. *手術*, 2010; 64(7): 969-975.
- 日月裕司. 食道切除後の再建術 食道回腸吻合・食道結腸吻合. *外科治療*, 2010; 102(suppl): 495-501.
- Tanioka M., Kasamatsu T., et al. Clinical characteristics and outcomes of women with stage IV endometrial cancer. *Med. Oncol.*, 2010; 27: 1371-7.
- Uehara T., Kasamatsu T., et al. A case of vaginal clear cell adenocarcinoma complicated with congenital anomalies of the genitourinary tract and metanephric remnant without prenatal diethylstilbestrol (DES) exposure. *Int. J. Obstet. Gynaecol. Res.*, 2010; 36: 681-5.
- Nakahara I., Kinoshita T., et al. Up-regulation of PSF1 promotes the growth of breast cancer cells. *Genes Cells*, 2010; 15: 1015-1024 .
- Tanioka M., Kinoshita T., et al. Predictors of recurrence in breast cancer patients with a pathologic complete response after neoadjuvant chemotherapy. *British Journal of Cancer*, 2010; 103: 297-302.
- Okada N., Kinoshita T., et al. Metaplastic carcinoma of the breast. *Hum. Pathol.*, 2010; 41: 960-970.
- Hasebe T., Kinoshita T., et al. P53 expression in tumor-stromal fibroblasts forming and not forming fibrotic foci in invasive ductal carcinoma of the breast. *Modern Pathology*, 2010; 23: 662-672.
- Hojo T., Kinoshita T., et al. Evaluation of sentinel node biopsy by combined fluorescent and dye method and lymph flow for breast cancer. *The Breast*, 2010; 19: 210-213.
- Hasebe T., Kinoshita T., et al. Grading system for lymph vessel tumor emboli: significant outcome predictor for invasive ductal carcinoma of the breast. *Hum. Pathol.*, 2010; 41(5): 706-715.
- Hasebe T., Kinoshita T., et al. Grading system for lymph vessel tumor emboli: significant outcome predictor for patients with invasive ductal carcinoma of the breast who received

- neoadjuvant therapy. *Modern Pathology*, 2010; 23: 581-592.
- Yonemori K., Kinoshita T., et al. Immunohistochemical expression of HER1, HER3, and HER4 in HER2-positive breast cancer patients treated with trastuzumab-containing neoadjuvant chemotherapy. *J. Surg. Oncol.*, 2010; 101: 222-227.
- Hasebe T., Kinoshita T., et al. P53 expression in tumor-stromal fibroblasts is closely associated with the nodal metastasis and outcome of patients with invasive ductal carcinoma who received neoadjuvant therapy. *Hum. Pathol.*, 2010; 41: 262-270.
- 木下貴之. 乳がんに対する RFA の現状と今後. *外科治療*, 2010; 102(4): 395-403.
- 廣川高久, 木下貴之. 他. 早期乳癌手術の低侵襲化にともなう Day Surgery 化への安全性試験. *乳癌の臨床*, 2010; 25(5): 569-574.
- 木下貴之. 「傷をつけない治療」乳がんのラジオ波焼灼療法、実際の効果は？ *がんサポーター*, 2010; 90: 30-33.
- 木下貴之. 乳がん外科治療におけるセンチネルリンパ節生検の意義：これまでの報告と今後の課題. *血液・腫瘍科*, 2010; 61(1): 115-122.
- Nakazato Y., Goya T., et al. Nuclear grading of primary pulmonary adenocarcinomas. *Cancer*, 2010; 116: 2011-19.
- Sakurai H., Goya T., et al. Survival differences by gender for resected non-small cell lung cancer. A retrospective analysis of 12,509 cases in a Japanese lung cancer registry study. *J. Thorac. Oncol.* 2010; 5: 1594-1601.
- 山内智香子. 進行乳癌に対する乳房切除後の放射線療法. *がん・放射線療法 2010* 篠原出版社 2010; 832-36.
- Itami J., Sumi M., et al. High-dose rate brachytherapy alone in postoperative soft tissue sarcomas with close or positive margins. *Brachytherapy* 2010; 9: 349-353.
- Yoshimura R., Sumi M., et al. Outcomes in patients with early-stage hypopharyngeal cancer treated with radiotherapy. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.*, 2010; 77 (4): 1017-23.
- Niibe Y., Kenjo M., Toita T., et al. High-dose-rate intracavitary brachytherapy combined with external beam radiotherapy for stage IIIb adenocarcinoma of the uterine cervix in Japan: A multi- institutional study of Japanese society of therapeutic radiology and oncology 2006-2007 (Study of JASTRO 2006-2007) *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2010; 41(8): 795-799
- Kodaira T., et al. Retrospective analysis of definitive radiotherapy for patients with superficial esophageal carcinoma: Consideration of the optimal treatment method with a focus on late morbidity. *Radiother. Oncol.* 2010; 95: 234-9.
- Tomita N., Kodaira T., et al. The impact of radiation dose and fractionation on outcomes for limited-stage small-cell lung cancer. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.*, 2010; 76(4): 1121-6.
- Tomita N., Kodaira T., et al. Long-term follow-up and a detailed prognostic analysis of patients with oropharyngeal cancer treated with radiotherapy. *J. Cancer Res. Clin. Oncol.* 2010; 136(4): 617-23.
- Shitara K., Kodaira T., et al. Heavy smoking

- history interacts with chemoradiotherapy for esophageal cancer prognosis: A retrospective study. *Cancer Sci.*, 2010; 101(4): 1001-6.
- Toita T., Uno T., Kodaira T., et al. A consensus-based guideline defining the clinical target volume for pelvic lymph nodes in external beam radiotherapy for uterine cervical cancer. *Jpn. J. Clin. Oncol.* 2010; 40(5): 456-63.
- Tomita N., Kodaira T., et al. Helical tomotherapy for solitary lung tumor: feasibility study and dosimetric evaluation of treatment plans. *Technol. Cancer Res. T.*, 2010; 9(4): 407-415.
- Tomita N, Kodaira T., et al. Dosimetric comparison of three-dimensional conformal radiotherapy in salvage radiotherapy for PSA relapse after radical prostatectomy. *J. Radiat. Res.*, 2010; 51 (5): 581-7.
- 古平毅. 質疑応答 最新の癌の放射線治療. *週間日本医事新報* 2010; 4487: 79-80
- 古平毅, 他. II 上咽頭癌に対する診断と治療の進歩. 再発上咽頭癌に対しての放射線治療. トモセラピーによる強度変調放射線治療の有用性の検討. *耳鼻と臨床* 2010; 56: S46-53,
- 古平毅. 最新の放射線治療の動向 ~ IMRT ガイドライン改定をふまえてトモセラピーによる IMRT の現況と問題点. *Rad. Fan.* 2010; 8(12): 61-63
- 後藤容子, 古平毅, 他. Tomotherapy を用いた上咽頭癌局所再発に対しての再照射例の検討. *臨床放射線* 2010; 55(8): 1018-24.
- Kenjo M., et al. Sequential Chemo-radiotherapy with 24 Gy of cranial irradiation for intracranial germinoma diagnosed with MRI. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol Phys.* 2010; 78(3): S169.
- Katamura Y., Kenjo M., et al. Zoledronic acid delays disease progression of bone metastases from hepatocellular carcinoma. *Hepatology Research.* 2010; 40(12):1195-1203.
- Shikama N., et al. Management of locoregional recurrence of breast cancer. *Breast Cancer.* 2010; 18(4): 252-8.
- Koiwai K., Shikama N., et al. Validation of the Total Dysphagia Risk Score (TDRS) as a predictive measure for acute swallowing dysfunction induced by chemoradiotherapy for head and neck cancers. *Radiother Oncol.* 2010; 97(1):132-5.
- 鹿間直人. 節外性悪性リンパ腫 (中枢神経・睾丸・乳房・胃など). *がん・放射線療法 2010* 篠原出版新社 2010, 1088-1094.
- Onishi H., et al. A simple respiratory indicator for irradiation during voluntary breath holding: A one-touch device without electronic materials. *Radiology*, 2010; 255: 917-923.
- 大西洋, 他. 編著. *がん・放射線療法 2010*. 篠原出版社. 2010
- Takahashi Y., Koizumi M., et al. What is the optimum minimum segment size used in step and shoot IMRT for prostate cancer? *J. Radiat. Res.* 2010; 51: 543-52.
- Yamazaki H., Koizumi M., et al. Age is not a limiting factor for brachytherapy for carcinoma of the node negative oral tongue in patients aged eighty or older. *Radiat. Oncol.* 2010; 5: 116
- Isohashi F., Koizumi M., et al. Rectal dose and source strength of the high-dose-rate iridium-192 both affect late rectal bleeding

- after intracavitary radiation therapy for uterine cervix carcinoma. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2010; 77(3): 758-764.
- 小泉雅彦. 第 8 章 骨軟部腫瘍 「原発性骨腫瘍」. *がん・放射線治療法 2010 「別冊代表的照射野と CT のターゲット」* (大西洋, 唐澤克之, 唐澤久美子 監修) 篠原出版社, 2010; 110-111.
- 小泉雅彦. 第 7 章 各領域の治療 骨軟部腫瘍 「原発性骨腫瘍」. *がん・放射線治療法 2010*(大西洋, 唐澤克之, 唐澤久美子 監修) 篠原出版社, 2010; 1061-1068.
- 小泉雅彦. 第 3 章 放射線治療の基礎 B. 放射線生物学, 第 17 章 骨・軟部腫瘍、第 18 章 小児腫瘍放射線治療学(改訂 4 版)(井上俊彦, 井上武宏, 手島昭樹編) 南山堂(東京), 2010; 30-43, 293-320.
- 二見 光, 塚本 信宏, 安藤 裕, 他. 構造化技術を用いた読影レポートの類似記載を特定する手法の開発 *日放腫会誌*, 2010; 66 (9): 1229-1236
- Yamashita H., Nakagawa K., et al. Patient setup error and day-to-day esophageal motion error analyzed by cone-beam computed tomography in radiation therapy. *Acta. Oncol.* 2010; 49(4): 485-90.
- Yamashita H., Nakagawa K., et al. Four-dimensional measurement of the displacement of internal fiducial markers during 320-multislice computed tomography scanning of thoracic esophageal cancer. *Int. J. Radiat. Oncol. Biol. Phys.* 2010; 79(2): 588-95.
- Okuma K., Nakagawa K., et al. Advanced age is a significant determinant of poor prognosis in patients treated with surgery plus postoperative radiotherapy for endometrial cancer. *J. Obstet. Gynaecol. Res.* 2010; 36(4): 757-63.
- Yamashita H., Terahara A., Nakagawa K., et al. Prescreening based on the presence of CT-scan abnormalities and biomarkers (KL-6 and SP-D) may reduce severe radiation pneumonitis after stereotactic radiotherapy. *Radiat. Oncol.* 2010; 5: 32.
- Hachizuka M., Nakagawa K., et al. Development of a personal digital assistant (PDA) system to collect symptom information from home hospice patients. *J. Palliat. Med.* 2010; 13(6): 647-51
- Nakamura N., Shikama N., Nakagawa K., et al. Variability in bladder volumes of full bladders in definitive radiotherapy for cases of localized prostate cancer. *Strahlenther. Oncol.* 2010; 186(11): 637-42
- 中川恵一. 「死を忘れた日本人」 朝日出版社, 東京, 2010
- Koga T., Terahara A., et al. Long-term outcomes of stereotactic radiosurgery for arteriovenous malformations in the thalamus. *Neurosurgery*, 2010;67: 398-403.
- Wakui R., Terahara A., Nakagawa K. Esophageal cancer: definitive chemoradiotherapy for elderly patients. *Dis. Esophagus*, 2010; 23: 572-9.
- 寺原敦朗. 定位手術的照射 *がん・放射線療法 2010*, 2010,470-82, 篠原出版新社.
- 寺原敦朗. 放射線治療の臨床応用 *ガンマナイフ. 映像情報 Medical*, 2010;42(12): 1077-80.
- Shida F., Sasaki S., Shikama N., et al. Late relapse of extranodal natural killer/T cell lymphoma, nasal type, after more than ten years. *Leukemia & Lymphoma*, 2010; 51:

171-3.

Tateishi K, Sasaki S., et al. Historical analysis of cisplatin and docetaxel chemotherapy with concurrent thoracic radiotherapy for locally advanced stage III non-small cell lung cancer in an institute: weekly versus conventional schedule of docetaxel. *Curr. Res. in Cancer*, 2010; 4: 1-11.

Koiwai K., Shikama N., Sasaki S., et al. Validation of the total dysphagia risk score (TDRS) as a predictive measure for acute swallowing dysfunction induced by chemoradiotherapy for head and neck cancers. *Radiother. Oncol.*, 2010; 97: 132-5.

2 . 学会発表

安藤裕, 手島昭樹, 沼崎穂高, 他. 全国規模の放射線治療データベースの実現を目指して. 日本放射線腫瘍学会第26回学術大会, 青森, 2013年10月.

姉帯優介, 沼崎穂高, 手島昭樹, 小川和彦, 小泉雅彦, 他. 磁気センサを用いた呼吸管理システムの開発と基礎的検討. -日本放射線腫瘍学会第26回学術大会, 青森, 2013年10月.

Ueyama S., Koizumi M., Teshima T. et al. Modeling the agility MLC for monte carlo IMRT and VMAT calculations. AAPM 55th Annual Meeting, Indianapolis, USA, Aug., 2013.

Wakai N., Koizumi M., Ogawa K., Teshima T., et al. Verification of dose perturbations due to high-Z materials inside tissue. AAPM 55th Annual Meeting, Indianapolis, USA, Aug., 2013.

Otani K., Teshima T., et al. Preoperative

chemoradiotherapy with gemcitabine for pancreatic cancer encountered vertebral compression fractures. 55th ASTRO Annual Meeting, Atlanta, USA, Sept., 2013.

Tsujii M., Teshima T., et al. Detectability of the position of the diaphragm in the exhale CBCT for patient positioning in respiratory gated stereotactic body radiotherapy. ASTRO 55th Annual Meeting, Atlanta, USA, Sept., 2013.

Wakai N., Koizumi M., Ogawa K., Teshima T., et al. Impact of motion interplay effect on step and shoot IMRT. 55th ASTRO Annual Meeting, Atlanta, USA, Sept., 2013.

辻井麻里, 手島昭樹, 他. 呼吸同期放射線治療における呼気相 CBCT を用いた患者ポジショニング—横隔膜上縁の検出について(ファントム実験)—. 第106回日本医学物理学学会学術大会, 大阪, 2013年9月
姉帯優介, 沼崎穂高, 手島昭樹, 小川和彦, 小泉雅彦, 他. Developing a respiratory monitoring system with a magnetic sensor. 第106回日本医学物理学学会学術大会, 大阪, 2013年9月.

Kurosu K., Teshima T., et al. Evaluation of impurity components of secondary particles in particle therapy equipment. 第105回日本医学物理学学会学術大会, 横浜, 2013年4月.

Kurosu K., Teshima T., et al. Secondary particle components in carbon-ion beam related to range shifter position. 第105回日本医学物理学学会学術大会, 横浜, 2013年4月.

Matsumoto K., Kasamatsu T., et al. Phase II trial of oral etoposide plus iv irinotecan for patients with platinum resistant and taxane pretreated ovarian cancer (JCOG0503), ASCO Annual meeting, Chicago, 2013.

Kinoshita T., et al. A multi-center prospective study of image-guided radiofrequency ablation for small breast carcinomas. The 2013 San Antonio Breast Cancer Symposium. San Antonio, USA. Dec., 2013.

Shiino S., Kinoshita T., et al. Discordance of hormone receptor and HER2 status between primary and recurrent breast cancer: New treatment strategy for predicting outcome of patients with breast cancer. ABC2 (Advanced Breast Cancer Second International Consensus Conference). Lisbon, Portugal. Nov., 2013.

Kinoshita T. 日中韓合同 OSNA®ミーティング。ミーティング参加。Seoul, Korea. Oct., 2013.

Kinoshita T. Our studies and current topics of sentinel lymph node navigation surgery (SNNS) and OSNA application in breast cancer patients after neoadjuvant chemotherapy. 3rd Sysmex Symposium of Molecular Pathology. Bilbao, Spain. Sept., 2013.

Kinoshita T. Breast surgery. International Surgical Week 2013. Moderator. Helsinki, Finland. Aug., 2013.

Kinoshita T., et al. Efficacy of scalp cooling to prevent hair loss in breast cancer patients receiving chemotherapy. 13th St.Gallen International Breast Cancer Conference 2013. St.Gallen, Switzerland. Mar., 2013.

Shiino S., Kinoshita T., et al. Changes in biological markers and outcome after locoregional recurrence of breast cancer. 13th St.Gallen International Breast Cancer Conference 2013. St.Gallen, Switzerland. Mar., 2013.

小林英絵, 木下貴之, 他. 乳腺粘液癌術後

に局所再発を繰り返した一例. 第 10 回日本乳癌学会 関東地方会, 大宮, 2013 年 12 月
石黒深幸, 木下貴之, 他. 乳房温存術後 11 年で広背筋内へ晚期再発した一例. 第 10 回日本乳癌学会 関東地方会, 大宮, 2013 年 12 月

助田葵, 木下貴之, 他. 背景乳腺の小葉内に好酸性顆粒状細胞の化生を伴う腺房細胞癌の一例. 第 10 回日本乳癌学会 関東地方会, 大宮, 2013 年 12 月

新崎あや乃, 木下貴之, 他. Glycogen-rich clear cell carcinoma の 1 例. 第 10 回日本乳癌学会 関東地方会, 大宮, 2013 年 12 月

小倉拓也, 木下貴之, 他. 乳房切除術後 5 年目で局所再発が疑われた縫合糸肉芽腫の 1 例. 第 10 回日本乳癌学会 関東地方会, 大宮, 2013 年 12 月

永山愛子, 木下貴之, 他. 乳管内乳頭腫成分を伴った嚢胞内乳癌の 1 例. 第 10 回日本乳癌学会 関東地方会, 大宮, 2013 年 12 月

椎野翔, 木下貴之, 他. 腋窩リンパ節に endosalpingiosis を認め, 腺癌の転移との鑑別を有した 1 例. 第 10 回日本乳癌学会 関東地方会, 大宮, 2013 年 12 月.

木下貴之. 乳癌外科的治療の最新トピックの紹介. Tokyo Breast Cancer Workshop 2013, 東京, 2013 年 11 月

垂野香苗, 木下貴之, 他. 乳房温存術後乳房内再発の予後因子. 第 75 回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 2013 年 11 月.

北條隆, 木下貴之, 他. 乳癌根治術後フォローアップにおける本邦と海外の違い. 第 75 回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 2013 年 11 月

小倉拓也, 木下貴之, 他. OSNA 法と組織診断法を用いた乳癌センチネルリンパ節生

- 検の non-SLN 転移予測. 第 75 回日本臨床外科学会総会, 名古屋, 2013 年 11 月
- 椎野翔, 木下貴之, 他. 乳癌術後遠隔再発巣例の臨床的意義と治療戦略. 第 51 回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013 年 10 月
- 神谷有希子, 木下貴之, 他. センチネルリンパ節 (SLN) 摘出個数に占める陽性割合と非 SLN 転移の相関性. 第 15 回 SNNS 研究会学術集会, 釧路, 2013 年 9 月.
- 笠原桂子, 木下貴之, 他. 男性乳癌におけるセンチネルリンパ節生検の検討. 第 15 回 SNNS 研究会学術集会. 釧路. 2013 年 9 月
- 麻賀創太, 木下貴之, 他. 浸潤性小葉癌におけるセンチネルリンパ節生検と転移予測因子. 第 15 回 SNNS 研究会学術集会, 釧路, 2013 年 9 月
- 木下貴之. 乳がんの腋窩リンパ節郭清. 第 9 回東北乳癌化学療法セミナー, 秋田, 2013 年 7 月.
- 鈴木純子, 木下貴之, 他. 乳癌術前化学療法後の画像所見による効果判定についての検討. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月
- 木下貴之, 他. 術前化学療法後乳癌症例に対するセンチネルリンパ節生検の成績と問題点. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月
- 木下貴之. 先進医療で実施する乳癌ラジオ波焼灼療法. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月.
- 木下貴之. 腋窩郭清判断標準化と課題 - OSNA 法研究会の取り組み -. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月
- 麻賀創太, 木下貴之, 他. 当院における ACOSOG Z0011 該当症例の non-SLN 転移の検討. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月
- 岩本恵理子, 木下貴之, 他. 乳腺石灰化病変の評価. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月
- 神谷有希子, 木下貴之, 他. ラジオ波焼灼療法 (radiofrequency ablation: RFA) 後非切除例の病理学的治療効果判定の有用性と問題点. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月
- 垂野香苗, 木下貴之, 他. 術前生検検体にて非浸潤性小葉癌または異型小葉過形成と診断された病変の悪性度の検討. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月
- 桂田由佳, 木下貴之, 他. 手術標本、針生検標本における浸潤癌に進行する可能性のある非浸潤性小葉癌の特徴. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月
- 小倉拓也, 木下貴之, 他. IV 期・再発乳癌に対する Fulvestrant 単剤療法の有用性の検討. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月
- 椎野翔, 木下貴之, 他. 乳癌再発巣切除による新たな治療戦略. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月
- 片岡明美, 木下貴之, 他. 妊娠・授乳中の乳癌 (Pregnancy-associated breast cancer) の臨床病理学的特徴と予後. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月
- 渡邊真, 木下貴之, 他. HER2 陽性乳癌に対する Trastuzumab 併用術前化学療法の検討. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月
- 神保健二郎, 木下貴之, 他. センチネルリンパ節転移陽性症例に対する腋窩郭清省略の成績 - ACOSOG-Z0011 試験の検証 -. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月

月

中村ハルミ, 木下貴之, 他. 男性乳癌 8 症例の臨床病理学的特徴. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月

北條隆, 木下貴之, 他. 石灰化を有する非触知乳癌の腫瘍範囲の検討. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月

杉江知治, 木下貴之, 他. 乳癌センチネルリンパ節検索における, RI 法と比較した ICG 蛍光法の臨床的有用性の検討-中間報告. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月

橋本淳, 木下貴之, 他. 乳癌における BRCA1 プロモーター領域の定量的メチル化解析およびメチル化と臨床病理学的特徴との関係の検討. 第 21 回日本乳癌学会学術総会, 浜松, 2013 年 6 月

木下貴之. 新規先進医療制度下を実施する早期乳がんに対するラジオ波焼灼療法 (RFA) 多施設共同研究. ビデオフォーラム (66) 「乳腺 鏡視下・低侵襲手術」. 第 113 回日本外科学会学術集会, 福岡, 2013 年 4 月

木下貴之. 新規先進医療制度と乳癌局所療法治療としてのラジオ波熱焼灼療法 (RNA). 第 65 回京滋乳癌研究会, 京都, 2013 年 3 月

津川 拓也, 山内 智香子, 他. 根治的子宮頸癌放射線治療における直腸線量と直腸晩期障害についてのロジスティック回帰分析. 第 72 回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2013 年 4 月

山内智香子, 他. 切除術後に IMRT を施行した頸部放射線誘発性悪性組織球腫の一例. 第 26 回日本放射線腫瘍学会学術大会, 青森, 2013 年 10 月

松木清倫, 山内智香子, 他. 術後 IMRT を施行後、多発遠隔転移を来した Anaplastic

Meningioma の一例、第 26 回日本放射線腫瘍学会学術大会, 青森, 2013 年 10 月

山内智香子. 乳癌診療の進歩と動向 ~放射線治療を中心に~ 日本医学放射線学会第 305 回関西地方会, 大阪, 2013 年 11 月

中村和正, 他. 放射線治療計画の施設間比較のための DVH 評価ツールの利用と Target, OAR 名称統一について 第 25 回九州放射線治療セミナー 久山町, 2013 年 8 月

Shibamoto Y., Sumi M., Onishi H., Koizumi M., et al. Analysis of Radiation Therapy in 1054 Patients With Primary Central Nervous System Lymphoma (PCNSL) Treated During 1985-2009, ASTRO's 53rd Annual Meeting Atlanta, USA, Spt. 22 – 5, 2013

角美奈子 他. JCOG 脳腫瘍グループ・放射線治療支援センター, 悪性神経膠腫に対する放射線化学療法ランダム化第 II/III 相試験 (JCOG0305) 最終報告. 第 26 回日本放射線腫瘍学会学術大会, 青森, 2013 年 10 月

Toita T., et al. Image-guided brachytherapy for cervical cancer. 2nd ESTRO forum, Geneva, 19-23 April, 2013.

Toita T. Concurrent chemoradiotherapy (CCRT) for locally advanced cervical cancer: what is next? Morning Lecture [1] “Treatment of Advanced Cervical Cancer: Update”, The 3rd Biennial Meeting of ASGO, Kyoto, Dec., 2013.

戸板孝文. 早期子宮頸癌の放射線治療. 教育講演-治療: 婦人科領域. 第 72 回日本医学放射線学会総会. 横浜, 25 年 4 月

戸板孝文. 子宮頸癌放射線治療の新しい標準化に向けて. がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン 東海大学公開シンポジウム「子宮頸癌根治治療における今後の展開」. 伊勢原, 25 年 9 月

戸板孝文. 化学放射線療法の過去・現在・未来：子宮頸癌. 教育シンポジウム「化学放射線療法の過去・現在・未来」. 第 51 回日本癌治療学会学術集会. 京都, 25 年 10 月

Kodaira T., et al. Clinical efficacy of Helical TomoTherapy for nasopharyngeal cancer treated with definite concurrent chemoradiotherapy. 55th ASTRO Annual Meeting, Atlanta, USA, Sept., 2013.

Tomita N., Kodaira T., et al. Evaluation of urinary outcomes by international prostate symptom scores (IPSS) in intensity modulated radiation therapy combined with androgen deprivation therapy for prostate cancer. 55th ASTRO Annual Meeting, Atlanta, USA, Sept., 2013.

Kodaira T. Advances in IGRT and molecular imaging for radiation therapy advances in adaptive radiotherapy and biologic imaging for definitive radiotherapy for head and neck cancer patient. 3rd International Conference on Real-time Tumor-tracking Radiation Therapy with 4D Molecular Imaging Technique, 札幌 2013年2月.

富田夏夫, 古平毅, 他. 前立腺癌に対する内分泌治療併用強度変調放射線治療における IPSS による排尿機能の評価. 第 72 回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2013 年 4 月

古平毅. 進化した分子標的治療と放射線治療への寄与 セツキシマブ併用放射線治療の現状と課題. 第 26 回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013 年 9 月

古平毅. 放射線治療高精度化に伴う有害事象の再評価 エビデンスからみた頭頸部癌の IMRT の有用性. 第 26 回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013 年 9 月

立花弘之, 古平毅 他. 頭頸部癌治療における放射線口腔粘膜炎症重篤化予防における特性アミノ酸配合物の有効性. 第 26 回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013 年 9 月

牧田智誉子, 古平毅, 他. 上咽頭癌に対する 2-step 法 IMRT 施行症例における耳下腺体積と線量変化の検討. 第 26 回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013 年 9 月

清水亜里紗, 古平毅, 他. MALT リンパ腫に対する放射線治療成績. 第 26 回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013 年 9 月

古平毅. 頭頸部がんの分子標的治療 日本人における cetuximab 併用放射線療法. 第 11 回日本臨床腫瘍学会, 仙台, 2013 年 8 月

古平毅. 化学療法の現状と役割. 化学放射線療法における放射線療法 第 37 回日本頭頸部癌学会, 東京, 2013 年 6 月

古平毅. 高精度放射線治療の標準化と個別化 1 : 頭頸部癌. 第26回日本高精度放射線外部照射研究会, 京都, 2013年2月

権丈雅浩, 他. 悪性軟部組織腫瘍に対する術後組織内照射の検討 第 26 回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013 年 9 月

Seo Y., Koizumi M., Ogawa K., Association Between Linear-Quadratic Model Parameters and Basal Gene Expression Profiles in the NCI-60 Cancer Cell Line Panel, 's 53rd ASTRO Annual Meeting Atlanta, USA, Sept., 2013

Tamari K., Koizumi M., Ogawa K., Impact of clinical and dosimetric factors on pericardial effusion in patients with stage I esophageal cancer treated with definitive chemoradiation therapy, 53rd ASTRO Annual Meeting Atlanta, USA, Sept., 2013

玉利慶介, 小泉雅彦, 小川和彦 他. 表在食道癌 CRT 後の心臓有害事象の検討, 第 303

回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2013年2月
林和彦, 小泉雅彦, 小川和彦 他. 原発性骨軟部腫瘍に対する術中骨照射の治療成績, 第303回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2013年2月
磯橋文明, 小泉雅彦, 小川和彦 他. 子宮頸癌術後全骨盤照射における3次元照射とIMRTの下部消化管有害事象の比較, 日本医学放射線学会学術集会, 横浜, 2013年4月
小泉雅彦, 小川和彦, 他. 臓器別シンポジウム23:骨・軟部腫瘍治療の最前線 OS23-5 骨・軟部肉腫に対する今後の放射線治療戦略 第51回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2013年10月
Shikama N., et al. Validation of the utility of cranio-caudal clip distance (CCD) for identifying candidates for accelerated partial breast irradiation (APBI) using three-dimensional conformal external beam radiotherapy (3D-CRT). 55th ASTRO Annual Meeting, Atlanta, USA, Sept., 2013.
Onishi H., et al. Japanese multi-institutional study of stereotactic body radiotherapy for more than 2000 patients with stage I non-small cell lung cancer. 55th ASTRO Annual Meeting, Atlanta, USA, Sept., 2013.
小泉雅彦. 有痛性骨転移の放射線治療, 第15回日本緩和医療学会, 横浜, 2013年6月
安藤裕, 粒子線治療の症例データベースの試行, 第10回日本粒子線治療臨床研究会, 名古屋, 2013年10月
大熊加恵, 中川恵一, 他. 再発・転移症例における緩和的肺定位照射- 第72回日本医学放射線学会総会, 横濱, 2013年4月
中川恵一, 他. 肺がん VMAT-SRT における

呼吸抑制再現性の検証- 第26回日本放射線腫瘍学会学術大会, 青森, 2013年10月
小塚拓洋, 他. 中間リスク前立腺癌に対する短期的IMRT70Gy/28Frの有害事象と治療成績. 第26回日本放射線腫瘍学会, 青森, 2013年9月
寺原敦朗, 他. 食道癌術後局所領域再発に対する放射線治療. 第67回日本食道学会学術集会, 大阪, 2013年6月
Numasaki H., Nakamura K., Ando Y., Tsukamoto N., Terahara A., Teshima T., et al. Japanese Structure Survey of Radiation Oncology in 2009 based on institutional stratification of Patterns of Care Study. 54th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, Boston, USA, Oct., 2012.
Tsudou S., Numasaki H., Teshima T., et al. A comparison of lung tumor on maximum intensity projection (MIP) and average intensity projection (AIP) of respiratory correlated four-dimensional simulation CT (4DCT). 54th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, Boston, USA, Oct., 2012.
端佑士, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 多施設共同臨床試験における治療計画QAシステムの構築. 第24回日本高精度放射線外部照射研究会, 横浜, 2012年2月.
沼崎穂高, 手島昭樹. 治療機器の更新、新規設置の現状 -JASTRO構造調査データより-. 日本放射線腫瘍学会第25回学術大会, 東京, 2012年11月.
安藤裕, 手島昭樹, 沼崎穂高, 他. 粒子線治療の症例データベースの実現を目指して. 第9回日本粒子線治療臨床研究会, 鹿児島,

- 2012年10月。
柴田祐希, 沼崎穂高, 小泉雅彦, 手島昭樹, 他. 粒子線治療における2次粒子の定量化. 第103回日本医学物理学会, 横浜, 2012年4月.
- Akino Y., Teshima T., et al. Impact of heterogeneity corrections in stereotactic radiation therapy treatment of the lung. 54th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, Boston, USA, Oct., 2012.
- Yagi M., Koizumi M., Teshima T. Maximizing the availability of positron emitting nuclei for proton therapy verification using different beam irradiation sequences. AAPM 54th Annual Meeting, Charlotte, USA, Jul., 2012.
- 辻井麻里, 手島昭樹, 他. CBCT 投影画像における横隔膜の呼吸移動の検出. 第302回関西地方会(第374回レントゲンアーベント), 大阪, 2012年11月.
- 壽賀正城, 手島昭樹, 他. 呼吸性移動を考慮した線量再計算 Software の開発 -安全な肝臓幹部定位照射を目指して3-. 日本放射線腫瘍学会第25回学術大会, 東京, 2012年11月.
- 手島昭樹, 他. 膵臓癌に対する放射線治療戦略. 第24回日本放射線腫瘍学会学術大会, 東京, 2012年11月.
- 手島昭樹. 婦人科腫瘍に対する放射線治療の現状と新戦略. 第127回近畿産科婦人科学会総会, 大阪, 2012年10月.
- 手島昭樹. がん放射線治療の質と診療基盤. 日本歯科放射線学会 第17回臨床画像大会, 大阪, 2012年10月.
- 森本将裕, 小泉雅彦, 手島昭樹, 小川和彦, 他. 前立腺癌に対する4種類の放射線治療の比較—泌尿器・消化器系の早期有害事象—. 第14回小線源治療部会, 長野, 2012年5月.
- 津藤真司, 手島昭樹, 他. 治療計画用CTのMIPとaverage intensity projectionにおける肺がん陰影位置の比較. 第103回日本医学物理学会, 横浜, 2012年4月.
- Togami S., Kasamatsu T., et al. Clinicopathological and prognostic impact of HER2 and hormone receptor expressions in uterine papillary serous carcinoma (UPSC). 14th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS), Vancouver, Canada, Oct., 2012.
- Kasamatsu T., et al. Prognostic significance of positive cytology in adenocarcinoma of the uterine cervix. 14th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS), Vancouver, Canada, Oct., 2012.
- Kinoshita T., et al. Studies of sentinel lymph node biopsy after preoperative chemotherapy in breast cancer patients. ESSO (32nd Congress of the European Society of surgical Oncology). Oral Presentation. Valencia, Spain, Sept., 2012.
- Jimbo K., Kinoshita T., et al. A new development in sentinel lymph node biopsy in breast cancer using a combination of molecular and histological methods. ESSO (32nd Congress of the European Society of surgical Oncology). Oral Presentation. Valencia, Spain, Sept., 2012.
- Kinoshita T., et al. A multicenter prospective study of image-guided radiofrequency ablation for small breast carcinomas. ASCO Annual 2012 Meeting. Chicago, USA, Jun., 2012.
- Kinoshita T. Perioperative endocrine therapy

for premenopausal breast cancer. WJOG 4th International Symposium on Clinical Trials. Fukuoka, Japan. Apr., 2012.

Kinoshita T., et al. Image-guided Radiofrequency ablation in patients with primary breast carcinoma- A multicentre study of 40 patients. EBCC8 (European Breast Cancer Conference). Vienna, Austria. Mar., 2012.

Asaga S., Kinoshita T., et al. Prognostic factors for triple negative breast cancer patients with preoperative systemic chemotherapy. EBCC8 (European Breast Cancer Conference). Vienna, Austria. Mar., 2012.

Jimbo K., Kinoshita T., et al. A new development in sentinel lymph node biopsy in breast cancer using a combination of molecular and histological methods. EBCC8 (European Breast Cancer Conference). Vienna, Austria. Mar., 2012.

垂野香苗, 木下貴之, 他. 術前診断が LCIS であったが術後病理診断で浸潤癌を認めた 1 例. 第 9 回日本乳癌学会関東地方会, 埼玉, 2012 年 12 月.

神保健二郎, 木下貴之, 他. 術前化学療法前センチネルリンパ節生検陰性後腋窩郭清を省略し術後早期に局所・遠隔再発をきたした 1 例. 第 9 回日本乳癌学会関東地方会, 埼玉, 2012 年 12 月.

神谷有希子, 木下貴之, 他. 放射線誘発性が疑われる胸壁線維肉腫の一例. 第 9 回日本乳癌学会関東地方会, 埼玉, 2012 年 12 月.

小倉拓也, 木下貴之, 他. 腋窩リンパ節郭清後 11 年で原発巣が判明し乳房切除術を施行した潜在性乳癌の 2 例. 第 9 回日本乳癌学会関東地方会, 埼玉, 2012 年 12 月.

古橋暁, 木下貴之, 他. 化学療法が奏功しない局所進行乳癌に対して Halsted 手術を施行した一例. 第 9 回日本乳癌学会関東地方会, 埼玉, 2012 年 12 月.

木下貴之, 他. 科学療法実施中乳がん患者に対する脱毛予防のための頭皮冷却法に関する研究. 第 50 回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2012 年 10 月.

桂田由佳, 木下貴之, 他. 浸潤癌に進行する可能性のある非浸潤性小葉癌の特徴に関する検討. 第 71 回日本癌学会学術総会, 札幌, 2012 年 9 月.

長谷部 孝裕, 木下貴之, 他. 浸潤性乳管癌の臓器転移を正確に推測する上で重要な病理組織形態因子. 第 71 回日本癌学会学術総会, 札幌, 2012 年 9 月.

平松秀子, 木下貴之, 他. 早期乳癌の診断におけるマンモグラフィと超音波検査併用の重要性. 第 20 回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012 年 6 月.

木下貴之, 他. 長期成績からみた乳がんセンチネルリンパ節生検および腋窩リンパ節郭清の臨床的意義. 第 20 回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012 年 6 月.

鈴木純子, 木下貴之, 他. がん専門病院における乳房再建術の展望と課題. 第 20 回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012 年 6 月.

田村宜子, 木下貴之, 他. CT による腋窩リンパ節転移診断 ~ ZOO11 を視野に ~. 第 20 回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012 年 6 月.

垂野香苗, 木下貴之, 他. LCIS の術前画像診断と病変の広がりへの検討. 第 20 回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012 年 6 月.

神谷有希子, 木下貴之, 他. 乳腺紡錘細胞癌の病理学的リスク因子の検討. 第 20 回日

- 本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 前嶋愛子, 木下貴之, 他. 遺伝カウンセリング対象症例への情報提供の実態に関する検討. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 矢形寛, 木下貴之, 他. 術前科学療法後のリンパ節転移検査における OSNA 法の有用性. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 麻賀創太, 木下貴之, 他. Luminal タイプ乳がんにおける術前薬物療法の選択と予後への影響. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 仲里秀次, 木下貴之, 他. 80歳以上超高齢者女性乳癌患者における検討. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 吉田正行, 木下貴之, 他. OSNA 法と組織診併用による乳癌センチネルリンパ節の検討. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 桂田由佳, 木下貴之, 他. 非浸潤性小葉癌の広がりと背景因子: 顕在型と潜在型の間での比較検討. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 巖康仁, 木下貴之, 他. 進行粘液(純型)の20例の検討. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 小倉拓也, 木下貴之, 他. 悪性葉状腫瘍の病理学的検討. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 北條隆, 木下貴之, 他. 乳癌原発巣と遠隔再発巣の病理学的検討. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 森田理沙, 木下貴之, 他. Microglandular adenosis と癌の合併例の検討. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 岩本恵理子, 木下貴之, 他. 非浸潤癌の臨床病理学的検討. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 菊山みずほ, 木下貴之, 他. 乳癌における新規癌抑制遺伝子の Outlier アプローチによる同定. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 樋口由起子, 木下貴之, 他. 乳がん患者に対するボディ・イメージ変容の理解促進に向けた新たな教室の取組み - 写真を用いた集団教育 -. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 神保健二郎, 木下貴之, 他. サブタイプ分類からみた乳房内再発の臨床的特徴とその治療戦略の検討. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 枝園忠彦, 木下貴之, 他. Stage 乳癌に対する原発巣切除術と予後に関する検討. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 木下貴之, 他. 早期乳がんに対するラジオ波焼灼療法(RFA)多施設共同研究. 第112回日本外科学会定期学術集会, 千葉, 2012年4月.
- 山内智香子, 他. 乳癌術後放射線治療に関するアンケート調査. 日本放射線腫瘍学会第25回学術大会, 東京, 2012年11月.
- 山内智香子, 他. 乳房切除術後放射線療法の変遷と意義. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 井上実, 山内智香子, 他. 乳房温存療法後、照射野内皮膚に発症した血管肉腫の2例. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.
- 中村和正. IMRT/ブラキセラピーの登場による前立腺癌の治療方針のPS(パラダイム

シフト). 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会, 東京, 2012 年 11 月.

角美奈子, 他. 限局性クーイング肉腫に対する第 II 相臨床試験の最終解析結果と放射線治療 QA. 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会, 東京, 2012 年 11 月.

Toita T., et al. Phase II study of concurrent chemoradiotherapy with high-dose-rate intracavitary brachytherapy in patients with locally advanced uterine cervical cancer: Efficacy and toxicity of a low cumulative radiation dose schedule. World Congress of Brachytherapy, Barcelona, Spain, May, 2012.

Kato H., Kodaira T., et al. Durable local disease control and survival in patients with limited-stage diffuse large B-cell lymphoma receiving involved-node radiation therapy plus short-course R-CHOP or CHOP chemotherapy: involved-node vs. involved-field radiation therapy. 54th ASH annual meeting and exposition, Atlanta, USA, Dec., 2012.

Kodaira T., et al. Clinical efficacy of helical tomotherapy for nasopharyngeal cancer treated with definite concurrent chemoradiotherapy. 54th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, Boston, USA, Oct., 2012.

Yamazaki T., Kodaira T., et al. Retrospective analysis of definitive radiotherapy for neck node metastasis from unknown primary tumor: Japanese Radiation Oncology Study Group Study. 54th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, Boston, USA, Oct., 2012.

Hirata K., Kodaira T., et al. Clinical efficacy of alternating chemoradiotherapy accompanied

with moderate dose brachytherapy for high-risk patients of cervical carcinoma. 54th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, Boston, USA, Oct., 2012.

Ito Y., Kodaira T., et al. Phase II trial of 5-Fluorouracil in combination with Cisplatin and Concurrent Radiotherapy (50.4 Gy) with elective nodal irradiation for clinical stage II/III Esophageal Cancer. 54th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, Boston, USA, Oct., 2012.

Kodaira T., et al. Clinical evaluation of Helical Tomotherapy combined with concurrent chemotherapy for patients with nasopharyngeal carcinoma. Takahashi Memorial Symposium & 6th Japan-US Cancer Therapy International Joint Symposium, Hiroshima, Japan, Jul. 2012.

Nomura M., Kodaira T., et al. Recursive partitioning for new classification of patients with esophageal cancer treated by chemoradiotherapy. 2012 ASCO meeting, Chicago, USA, Jun. 2012

Shimizu H., Kodaira T., et al. New quality assurance method for rotational delivery using the rotational therapy phantom with ABSID. World Congress on Medical Physics and Biomedical Engineering, Beijing, China, May., 2012.

富田夏夫, 古平毅, 他. 前立腺癌に対する Helical Tomotherapy による内分泌治療併用放射線治療の初期成績. 第 25 回日本高精度放射線外部照射研究会, 広島, 2012 年 7 月.
古平毅, 他. 咽頭癌に対する IMRT を用いた化学放射線療法の臨床的検討. 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会, 東京, 2012 年 11

月.

古平毅. 教育講演 教育講演アドバンスコース 先端治療機器 3 Tomotherapy. 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会, 東京, 2012 年 11 月.

立花弘之, 古平毅, 他. 早期乳癌に対する乳房温存手術・術中照射の初期経験. 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会, 東京, 2012 年 11 月.

富田夏夫, 古平毅, 他. 前立腺癌に対する Helical Tomotherapy 後の晩期直腸有害事象の検討. 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会, 東京, 2012 年 11 月.

大島幸彦, 古平毅, 他. 当院における肛門管癌治療成績の検討. 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会, 東京, 2012 年 11 月.

平田希美子, 古平毅, 他. 高リスク子宮頸癌に対する化学放射線治療成績. 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会, 東京, 2012 年 11 月.

古平毅. シンポジウム 1 IMRT のピットフォール. 第 25 回日本高精度放射線外部照射研究会, 広島, 2012 年 7 月.

野村基雄, 古平毅, 他. 食道癌化学放射線治療患者におけるリンパ節の大きさを含む新たな Stage 分類. 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会, 東京, 2012 年 11 月.

古平毅, 他. 上咽頭癌に対する IMRT を用いた化学放射線療法の臨床的検討. 日本医学放射線学会第 150 回中部地方会, 岐阜, 2012 年 6 月.

立花弘之, 古平毅, 他. 術中照射による乳房温存療法の初期経験. 日本医学放射線学会第 150 回中部地方会, 岐阜, 2012 年 6 月.

富田夏夫, 古平毅, 他. 限局期前立腺癌に対する Helical Tomotherapy の短期治療成績.

日本医学放射線学会第 150 回中部地方会, 岐阜, 2012 年 6 月.

大島幸彦, 古平毅, 他. 骨転移巣に対する定位放射線治療の初期経験および有用性の検討. 日本医学放射線学会第 150 回中部地方会, 岐阜, 2012 年 6 月.

戸板孝文, 古平毅, 宇野隆, 他. 局所進行子宮頸癌に対する高線量率腔内照射を用いた同時化学放射線療法に関する多施設共同第 II 相試験(JGOG1066). 第 14 回小線源治療部会研究会, 長野, 2012 年 5 月

清水秀年, 古平毅, 他. 磁化移動効果を応用した equivalent cross-relaxation rate imaging による耳下腺機能評価. 第 103 回日本医学物理学会学術大会, 横浜, 2012 年 4 月.

Kenjo M., et al. Small CTV might be appropriate in concurrent chemoradiotherapy for low-grade glioma. The radiological society of North America 98th scientific assembly and annual meeting, Chicago, USA, Nov., 2012.

権丈雅浩, 他. Grade2 神経膠腫症例に対する化学放射線療法の検討. 第 71 回日本医学放射線学会総会, 横浜, 2012 年 4 月.

鹿間直人. 乳癌領域における放射線治療医に求められる資質. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.

鹿間直人. 放射線科からみる骨転移診断治療の現状と今後の展望. 第20回日本乳癌学会学術総会, 熊本, 2012年6月.

Onishi H., et al. Stereotactic body radiotherapy in 95 patients with lung tumors composed of ground-glass Opacity (GGO): Results of a retrospective multicenter study. 54th Annual meeting of the American Society for Therapeutic Radiation and Oncology, Boston, USA, Oct., 2012.

- 向井まさみ, 安藤裕, 他. 病院情報システム更新に伴う放射線治療病歴データベースシステムの運用継続の検討. 第 39 回日本エム・テクノロジー学会大会(MTA2012), 長崎, 2012 年 8 月.
- 中川恵一, 他. 肺がんにおける 4D-CBCT と VMAT-SRT. 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会, 東京, 2012 年 11 月.
- 中川恵一, 4D-CBCT による寝台補正機能: Symmetry の使用経験. 日本放射線腫瘍学会第 25 回学術大会, 東京, 2012 年 11 月.
- 中川恵一, 他. がん医療に携わる当事者の死生観研究 ~患者医師看護師の三者比較の観点から~. 第 17 回緩和医療学会学術大会, 神戸, 2012 年 7 月.
- 中川恵一. 第 103 回日本医学物理学会・福島原発事故対応 WG 報告. 第 103 回日本医学物理学会, 横浜, 2012 年 4 月.
- 寺原敦朗, 他. 前立腺癌IMRTにおける位置合わせ用CTを用いた線量分布評価日本放射線腫瘍学会第25回学術大会, 東京, 2012年 11月.
- Numasaki H., Teshima T. Cancer information system. 7th Osaka University Medical Physics Seminar, Osaka, Dec., 2011.
- Ono T., Numasaki H., Teshima T., et al. Respiratory monitoring with an acceleration sensor. 6th Japan-Korea Joint Meeting on Medical Physics (JKMP), 11th Asia-Oceania Congress of Medical Physics (AOCMP), Fukuoka, Japan, Sept.29-Oct.1, 2011.
- Masaoka A., Numasaki H., Teshima T., et al. Fast analysis of the interplay effect between MLC motion and tumor with respiratory motion. 6th Japan-Korea Joint Meeting on Medical Physics (JKMP), 11th Asia-Oceania Congress of Medical Physics (AOCMP), Fukuoka, Japan, Sept.29-Oct.1, 2011.
- Numasaki H., Teshima T. Cancer information system utilizing IT. Cancer Informatics and Imaging Technology Workshop, Indiana University - Osaka University Partnership Symposium, Indianapolis, USA, May, 2011.
- Teshima T., Numasaki H. Cancer information system utilizing IT and Japanese National Cancer Database (JNCDB). The University of Groningen - Osaka University Partnership Symposium, Groningen, the Netherlands, May, 2011.
- 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 症例アンケート分析: JASTRO 構造調査 ,mHDR 研究会症例調査. マイクロセレクトロン HDR 第 7 回学術研究会, 東京, 2011 年 12 月.
- 金岡尚利, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 頭頸部 2 phase IMRT における線量積算法. 2011 年度日本写真学会秋季研究発表会, 京都, 2011 年 12 月.
- 小野智博, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 呼吸コーチングによる呼吸再現性の改善効果. 2011 年度日本写真学会秋季研究発表会, 京都, 2011 年 12 月.
- 安藤裕, 塚本信宏, 沼崎穂高, 他. IHE-RO コネクタソン (接続性検証試験会) の意義. 日本放射線腫瘍学会第 24 回学術大会, 神戸, 2011 年 11 月.
- 川口修, 塚本信弘, 安藤裕, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. IHE-RO による放射線治療サマリー. 日本放射線腫瘍学会 第 24 回学術大会, 神戸, 2011 年 11 月.
- 鳥飼幸太, 塚本信弘, 安藤裕, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 放射線治療部門内システム間の情報共有. 日本放射線腫瘍学会 第 24

回学術大会, 神戸, 2011 年 11 月 .
塚本信弘, 沼崎穂高, 安藤裕, 手島昭樹,
他. HIS-治療 RIS 間スケジュール連携の標準化案 -IHE-RO ESI-. 日本放射線腫瘍学会 第 24 回学術大会, 神戸, 2011 年 11 月 .
小野智博, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 呼吸コーチングによる呼吸再現性の改善効果 . 日本放射線腫瘍学会 第 24 回学術大会, 神戸, 2011 年 11 月 .
沼崎穂高, 手島昭樹. JATRO DB 委員会 支援活動報告 . 日本放射線腫瘍学会 第 24 回学術大会, 神戸, 2011 年 11 月 .
沼崎穂高, 塚本信宏, 安藤裕, 手島昭樹,
他. IHE-RO と JASTRO DB の連携. 日本放射線腫瘍学会第 24 回学術大会, 神戸, 2011 年 11 月 .
手島昭樹, 沼崎穂高. Japanese National Cancer Database の構築と運用. 第 49 回日本癌治療学会学術総会, 名古屋, 2011 年 10 月 .
壽賀正城, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 呼吸性移動を有する動体への IMRT 適用に向けての QA ソフトウェアの開発. 第 298 回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2011 年 6 月 .
尾方俊至, 手島昭樹, 他. IL-6 受容体抗体による放射線肺傷害抑制のための基礎的検討 (第 2 報). 日本放射線腫瘍学会 第 24 回学術大会, 神戸, 2011 年 11 月 .
有賀拓郎, 戸板孝文, 手島昭樹, 他. 1, 2 期子宮頸癌根治的放射線治療成績遡及的解析全国調査 . 日本放射線腫瘍学会 第 24 回学術大会, 神戸, 2011 年 11 月 .
手島昭樹. がん放射線治療の質と基盤. 平成 23 年度「医用原子力技術に関する研究助成」総合報告会, 東京, 2011 年 7 月
Kinoshita T. A multicenter study of

image-guided radiofrequency ablation of small breast carcinomas in Japan. Gyeonggi-Incheon Breast Cancer Society(GIBCS) 2th Biennial International Symposium, Hong Cheon, Korea, 2011.

Kinoshita T. Neoadjuvant anastrozole or tamoxifen for premenopausal breast cancer: Ki67 expression data from the STAGE study. 2011 ASCO Annual Meeting, Clinical Symposium, Chicago, USA, Jun. 3-7, 2011.

Kinoshita T. Study of sentinel lymph node biopsy after preoperative chemotherapy in patients with breast cancer. ASCO 2011 Breast Cancer Symposium, San Francisco, USA, Sept. 8-10, 2011.

Suzuki J., Kinoshita T., et al. Risk of breast cancer among Japanese women with a positive family history. ASCO 2011 Breast Cancer Symposium, San Francisco, USA, Sept. 8-10, 2011.

佐藤雄哉, 木下貴之, 他. 乳腺 Xanthogranuloma の 1 例 . 第 8 回日本乳癌学会 関東地方会, さいたま市, 2011 年 12 月 .
小倉拓也, 木下貴之, 他. 扁平上皮癌成分を伴った浸潤性乳管癌の 1 例. 第 8 回日本乳癌学会 関東地方会, さいたま市, 2011 年 12 月 .

神保健二郎, 木下貴之, 他. 異時性両側浸潤性微小乳頭癌の 1 例. 第 8 回日本乳癌学会 関東地方会, さいたま市, 2011 年 12 月 .

森田理沙, 木下貴之, 他. Microglandular adenosis に合併した浸潤癌の一例. 第 8 回日本乳癌学会 関東地方会, さいたま市, 2011 年 12 月 .

神谷有希子, 木下貴之, 他. 乳腺紡錘細胞癌の 10 切除例. 第 8 回日本乳癌学会 関東

- 地方会, さいたま市, 2011 年 12 月.
 垂野香苗, 木下貴之, 他. 同時両側性 basal-like subtype 乳癌の 1 例. 第 8 回日本乳癌学会 関東地方会, さいたま市, 2011 年 12 月.
 吉田正行, 木下貴之, 他. 乳癌におけるセンチネルリンパ節 OSNA 法(1+)の意義について. 第 13 回 SNNS 研究会学術集会, 東京都, 2011 年 12 月.
 田村研治, 木下貴之, 他. CEF 療法/パクリタキセル療法±トラスツズマブによる乳癌術前化学療法の病理学的寛解を予測する遺伝子発現プロファイル. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋市, 2011 年 10 月.
 菊山みずほ, 木下貴之, 他. エピジェネティックに不活化された遺伝子の中からがん抑制遺伝子を選別する方法の開発. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋市, 2011 年 10 月.
 吉田正行, 木下貴之, 他. 乳癌におけるセンチネルリンパ節 OSNA 法(1+)の意義: 組織診断との対比と腋窩リンパ節転移との関連. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋市, 2011 年 10 月.
 小野麻紀子, 木下貴之, 他. 乳癌における RPN2 の発現の検討. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋市, 2011 年 10 月.
 長谷部孝裕, 木下貴之, 他. 異型腫瘍間質線維芽細胞. 術前薬物療法乳癌症例の予後因子としての重要性. 第 70 回日本癌学会学術総会, 名古屋市, 2011 年 10 月.
木下貴之, 他. 長期成績からみた乳がんセンチネルリンパ節生検の諸問題と今後の展開. 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011 年 9 月.
木下貴之. 高度医療制度下に実施されている早期乳がんに対する RFA の現状と今後. 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011 年 9 月.
 田村宜子, 木下貴之, 他. 非湿潤癌の外科的治療戦略と術後治療とその予後. 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011 年 9 月.
 長尾知哉, 木下貴之, 他. 若年者乳癌症例からみた若年者検診の意義. 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011 年 9 月.
 中川彩, 木下貴之, 他. 乳房温存療法の長期成績と重複がんの現況. 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011 年 9 月.
 原野謙一, 木下貴之, 他. 腋窩リンパ節転移 1-3 個、ホルモン受容体陽性 HER2 陰性乳癌に対する術後薬物療法に化学療法は必要か? 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011 年 9 月.
 北條隆, 木下貴之, 他. 乳癌術前ホルモン療法の組織学的抗腫瘍効果と効果予測因子の検討. 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011 年 9 月.
 小倉拓也, 木下貴之, 他. 20 代の若年性乳癌患者の画像所見の検討. 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011 年 9 月.
 垂野香苗, 木下貴之, 他. 非湿潤性小葉癌 (LCIS) の病変の広がり と細胞学的悪性度に関する検討. 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011 年 9 月.
 大城泰平, 木下貴之, 他. 非湿潤性小葉癌 (LCIS) 切除例からみた治療方針の検討. 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011 年 9 月.
 河野昌子, 木下貴之, 他. 出産歴のある若年乳癌の臨床病理学的特徴. 第 19 回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011 年 9 月.
 小野麻紀子, 木下貴之, 他. リンパ節転移陰性 Luminal 乳がんの予後について. 第 19

回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011年9月.

大家久晴, 木下貴之, 他. T4乳癌の治療成績からみた外科治療のあり方. 第19回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011年9月.

師田まどか, 木下貴之, 他. 乳房温存療法における仰臥位と腹臥位の放射線治療の線量分布の比較と腹臥位照射の安全性の検討. 第19回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011年9月.

米谷理沙, 木下貴之, 他. 家族性乳がん患者の臨床・病理学的検討. 第19回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011年9月.

岩本恵理子, 木下貴之, 他. カテゴリー3の石灰化についての検討 -針生検の適応と病理学的特徴-. 第19回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011年9月.

前田将宏, 木下貴之, 他. 湿潤性小葉癌の進展様式からみた臨床病理学的検討. 第19回日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011年9月.

大城泰平, 木下貴之, 他. 非浸潤性小葉癌(LCIS)の臨床的意義と治療方針. 第111回日本外科学会定期学術集会, サージカルフォーラム, 紙上開催, 2011年5月.

田村宜子, 木下貴之, 他. Occult breast cancerの臨床病理学的特徴と治療戦略. 第111回日本外科学会定期学術集会, 紙上開催, 2011年5月.

木下貴之, 他. RVS(Real-time Virtual Sonography)を応用した乳がん低侵襲局所療法の開発. 第111回日本外科学会定期学術集会, サージカルフォーラム, 紙上開催, 2011年5月.

堀周太郎, 木下貴之, 他. 乳がんセンチネルリンパ節 ミクロ転移例における腋窩リ

ンパ節転移マッピング. 第111回日本外科学会定期学術集会, 紙上開催, 2011年5月.

前田将宏, 木下貴之, 他. 乳腺浸潤性小葉癌の臨床病理学的検討. 第111回日本外科学会定期学術集会, 紙上開催, 2011年5月.
山内智香子. 放射線治療 その治療成績と課題(乳がん) 第49回 日本癌治療学会総会 名古屋市, 2011年10月.

山内智香子. 早期乳癌に対する乳房温存療法の長期成績と有害事象 第19回 日本乳癌学会学術総会, 仙台市, 2011年9月.

中村和正. 放射線治療部門システムへの提言: 現状と将来を考える. 日本放射線腫瘍学会第24回学術大会, 神戸, 2011年11月.

角美奈子. 小児腫瘍に対する放射線治療の現状: 小児腫瘍に対する放射線治療の現状と問題点(photonの立場から). 日本放射線腫瘍学会第24回学術大会, 神戸, 2011年11月.

Toita T, et al. Clinical target volume (CTV) for primary disease in external beam radiotherapy for intact uterine cervical cancer. The 17th International Meeting of the European Society of Gynaecological Oncology, Milan, Italy, Sept. 11-14, 2011.

戸板孝文. 子宮頸癌に対するCCRT: 今後取り組むべき課題. 第50回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 札幌, 2011年7月.

戸板孝文. 子宮頸癌及び子宮体癌取り扱い規約の改訂: 放射線治療. 第50回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 札幌, 2011年7月.

権丈雅浩, 他. 放射線治療を行った低悪性度神経膠腫症例の検討. 日本放射線腫瘍学会第24回学術大会, 神戸, 2011年11月.

権丈雅浩. 食道癌. 第47回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 下関, 2011年10月.

権丈雅浩. 総論(放射線防護). 第116回日本

- 医学放射線学会中国四国地方会, 広島 2011年5月.
- 権丈雅浩. 教育講演・食道癌. 第70回日本医学放射線学会, 横浜, 2011年4月.
- 鹿間直人. 「がん診療連携拠点病院の指定要件改定に向けての提言」. 日本放射線腫瘍学会第24回学術大会, 神戸, 2011年11月.
- Onishi H., et al. Value of dual time point F-18 FDG-PET/CT imaging for the evaluation of prognosis and risk factors for recurrence in patients with stage I non-small cell lung cancer treated with stereotactic body radiation therapy. 53rd American Society for Therapeutic Radiology and Oncology annual meeting, Florida, USA, Oct. 2-6, 2011.
- 八木雅史, 小泉雅彦, 他. ビーム軸方向の線量測定における Gafchromic film EBT2 を用いた水中測定の有効性. 第101回日本医学物理学会学術大会, Web 開催 2011年4月
- Nakagawa K., et al. Beam's eye view based verification of actual delivery using in-treatment 4D cone-beam CT. ESTRO International Oncology Forum London, England, MAY 8-12, 2011.
- 中川恵一 他, 肺癌 SRT における照射野設定についての評価. 日本放射線腫瘍学会第24回学術大会, 神戸, 2011年11月.
- Terahara A., et al. Volume dose prescription in stereotactic body radiotherapy for lung cancer. European Multidisciplinary Cancer Congress Stockholm, Sweden, Sept. 23-27, 2011.
- 寺原敦朗, 他. 前立腺癌外照射における線量分布と直腸有害事象との関係に関する検討 日本放射線腫瘍学会第24回学術大会, 神戸, 2011年11月.
- 2010
- Takegawa H., Numasaki H., Teshima T., et al. Monte Carlo dose calculation accounting for double dynamic systems. 52nd Annual Meeting of American Society of Radiation Oncology (ASTRO), San Diego, USA, Oct.30-Nov.4, 2010.
- Ueyama S., Numasaki H., Teshima T., et al. 4D treatment planning for lower thoracic spine metastasis: impacts of respiratory motion on dose distributions. 52nd Annual Meeting of American Society of Radiation Oncology (ASTRO), San Diego, USA, Oct.30-Nov.4, 2010.
- Toita T., Kodaira T., Shikama N., Kenjo M., Numasaki H., Teshima T., et al. Prospective multi-institutional study of definitive radiotherapy with high-dose rate intracavitary brachytherapy in patients with non-bulky (<4cm) stage I,II uterine cervical cancer (JAROG0401/JROSG04-2). 52nd Annual Meeting of ASTRO. San Diego, USA Oct.31-Nov. 5, 2010
- Yoshioka M., Numasaki H., Teshima T., et al. Improved dose sensitivity of normoxic polyacrylamide gelatin gel dosimeter with sucrose. The 6th International Conference on 3D Radiation Dosimetry, South Carolina, USA, Aug. 22-26, 2010.
- Sato K., Numasaki H., Teshima T., et al. Direct observation of p53 mediated bystander effect. 9th International Microbeam Workshop, Darmstadt, Germany, Jul. 18-25, 2010.
- 吉岡宗徳, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 無機塩

を添加した normoxic ポリアクリルアミド
ゲル線量計の基礎特性 第 100 回日本医学
物理学会学術大会, 東京, 2010 年 9 月
上山新吾, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 脊椎照
射における Risk に関する検討-3 -呼吸性移
動の影響- 第 22 回 日本高精度放射線外部
照射研究会, 滋賀, 2010 年 7 月
佐藤克俊, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. レー
ザープラズマ X 線源の放射線生物学応用
第 11 回 光量子科学研究シンポジウム, 木
津川, 2010 年 6 月
林達也, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. フラット
ニングフィルタ除去リニアックの線量特性
第 99 回 日本医学物理学会学術大会, 横浜,
2010 年 4 月
北村貴明, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他.
Cone-beam CT 投影画像を用いた呼吸信号
の抽出 第 99 回日本医学物理学会, 横浜,
2010 年 4 月
小野智博, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. MLC を
用いた動体追跡照射における線量分布評価
第 99 回 日本医学物理学会学術大会, 横浜,
2010 年 4 月
錦野将元, 沼崎穂高, 手島昭樹, 他. 超短パ
ルスレーザープラズマ X 線ビームの放射線
生物影響研究への応用 レーザー学会学術
講演会 第 30 回年次大会, 吹田, 2010 年 2 月
Teshima T. Current status of JPCS and 03-05
survey results. QRRO Educational Session,
2010/11/4, 52nd Annual Meeting of American
Society of Radiation Oncology (ASTRO), San
Diego, USA, Nov.4, 2010.
Toita T., Kodaira T., Teshima T., et al.
Prospective multi-institutional study of
definitive radiotherapy with high-dose-rate
intracavitary brachytherapy in early stage

uterine cervical cancer: A cooperative study of
Japan Radiation Oncology Group (JAROG)
and Japanese Radiation Oncology Study Group
(JROSG). 52nd Annual Meeting of American
Society of Radiation Oncology (ASTRO), San
Diego, USA, Oct.30-Nov.4, 2010.
Isono M., Teshima T., et al. Suppression of
metastatic potential of cancer by heavy ion
particle irradiation. 9th International Conference
of the Asian Clinical Oncology Society, Gifu,
Japan, Aug. 25-27, 2010.
Tsuchiya T., Teshima T., et al. Inhibition of
angiogenesis by heavy ion particle irradiation.
9th International Conference of the Asian
Clinical Oncology Society, Gifu, Japan, Aug.
25-27, 2010.
Teshima T. Acknowledgement speech as the
recipient of 2010 ACR Honorary Fellowship,
ACR Convocation, 2010/5/16. The American
College of Radiology 87th Annual Meeting and
Chapter Leadership Conference (AMCLC),
Washington DC, USA, May. 15-19, 2010.
金岡尚利, 手島昭樹, 他. 頭頸部 2phase
IMRT における線量積算法 第 296 回 日本
医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2010 年
11 月.
光森通英, 宇野隆, 大西洋, 権丈雅浩,
小泉雅彦, 古平毅, 鹿間直人, 角美奈子,
手島昭樹, 戸板孝文, 中村和正, 他.
医療実態調査研究による放射線治療施設基
準化(案)の改訂 日本放射線腫瘍学会
第 23 回学術大会, 浦安, 2010 年 11 月.
小川和彦, 中村和正, 大西洋, 小泉雅彦,
手島昭樹, 他. ホルモン耐性限局性前立腺
癌に対する放射線治療: nPSA12 の臨床的意
義について 日本放射線腫瘍学会第 23 回

- 学術大会, 浦安, 2010年11月.
- 沼崎穂高, 塚本信宏, 安藤裕, 手島昭樹, 他. 日本のIHE-ROの活動(HIS-治療RIS間情報連携の標準化) 日本放射線腫瘍学会 第23回学術大会, 浦安, 2010年11月.
- 戸板孝文, 手島昭樹, 他. 期子宮頸癌根治的放射線治療の多施設共同臨床試験 (JAROG0401/JROSG04-2) 日本放射線腫瘍学会 第23回学術大会, 浦安, 2010年11月.
- Minami K., Teshima T., et al. Effects of novel radiosensitizer 2-nitroimidazole acetamide derivatives on radiation therapy for non-small-cell lung cancer. 第53回日本放射線影響学会, 京都, 2010年10月.
- 小澤壯治, 日月裕司, 宇野隆, 手島昭樹, 沼崎穂高, 他. 食道癌全国登録の現状と将来展望 第64回日本食道学会学術大会, 久留米, 2010年8月.
- Kasamatsu T., et al. Radical hysterectomy for FIGO stage I-IIb adenocarcinoma of the uterine cervix. 13th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society, Prague, Czech Republic, Oct. 23-26, 2010.
- Ikeda S., Kasamatsu T., et al. Risk stratification in patients with stage IB-IIa cervical cancer without parametrial invasion or pelvic lymph node metastases after radical hysterectomy. 13th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society, Prague, Czech Republic, Oct. 23-26, 2010.
- Nishio S., Kasamatsu T., et al. Clinicopathological significance of cervical adenocarcinoma associated with lobular endocervical glandular hyperplasia. 13th Biennial Meeting of the International Gynecologic Cancer Society, Prague, Czech Republic, Oct. 23-26, 2010.
- Kinoshita T. A multicenter study of image-guided radiofrequency ablation of small breast carcinomas. 35th ESMO Congress. Milan, Italy, 2010.
- Kinoshita T. New UICC staging system for cancer (TNM-7): problems and future perspectives in breast cancer. 69th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. International Sessions, Osaka, Japan, 2010.
- Akashi-Tanaka S., Kinoshita T., et al. Optimal selection of neoadjuvant therapy using multigene expression profile and Ki67 for hormone sensitive breast cancer. 69th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. Osaka, Japan, 2010.
- Ono M., Kinoshita T., et al. Predictive markers for response to neoadjuvant chemotherapy in triple-negative breast cancer. 69th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. Osaka, Japan, 2010.
- Kikuyama M., Kinoshita T., et al. Search for novel tumor-suppressor genes in human breast cancers. 69th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. Osaka, Japan, 2010.
- Tsuda H., Kinoshita T., et al. Molecular pathological diagnosis for personalized medicine for patients with breast cancer. 69th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. Symposia on Specific Tumors, Osaka, Japan, 2010.
- Hasebe T., Kinoshita T., et al. p53 expression in tumor-stromal fibroblasts forming fibrotic foci in invasive ductal carcinoma of the breast. 69th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association. Osaka, Japan, 2010.

Kinoshita T. Feasibility and accuracy of sentinel lymph node biopsy after preoperative chemotherapy in breast cancer patients. 7th European Breast Cancer Conference. Barcelona, Spain, 2010.

垂野香苗, 木下貴之, 他. 10cm 大に広がった非浸潤性小葉癌の 1 例. 第 7 回日本乳癌学会関東地方会, 大宮市, 2010 年 12 月

堀周太郎, 木下貴之, 他. 乳がんセンチネルリンパ節における微小転移、isolated tumor cells の臨床的意義 - 腋窩リンパ節郭清は省略可能か? -. 第 12 回 SNNS 研究会学術集会, 横浜市, 2010 年 11 月

北條隆, 木下貴之, 他. 乳がんに対する蛍光法によるセンチネルリンパ節生検における輝度値の検討. 第 12 回 SNNS 研究会学術集会, 横浜市, 2010 年 11 月

長尾知哉, 木下貴之, 他. OSNA (One-step Nucleic acid Amplification) 法での乳癌センチネルリンパ節至適摘出個数の検討. 第 12 回 SNNS 研究会学術集会, 横浜市, 2010 年 11 月

木下貴之, 他. 乳癌に対する術前化学療法と低侵襲化治療の最前線. 第 48 回日本癌治療学会学術集会, 京都市, 2010 年 10 月

北條隆, 木下貴之, 他. 乳癌術前アロマターゼ阻害剤の投与期間に関する新しい知見. 第 48 回日本癌治療学会学術集会, 京都市, 2010 年 10 月

長尾知哉, 木下貴之, 他. センチネルリンパ生検で腋窩郭清範囲を規定できるか. 第 48 回日本癌治療学会学術集会, 京都市, 2010 年 10 月

津田均, 木下貴之, 他. 乳房温存療法とセンチネルリンパ節生検における病理診断. 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市,

2010 年 6 月

加賀美芳和, 木下貴之, 他. 治療期間が短縮される乳房温存療法での 3D-CRT による加速乳房部分放射線治療 (APBI). 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月

長尾知哉, 木下貴之, 他. 局所再発因子からみた乳房切除後放射線治療の検討. 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月

木下貴之, 他. 術前化学療法後乳癌症例に対するセンチネルリンパ節生検の長期成績に基づく諸問題. 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月

枝園忠彦, 木下貴之, 他. 転移性乳癌の治療戦略としての原発巣切除の意義. 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月

菅野康吉, 木下貴之, 他. 遺伝相談外来を受診した BRCA1/2 遺伝子変異を有する遺伝性乳がん卵巣がん家系の臨床遺伝学的特徴. 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月

北條隆, 木下貴之, 他. 術前術後内分泌療法からみたサブタイプ別の治療効果の検討と展望. 第 18 回日本乳癌学会学術総会札幌市, 2010 年 6 月

河野晶子, 木下貴之, 他. Stage ホルモン受容体陽性 (HR+) 乳癌におけるホルモン療法 (ET) の効果予測因子. 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月

田村宜子, 木下貴之, 他. 各種ノモグラムの検証からみたセンチネルリンパ節生検陽性例への非郭清の可能性. 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月

岡田菜緒, 木下貴之, 他. 若年性乳癌患者

- の好孕性温存に対する意識と治療方針選択 . 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月
- 北川美智子, 木下貴之, 他 . Invasive micropapillar carcinoma 74 例の臨床病理学的検討 . 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月
- 長谷部孝裕, 木下貴之, 他 . リンパ管腫瘍塞栓組織異型度 . 術前薬物療法浸潤性乳癌患者の重要な予後因子 . 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月
- 長尾知哉, 木下貴之, 他 . 術前化学療法後乳房温存療法の長期成績と問題点 . 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月
- 尾上俊介, 木下貴之, 他 . 乳房 Paget's 病に対する乳房温存療法の可能性 . 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月
- 垂野香苗, 木下貴之, 他 . 乳腺 Matrix-producing carcinoma 7 例の臨床病理学的検討 . 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月
- 小野麻紀子, 木下貴之, 他 . トリプルネガティブ乳癌 (TNBC) における病理学的治療効果予測因子 : 組織亜型と腫瘍浸潤リンパ球 (TIL) . 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月
- 菊山みずほ, 木下貴之, 他 . 高頻度の CpG アイランドの DNA メチル化と HER2 過剰発現の強い関連 . 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月
- 岩本恵理子, 木下貴之, 他 . 乳癌早期発見に対する画像診断とそのアプローチ . 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月
- 中村ハルミ, 木下貴之, 他 . 乳癌における非浸潤癌成分比率の違いを生じる背景因子としての年齢と乳腺症 . 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月
- 土井淳司, 木下貴之, 他 . 破骨細胞様巨細胞を伴う乳癌の 12 症例 . 第 18 回日本乳癌学会学術総会, 札幌市, 2010 年 6 月
- 木下貴之, 他 . 高度医療に係る早期乳がんに対するラジオ波焼灼療法 (RFA) 多施設共同研究 . 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 名古屋市, 2010 年 4 月
- 明石定子, 木下貴之, 他 . 21 遺伝子発現プロファイルを用いたリスク分類は乳癌術前内分泌療法の効果予測において病理診断を超えられるか . 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 名古屋市, 2010 年 4 月
- 長尾知哉, 木下貴之, 他 . 乳癌センチネルリンパ節生検における至適摘出個数の検討 - 生検と郭清の境界は? - . 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 名古屋市, 2010 年 4 月
- 與田幸恵, 木下貴之, 他 . 乳癌家族歴を持つ乳癌患者の臨床・病理学的検討 . 第 110 回日本外科学会定期学術集会, 名古屋市, 2010 年 4 月
- 中村和正. 「強度変調放射線治療を含めた前立腺癌外部照射のエビデンス」 . 第 22 回日本高精度放射線外部照射研究会 大津市 2010 年 7 月
- 馬屋原博, 角美奈子, 他 . 前立腺癌に対する超音波位置決め装置と OBI を使用した IGRT 日本放射線腫瘍学会第 23 回学術大会 千葉市 2010 年 11 月
- Kodaira T. Chemoradiotherapy for head and neck cancer; Improving benefits using IMRT and molecular target agent. International Conference of Asian Clinical Oncology Society 9th International Conference of the Asian

Clinical Oncology Society, Gifu, Aug. 25-27, 2010

古平毅. 頭頸部 IMRT を中心に 第 23 回日本放射線腫瘍学会, 千葉市, 2010 年 11 月

古平毅, 他. 高精度治療および短期照射治療に伴う有害事象 頭頸部癌 IMRT 症例の唾液腺機能評価の検討. 第 23 回日本放射線腫瘍学会, 千葉市, 2010 年 11 月

古平毅, 他. 臨床試験セミナー~実施に向けてエキスパートに聞く~0701 の臨床試験の経験から得たもの. 第 23 回日本放射線腫瘍学会, 千葉市, 2010 年 11 月

古平毅, 他. がん治療における放射線医学の新しい展開 高精度放射線治療の臨床への浸透 IMRT, IGRT を中心に. 第 48 回癌治療学会, 京都市, 2010 年 10 月

古平毅, 他. 「高精度放射線治療の最新エビデンス」EBM から見た頭頸部癌 IMRT の現状と展望. 第 22 回日本高精度放射線外部照射研究会, 滋賀市, 2010 年 7 月

古平毅, 治療 1 高精度放射線治療 IMRT : 第 69 回日本医学放射線学会総会. 横浜市, 2010 年 4 月

Kenjo M., et al. Sequential Chemoradiotherapy with 24 Gy of cranial irradiation for intracranial germinoma diagnosed with MRI. 52th Annual Meeting of the American Society for Therapeutic Radiology and Oncology, San Diego, USA, Oct.30-Nov.4, 2010.

権丈雅浩, 他. 脳腫瘍に対する強度変調放射線治療の検討. 第 114 回日本医学放射線学会中国四国地方会, 今治市 2010 年 6 月

鹿間直人. 「早期乳癌に対する部分加速照射・短期照射」. 第 69 回日本医学放射線学会総会. 横浜市, 2010 年 4 月

Onishi H., et al. Rib fracture after stereotactic

body radiotherapy in 177 patients with stage I non-small cell lung cancer stage I non-small cell lung cancer. ASTRO's 52nd Annual Meeting, San Diego, USA, Oct.30-Nov.4, 2010.

Konishi K., Koizumi M., et al., Monotherapeutic high-dose-rate brachytherapy for prostate cancer: 15 years experience of Osaka University, ASTRO's 52nd Annual Meeting, San Diego, USA, Oct.30-Nov.4, 2010. Tsukamoto T., Ando Y., Numasaki H., et al.

Enterprise schedule integration profile (ESI) proposed for HIS and TMS cooperation - a new IHE integration profile in radiation oncology domain, 24th International Congress and Exhibition, Geneva, Switzerland, Jun. 2010 Terahara A., Nakagawa K., et al. Initial clinical experience of volumetric modulated arc therapy for head and neck boost using Monaco.

ESTRO 29 Barcelona, Spain, Sept., 2010

寺原敦朗, 他. 放射線治療 RIS と診療科 DB との連携構築. 日本放射線腫瘍学会第 23 回学術大会 浦安市 2010 年 11 月

Sasaki S., Treatment options in cases of local or distant recurrence of esophageal cancer that were initially treated with chemoradiation. 12th World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus. Kagoshima, Sept. 2-5, 2010

H . 知的財産権の出願・登録状況

1 . 特許取得

大西洋, 他. 胸腹 2 点式簡易型呼吸位相表示装置 (Abches)

戸板孝文. 患者移送用寝台及び患者移送システム (日本にて申請中: 出願番号 2012-091461)

2 . 実用新案登録

手島昭樹, 他. 放射線照射試料用シャーレ及び放射線照射方法 (特願 2009-220831)

3 . その他

角美奈子. 肺癌診療ガイドライン(2014年版) 日本肺癌学会 作成協力者

光森通英, 山内智香子, 他. 放射線治療小委員会. 患者さんのための乳癌診療ガイドライン 2012年版, 日本乳癌学会編.

明石定子, 山内智香子, 他. 臨床・病理乳癌取扱規約第 17 版, 日本乳癌学会編. 規約委員会委員

中村和正. 放射線治療ガイドライン(2012年版), II. 前立腺癌 —外部照射法—, 日本放射線腫瘍学会編, ワーキンググループ委員

大西洋. 放射線治療計画ガイドライン(2012年版), 日本放射線腫瘍学会編, 呼吸性移動対策

角美奈子. 肺癌診療ガイドライン(2010年版) 日本肺癌学会 作成協力者

角美奈子. 小児がん診療ガイドライン(2011年版) 日本小児がん学会 Ewing 肉腫ファミリー腫瘍

光森通英, 鹿間直人, 山内智香子, 他. 科学的根拠に基づく乳癌診療ガイドライン治療編 2011年版 日本乳癌学会編.

中川恵一. 中学生向けがん教育教材 DVD 「がんちゃんの冒険」 公益財団法人日本対がん協会支援, 文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課 制作協力.